

令和6年度

障害者支援施設 めぶき園
ライフサポートセンター なごみ園
大分県発達障がい者支援センター ECOAL
ホームヘルプサービスセンター らすかる
グループホーム かわしま
障害福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい
相談支援事業所 プラス
いぬかいこども園
こぎいこども園
へつぎ保育園
こども発達・子育て支援センター なかよしひろば
こども発達支援センター 大分なごみ園
こども発達・子育て支援センター わくわくかん
相談支援事業所 プラスα

事業報告書

社会福祉法人 萌葱の郷

目 次

法人本部事業経過	1
----------	---

障害者支援施設 めぶき園 事業報告

第1章 療育活動	3
第2章 給食	18
第3章 医療・保健衛生	20
第4章 防災関係	23
第5章 家族との連携	24
第6章 利用者の状況	25
第7章 職員研修実施状況	26
第8章 日中一時・ショートステイ利用状況	27

ライフサポートセンター なごみ園 事業報告

第1章 療育活動	28
第2章 利用者の来園状況	32
第3章 職員の体制	34
第4章 職員会議・実習生の受け入れについて	35
第5章 総括	36

大分県発達障がい者支援センター ECOAL 事業報告

第1章 相談支援・発達支援	39
第2章 就労支援	43
第3章 普及啓発・研修	46
第4章 職員の体制	47
第5章 職員への研修	47
第6章 総括	47

ホームヘルプサービスセンター らすかる 事業報告

第1章 基本理念	49
第2章 利用者の利用状況	50
第3章 総括	50

グループホームかわしま 事業報告

目的	52
総括	55

障害福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい 事業報告

第1章 運営理念	58
第2章 施設の概要	58
第3章 事業概要	58
第4章 社会適応訓練	63
第5章 職員研修実施状況	64

相談支援事業所 プラス 事業報告

第1章 計画作成状況	65
第2章 職員研修・協議体・講師等実施状況	65
第3章 職員体制	66
第4章 総括	66

いぬかいこども園 事業報告

第1章 施設運営	67
第2章 施設管理	76
第3章 諸機関との連携	76
第4章 総括	80

こざいこども園 事業報告

第1章 施設運営	81
第2章 施設管理	89

第3章 諸機関との連携	90
第4章 総括	91

へつぎ保育園 事業報告

第1章 施設運営	92
第2章 施設管理	99
第3章 諸機関との連携	99
第4章 総括	99

こども発達・子育て支援センター なかよしひろば 事業報告

第1章 療育活動	101
第2章 利用者の来園状況	106
第3章 職員の体制	107
第4章 地域・施設交流実施状況	107
第5章 総括	112

こども発達支援センター 大分なごみ園 事業報告

第1章 療育活動	114
第2章 利用者の来園状況	118
第3章 職員の体制	119
第4章 研修等実施状況	119
第5章 総括	120

こども発達・子育て支援センター わくわくかん 事業報告

第1章 療育活動	121
第2章 利用者の来園状況	127
第3章 職員の体制	127
第4章 地域・施設交流実施状況	128
第5章 総括	136

相談支援事業所 プラスα 事業報告

第1章	計画作成状況・・・・・・・・・・・・・・・・	139
第2章	職員研修・協議体・講師等実施状況・・・・・・・・	139
第3章	職員体制・・・・・・・・・・・・・・・・	140
第4章	総括・・・・・・・・・・・・・・・・	140

法人本部事業経過

令和6年

5月30日 令和6年度第1回理事会（萌葱の郷 法人本部）

議案

- 第1号議案 令和5年度社会福祉法人萌葱の郷事業報告について
- 第2号議案 令和5年度社会福祉法人萌葱の郷決算報告について
- 第3号議案 社会福祉法人萌葱の郷定款変更について
- 第4号議案 社会福祉法人萌葱の郷なごみ園運営規程の改定について
- 第5号議案 その他

6月29日 令和6年度定時評議員会（大分センチュリーホテル）

議案

- 第1号議案 令和5年度社会福祉法人萌葱の郷決算の承認について
- 第2号議案 社会福祉法人萌葱の郷定款変更について
- 第3号議案 その他

6月29日 令和6年度第2回理事会（大分センチュリーホテル）

議案

- 第1号議案 社会福祉法人萌葱の郷給与規則の改正について
- 第2号議案 その他

令和7年

3月24日 令和6年度第3回理事会（萌葱の郷 法人本部）

議案

- 第1号議案 令和6年度社会福祉法人萌葱の郷最終補正予算（案）について
- 第2号議案 令和7年度社会福祉法人萌葱の郷事業計画（案）について
- 第3号議案 令和7年度社会福祉法人萌葱の郷当初予算（案）について
- 第4号議案 令和7年度社会福祉法人萌葱の郷事業所管理者について
- 第5号議案 社会福祉法人萌葱の郷旅費規程の改正について
- 第6号議案 社会福祉法人萌葱の郷就業規則の改正について
- 第7号議案 社会福祉法人萌葱の郷こざいこども園園則の改定について

第 8 号 議 案 社会福祉法人萌葱の郷プラスα運営規程の改定について

第 9 号 議 案 その他

めぶき園事業報告

第1章 療育活動

1. 日 課

時 間	日 課
7 : 0 0	起床（更衣、洗面、布団あげ、検温）
8 : 0 0	朝食（与薬、歯磨き、食堂清掃） 清掃（全体及び居室） 洗面、歯磨、髭剃、（水曜日は爪切、隔週の金曜日でリネン交換）
1 0 : 0 0	午前生産活動開始（各課毎にミーティング） （全体行事の時は全体ミーティング）
1 1 : 5 0	午前生産活動終了
1 2 : 0 0	昼食（与薬、歯磨き、食堂清掃）、自由時間 （毎月第3週の1週間、昼食後にコーヒータイム実施）
1 3 : 3 0	午後生産活動開始 （火曜日はグループ別療育活動、水曜日はウォーキング、木曜日はクラブ活動） 午後生産活動終了
1 5 : 3 0	お茶の時間
1 5 : 4 5	入浴 自由時間
1 6 : 0 0	夕食（与薬、歯磨き、食堂清掃）
1 8 : 0 0	余暇活動（カラオケ、ビデオ、音楽鑑賞、太鼓）
1 8 : 3 0	自由時間（火曜日・おやつ 金曜日・コーヒータイム） 与薬、学習（日記、小遣い帳記入）
2 0 : 3 0	就寝準備
2 1 : 0 0	就寝
2 2 : 0 0	

2. 生 活

（1）食 事

<目 標>

正しい食事マナーを身につけ、健康・衛生に留意し、好き嫌いをなく楽しく食べる。

<総 括>

食前の手洗いは身に付いてきているが、液体石鹸を使用しない、部分的にしか洗わない等が依然としてある為、今後も声かけを継続し、定着していくよう支援していく。

配膳時は、アレルギーや食事量などの制限がある利用者のお膳には名札を付け、取り違えないように声かけ等の支援をしている。また、1人ずつ名前を呼ぶことで、利用者同士が接触してトラブルに至ることは減少しているが、勢いよくお膳をもっていく、お膳を傾けて持つ、机に激しくお膳を置き汁物をこぼす等は依然としてみられる為、今後も継続して支援していく。

食事中の食べこぼしが減少しているが、床に落ちた物を拾って食べようとすることがある為、声かけや職員がすぐに拾う等の支援を継続していく。お茶を多量に飲む、コップから溢れるまで注ぎ続ける、ご飯粒など手を使用して食べる、皿を舐める事は依然としてある為、今後も継続して声かけ等の支援を行う。皿やお膳、コップを投げることはほとんど見られていないが、その日の利用者の状態によっては職員が傍に付き、見守りなどの支援を行い、一時的にコップを変更するなどの対応を今後も継続していく。

食事量は、体重等を考慮しながら白米の1杯目の量やおかわりの量を調整することで、過食や偏食も改善されてきている。苦手な物は、職員が見守り等の支援を行いながら少量ずつ食べることで完食することが増えているが、苦手な物を残し、皿をシンクに投げ入れる等の行為も見られる為、投げる前に預かることや声かけ等の支援を今後も行っていく。

反芻のある利用者には、食後も職員が見守る事で吐き出す事はほとんど見られなくなっており、ゴミ箱や洗面所等に吐き出してしまうことは減少している。かき込むように口いっぱい頬張り、咀嚼せずに飲み込んでしまう利用者には、今後も見守りや声かけを行っていく。咀嚼せずに丸飲みしてしまう利用者には刻み食にして、小皿に移して少量ずつ食べるよう対応している。

冬季には温かいお茶を提供しており、好んで飲む利用者もいる為、今後も継続していく。

下膳時、カウンターの隅に置き落としそうになることや他利用者を押しのけて置くこと等があり、残菜やゴミを捨てる際は声かけ等の支援が必要な利用者もいる為、今後も継続して支援を行っていく。

(2) 排 泄

<目 標>

失禁、夜尿、放尿を改善し、排泄後の処理を身につける。

<総 括>

ドアの開閉を強く行う、必要以上に開閉を繰り返す、ペーパーホルダーや便座の蓋を外して壊す、電気のスイッチを強く押す、叩くことで壊してしまうことがある為、見守りや声かけ等の支援を行い、可能な限り一緒に修理に取り組んでいる。

トイレのスリッパを履き替えない、履いている室内スリッパの上から履く、裸足のまま入る利用者もいる為、今後も声かけ等の支援をしていく必要がある。居室やトイレに入る前の廊下、トイレ内の個室入り口でズボンの脱衣することや、トイレの床で脱いでしまい衣類が汚してしまう利用者には都度声かけ等の支援を今後も継続していく。

排尿しながら便器を移動することで衣服や床を濡らす、便器内に排尿や排便せずに周囲を汚してしまうこともある為、今後も見守り、声かけ等の支援を行う。

使用したい便器にこだわり、空くまで我慢して失禁してしまう利用者や他者が使用しているところに割り込む、他利用者がトイレに入っている際に電気を消す等でトラブルに至ることがあった為、今後も定期的に観察し、見守りや声かけ等の支援を継続していく。

トイレ誘導は日中、夜間を問わず定期的に行っているが、居室内や洗面所のごみ箱などトイレ以外の場所で排尿・排便することは依然として見られており、トイレに行くが間に合わないこともある為、早めに声かけ等をしながら継続して支援する。

トイレトーパーを使用せずにズボンを履く、少量しか使用せずに拭き残しのある利用者もいるため、声かけ等の支援を行っている。こだわりで多量にトイレトーパーを使用する、量が少なくなると芯から無理に外す利用者もいる為、トイレトーパーが無くなるよう定期的に補充を行った。

トイレ使用後の手洗いは、液体石鹸を使用せずに洗うことや、指先等の部分的にしか洗わないことがあるため、見守りや声かけを継続し、定着していくよう支援していく。

(3) 身だしなみ

<目 標>

衣服の乱れに留意し、爪切り、整髪、髭剃などの身だしなみを身につける。

<総 括>

上着の前後表裏が反対になっている、下着のシャツが出た状態である、ボタンを掛け違えている等の衣服の乱れはまだ見られている為、声かけ等の支援を継続していく。また、ズボンのチャックを上げ忘れもある為、着替えの後やトイレに行った際などは特に注意して観察し、その都度声かけ等を行う。

衣服の取り扱いや交換が難しい利用者には、職員が衣服を管理することで適切で清潔な衣類を保つことが出来た。

同じ衣類を繰り返し着衣する、特定の衣類を身に着けない、何枚も重ね着をする等のこだわりがある利用者に対して職員と一緒に更衣を行うことや洗濯に持って行くなど声かけ等の支援を行っている。汚れや破れ、ほつれ、肌への感覚を気にして衣類を意図的に破ってしまい破棄することもある為、着替えや補修などの素早い対応を今後も心掛ける。

季節に応じてタンスの衣類を調整し、1日の中で寒暖差がある日や運動などで身体を動かした際は、衣服の調節を行う必要があるためその都度、観察し支援を行った。

髭剃りは利用者個別のものを使用し、剃る場所を職員が声かけ、指差しなどで提示することで髭剃りの技術が身につくにつくにつくある為、今後も継続していく。

爪切りは個別用を使用し、毎週水曜日に取り組んでいる。随時観察し、角張っている時や爪が割れた時にはその都度対応している。切り終えた後は、ヤスリで磨いているものの、爪を気にして触る、爪や皮をはがす、逆剥けを触るなどすることで出血する利用者もいた為、

今後も継続して支援していく。

(4) 入 浴

<目 標>

洗身、洗髪、拭き取りなどの入浴技術を身につける。

① 男 性

<総 括>

入浴前、排泄の拭き残しがある人には、声かけ等の支援やトイレ誘導を行ったが浴室や浴槽内で排尿、排便や嘔吐することは変わらず見られている。自らタオルや衣類など入浴準備をし、食堂や居室で過ごすことが出来ているが、時間や順番が待てずに状態が落ち着かなくなることがあった。また、入浴時間になると、走って浴場に向かうことや他者を押しのけて入ろうとする為、トラブルに至ることもあり、今後も支援を継続していく。

入浴準備の際、衣類等の過不足や気候に合わせた衣類の選択ができていないこともある為、今後も声かけや職員と一緒に準備する等の支援が必要である。

浴室に入る際にスリッパを揃えて入浴に向かう利用者が増えているが、他者のスリッパを踏む、押しのけること等もある為、今後も支援を継続していく。石鹸やリンスインシャンプー等を多量に使用する、泡立てることにこだわる、浴槽に飛び込むことは減少しており、浴槽内の湯や蛇口の水を飲むことは見られなくなった。浴槽内に入る際に転倒防止の為、手すりを設置している。洗身洗髪の際、一部分のみ洗い、手が届きにくい所などが不充分である利用者もいる為、声かけ等の支援を行いながら自分で洗うよう促し、足りない部分は職員が仕上げを行っている。

長時間、浴槽につかり、遊んでいる利用者には時間を伝える等をしたことで、スムーズに浴槽から出てもらうことが出来てきている。

衣類を着衣しない状態で館内に出て行くことやトイレに行く、髪を乾かさずに出ることもある為、今後も声かけ等の支援を継続していく。

皮膚が過敏な利用者には個別のシャンプーや石鹸、洗顔等を準備し、入浴後に保湿クリームを塗布するなど改善に努めた。

入浴時の観察により、皮膚の異常や怪我の早期発見・処置を行うことができた。

② 女 性

<総 括>

入浴準備の際、衣類等の過不足や気候に合わせた衣類の選択になっていないことは依然として見られる為、今後も確認して声かけ等の支援を行っていく。

皮膚が過敏な利用者には個別にシャンプーを準備している。また、入浴後に保湿クリームの塗布や化粧水の使用を今後も継続して行っていく。

洗身洗髪は、丁寧に組み立てようになつてはいるが、本人の見えにくい部分や手が届きにくい場所は不十分であり、洗い残しや泡が残っていることもある為、声かけ等の支援を行った。リンスインシャンプーを多量に使用することは、減少しているが、今後も事前の声かけなどを継続していく。着替えの際も特に背中など拭き残しがある為、声かけ等の支援を継続し、職員が仕上げの拭き上げを行っていく。

下着の紐等がねじれていることや正しく着衣できていないことがあった為、声かけ等、利用者自身に取り組んでもらい、手の届きにくい所は職員が行うことで正しく着衣できている。

道具の取り扱いについては、声かけを続けたことで破損することは減少している。

入浴時の観察により、皮膚の異常や怪我の早期発見・処置を行うことができた。

(5) 洗面・歯磨き

<目 標>

洗顔、手洗い、うがいや正しい歯磨きの習慣を身につける。

<総 括>

歯磨きや洗面は、身につきつつあるが部分的になってしまうことは依然として見られている為、今後も声かけ等の支援を継続していく。

毎日、仕上げ磨き用の歯ブラシを使用して仕上げ磨き、歯ブラシでの歯茎のマッサージを職員が行った結果、歯肉の腫れや歯周病の予防ができ、清潔な口腔が保たれている。また、口腔内の状態観察により虫歯や腫れなどの異常を早期に発見することで、早目に歯科受診をすることができ、治療を行うことができた。仕上げ磨き後にうがいをせずに唾液を飲み込む利用者もいることから、今後も支援を継続していく。

歯磨き用コップは毎週末に洗浄し、歯ブラシは月に1回定期的に交換している。うがいは洗浄液を使用するなど、より口腔内が清潔に保たれるよう個々に応じて対応を行っている。義歯を使用している利用者には、毎食後や歯磨き指導時に手入れを行い、使用していない時間は洗浄液に浸け、清潔さを保つことができた。

手洗い、うがいの励行を随時行い、特に活動等から戻ってきた際は声かけ等の支援を行ったが、液体石鹸を使用しない、部分的にしか洗わないことがある為、不十分なところは声かけや手を添えて一緒に洗う等などの支援を今後も継続していく。液体石鹸を過度に使用する、故意に流す、顔や身体を洗う等、用途以外に使用していることも変わらず見られる為、正しく使えるよう今後も声かけ等の支援をしていく。手洗い後に液体石鹸がついていることや拭き残しがあり、濡れた状態のままであることや濡れた手を衣類で拭くことも変わらず見られる為、ペーパータオルやタオルで拭きとるよう声かけ等の支援を今後も継続していく必要がある。また、ペーパータオルを多量に使用することや少量しか使用せず拭けていないこともある為、適量使用するよう声かけ等の支援を行っていく。

（６） 整理・整頓

<目 標>

衣類や本、私物を区別して所定の位置に片付け、居室内を清潔に保つ。

<総 括>

居室内に洗濯済の衣類や布団を出したままの状態になっている事は依然として見られている。タンスに収納する際に、乱雑に扱う、引き出しに無理やり入れる、上着やズボンなどを仕分けせずに入れていることがある為、声かけをしていくとともに職員と一緒に収納する等の支援と定期的なタンスの確認を今後も継続して行っていく。

着衣した衣類や汚れた衣類、使用したタオル等をタンスに入れる利用者には声かけをし、専用のカゴに入れる事や洗濯に出してもらうように支援している。また、汚れていない衣類を洗濯に出す利用者もいる為、確認し必要であれば本人に返却している。

季節ごとに衣替えを行い、季節に合わない衣服は居室の天袋や、職員が預かって管理する等の支援をしている。

玄関の靴の放置や靴箱の扉が閉まっていない、泥のついた靴で玄関付近が汚れることは、変わらず見られているため、今後も継続して支援を行っていく。

リネン交換は隔週金曜日に行い、天候の良い日は布団を干し、布団の清潔さを保つよう支援した。月１回畳のハイター拭きも行い、机やテレビ等の雑巾がけに取り組んでいる。居室の私物を乱雑に置いていることがある為、声かけ等の支援を行い、広告などを居室にしまい込んでいる利用者には本人に確認しながら定期的に処分をしている。

掃除機などを使用した際、掃除道具箱から乱雑に出し入れすることある為、丁寧に取り扱うよう声かけ等の支援を行っている。押し入れの中やテレビ台の裏などにも埃がたまらないよう居室の掃除機掛けは職員と一緒に取り組みながら、清潔に保てるよう取り組んだ。

（７） 生 理

<目 標>

生理用品の使用方法や後始末と管理を身につける。

<総 括>

管理が難しい利用者には職員が管理し、療育日誌に生理日を記入、生理用ノートに交換の回数や時間、日数を記録し、チェック表を作成することで、職員間での引き継ぎを行い、医療機関受診の際にも資料として使用することができている。時間を決めて定期的に交換して記録に残すことで、衣類の汚れは減少しているが、生理中でもナプキンを使用していないことや終了しても付けていることがあった為、入浴時等の確認を今後も継続して支援していく。

閉経を迎えた利用者や更年期に伴い生理周期に乱れが生じることもあるため、今後も確認しながら声かけ等していく。

(8) 洗濯

<目 標>

洗濯、乾燥、取り込み等の方法を身につける。

<総 括>

手順は身につけているが、洗濯機に衣類や洗剤を多量に入れる、少量で回す、汚れがひどい衣類を手洗いせずに入れることは依然として見られている為、洗濯物を確認しながら職員と一緒に取り組む支援を今後も継続していく。

洗濯物を干す際に、洗濯物同士の間隔をあけずに重なっていることやズボンの裾や上着の袖が丸まった状態で干していることもある為、声かけや一緒に取り組んでいく必要がある。また、乾いていない衣類を取り込むことが見られる為、定期的にタンスチェックを行いながら今後も声かけ等の支援していく。

3. 生産活動

(1) 陶芸課

利用者 8 名

職 員 4 名

<活動方針> 陶芸作業や販売を通して、各利用者の能力を伸ばし、豊かな人生の自己実現を図り、社会参加を目指して生きがいを得る。

<活動内容> ・手びねり～花器、器、皿、コーヒーカップ等

マグカップ、フリーカップ、角皿、丸皿、豆皿等

丸皿、大皿、湯呑み、小鉢、どんぶり等

・型抜き～箸置き、ペーパーウェイト

・土砕き～陶土再生のため、乾燥した陶土を粉状につぶす作業

・撥水剤塗～素焼き作品の底に撥水剤を塗る作業

・施釉～素焼きの陶器に釉薬をつける作業

・素焼き、本焼きの釜入れ、窯出し作業

・販売準備（底削り、値段シール貼り、梱包）

・立体作品などの造形表現

<成 果> ・道具の整備や窯庫の整備など定期的に取り組むことや、エアコンフィルターの掃除や季節の変わり目には大掃除を昨年度同様、継続して行った。また、定期的に道具を見直し、不要なものを処分し作業スペースの確保に努めた。

・干支の置物やクリスマスの飾りなど季節に合わせた造形作品を作成するようになったことで、利用者も季節を感じて楽しく活動参加することができた。

・日頃の頑張りや成果を認め、気分転換にレクリエーションを行った。

<総 括> ・活動開始前のミーティングで、1日の流れや利用者それぞれの作業内容を伝

えることで、作業の見通しや1日の流れについて見通しを持つことができ、活動の変更があっても受け入れることができている。また、活動終了時のミーティングでは、その日の作業内容を振り返り、頑張ったことを認めることで落ち着いて過ごすこともできている。

- ・日々の作業に取り組みやすいように、道具の修繕や整備、棚の整理整頓をし、不要なものは定期的に見直して処分した。
- ・窯や釉薬の使い方などの専門的作業においては、職員間での引継ぎを行い、作品の焼成作業ができるようにした。また、定期的に釉薬の購入や利用者が使いやすい陶芸用クレヨンや絵の具を購入したことで、利用者と色塗りに取り組むことや、自分の好きな色を使用して制作に取り組むことができ、作品の幅が広がった。
- ・作品棚の整理に努め、見学や研修者に作品を見やすいようにすることで、多くの人に制作時のエピソードや作品を見てもらえる機会を持つことができた。
- ・日頃の成果からレクリエーションを行っているが、楽しみにしている様子があり、レクリエーションがあることを伝えると、より活動を頑張る姿が見受けられる。今後も、レクリエーションを通して意欲的に活動参加できるように取り組む。
- ・新しい利用者が増えたことからそれぞれに合わせた作業内容を提案し、取り組んでもらうことで落ち着いて参加できる。

(2) 手工芸課

利用者 8名

職員 6名

- <活動方針> 各利用者の個性や能力を生かし、機織り作業などの活動や販売を通して、利用者との信頼関係を深め、安定した日常生活を確立し、自己実現を図る。
- <活動内容> 機織り機での織物製作、加工及び販売を行う。

- <成果>
- ・機織りの作業では、適度な力加減で丁寧に織ることができる利用者が増えている。
 - ・お茶休憩や掃除等の次の行動が待てず、落ち着かない状態になる利用者には、都度声かけや言葉遊び等で対応を行っている。
 - ・利用者にわかりやすい文言で本人が見える場所に紙を掲示することにより、スムーズに作業に取り組めるようになった。

- ・時間の区切りの難しい利用者には、職員と一緒に線を引く等の作業量を決めることで時間内に一定の作業に取り組む事が出来ている。
- ・力加減が難しい利用者に切れにくい糸を使用することで、効率よく取り組む。
- ・利用者の好きな色や素材の糸を準備し、個性的で色鮮やかな作品を作ることができた。
- ・利用者が意欲的に取り組めるような作業を制作に取り入れ、適度に休憩を取ることでモチベーションを保ち活動に参加できるようになりつつある。
- ・作業前に1日の流れを確認することで、見通しを持って作業に取り組めている。
- ・横糸の通し方が不十分な利用者には都度、声掛けや一緒に取り組む事で少しずつ身につけつつある。
- ・個別にパーテーションで作業場所を工夫するなど、環境調整を行う事で落ち着いて取り組めるようになりつつある。

- ＜総括＞
- ・今後も利用者がより落ち着いてスムーズに作業に取り組めるよう、環境整備や作業の工夫を継続していきたい。
 - ・作品の加工にも継続にも継続して取り組みながら、利用者のペースに合わせて、少しずつ作品の質の向上や新たな制作に取り組んでいきたい。
 - ・機織り機を扱う際の力加減や手順の違い減らす為、利用者の様子に合わせながら、丁寧に作品制作に取り組めるような声掛け、環境の調整等支援を継続して行っていく。

（3）アート課

＜利用者＞ 8名

＜職員＞ 5名

＜活動方針＞ 絵画・造形などの創作活動を通して感受性と表現の幅を広げる。利用者主体の自由な発想を大切に、個性あふれる表現による作品づくりを目指す。

＜活動内容＞ 絵画や陶芸の絵付けの他、モザイクタイル、段ボール、アルミホイル、木材、針金、カレンダー・芯等の廃材を使用した創作活動

＜成果＞ ・メンバーそれぞれの興味関心を考慮しながら、創作に用いる新たな素材を

提案し、表現の幅を広げる事ができた。

- ・活動棟の整理を行い、各々が落ち着いて制作に取り組める環境を整えた。
- ・作品をモチーフにしたグッズ開発に取り組み、イベントでの販売、法人内の事業所での販売等により、作家としての収益と評価を得ることができた。
- ・展示やカレンダーの制作・販売を通して、多くの人にめぶき園の活動を知ってもらうことができた。
- ・様々な展示の場や、「始まりのコトバ」(展示)にて、自身の作品が展示されることの喜びを感じる事ができた。

- ＜総括＞
- ・今後も利用者それぞれの個性や興味関心を考慮しながら素材の提案や工夫を行っていく。また、職員との関係性を築いていくことで制作意欲の向上にも繋げていきたい。
 - ・グッズ販売や展覧会を通して、多くの人々に作品を楽しんでもらうことができた。今後もより多くの人々が作品に触れ、楽しんでもらえる機会を作っていきたい。

(4) エコ課

＜利用者＞ 10名

＜職員＞ 4名

＜活動方針＞ アルミ缶リサイクル活動を行う。各利用者の能力や適性に応じた作業を提供することで安定した日常生活を目指す。また、アルミ缶の回収を通じて地域に貢献し社会との関係を深めていく。

＜活動内容＞ アルミ缶リサイクルを行う

- ＜成果＞
- ・年間を通して計画的にアルミ缶リサイクルに取り組み、定期的に出荷することができた。
 - ・利用者個々の状態や特性に合わせて、作業内容・回数やアルミ缶の量を調整することによって落ち着いた状態で作業に取り組むことができた。
 - ・気候や季節に合わせて冷暖房を使い、休憩場所の環境に配慮することができたが、作業場所に関して真夏日は気温が高く活動に取り組めない日もあった。
 - ・作業終了後に作業場や道具の洗浄を行い、活動終了までの見通しを立てる事ができた。

- ・アルミ缶回収を通じて行政や他事業所と連携を図ることができた。

- <総括>
- ・年間を通して利用者は落ち着いて作業に取り組むことができた。今後も継続して落ち着いてやりがいのある作業ができる環境作りをしていく。
 - ・アルミ缶の数を確保するため、引き続き法人内外や地域に呼びかけを行い、より多くの方々と協力体制を強化しながら、確保・増加に繋げていきたい。
 - ・休憩棟内の暑さや寒さに対応するため、ミストファンを3台導入し、活動環境の改善を図った。今後も継続して環境を整えていきたい。
 - ・利用者の状態に合わせて道具や作業環境を調整したことにより、意欲的に活動に取り組むことができた。
 - ・活動終了後に作業場や道具の洗浄を行い、活動終了までの見通しを立てる事ができた。

- ・アルミ缶回収を通じて行政や他事業所と連携を図ることができた。
- <総括>
- ・年間を通して利用者は落ち着いて作業に取り組むことができた。今後も継続して落ち着いてやりがいのある作業ができる環境作りをしていく。
 - ・アルミ缶の数を確保するため、引き続き法人内外や地域に呼びかけを行い、より多くの方々と協力体制を強化しながら、確保・増加に繋げていきたい。
 - ・休憩棟内の暑さや寒さに対応する為、エアコンを新調し、活動環境の改善を図った。今後も継続して環境を整えていきたい。
 - ・作業の内容や作業道具を見直し、乾燥椎茸の出荷の準備に取り組んだ。
 - ・作業棟にエアコンを2台設置し、活動環境の改善を行ったことにより利用者の状態の安定につなげた。

グループ別療育活動

(1) ジャイアンツグループ

<利用者> 14名

<職員> 7名

<活動方針> 活動を楽しく行うことにより、利用者とのやり取りを通して信頼関係を深めソフトボールの技術向上を目指す。

<活動日時> 毎週火曜日 13:30～15:30

<活動場所> 犬飼グラウンド、犬飼公民館ホール、大分県社会福祉協議会（夏季）

<活動内容> 準備体操、ランニング、ウォーキング、キャッチボール、バッティング、守備練習、グラウンド整備、整理体操、水泳（夏季）

- <総括> ・ランニングでは、決められた時間を自分のペースでしっかりと走ることが出来ている。今後も、各々の体力などに合わせながらも無理のないペースで走ることが出来るよう支援をしていく。声かけや一緒に走る等の支援を行っていく。
- ・キャッチボールでは相手を見ないで投げることや、投げられたボールを取らずに見逃すことがある為、今後もしっかりキャッチボールが出来るよう声掛け等の支援を行っていく。
 - ・キャッチボールや守備練習では、グローブを使えるようになってきている。今後は捕球後、決められた場所に送球出来るように声かけ等の支援を行っていく。
 - ・今年はバッティング練習に力を入れ、バットにボールをあてることが出来るようになった。今後も継続して技術向上に努めていきたい。
 - ・今後も各々の特性や能力、年齢、環境を考慮した上で活動に取り組んでいくことで、基礎体力の維持向上や心身のリフレッシュに繋げていきたい。
 - ・道具の準備・片付けでは、利用者各々が自主的に動けるようになってきている。今後もグラウンド整備をより丁寧に行えるように支援していく。
 - ・夏季は熱中症対策のため犬飼公民館のホールを使用するなど、天候や気温などの環境に配慮した活動場所にて活動を行うことができた。
 - ・夏季（８月）はタイガースと交互に社会福祉会館のプールに行き、活動に取り組んだ。

（２）タイガースグループ

- <利用者> 20名
- <職員> 8名
- <活動方針> ストレッチ、動作法、ウォーキング、水泳などを通して、運動機能の向上、健康増進及び自閉症状の改善を図り、信頼関係を構築する。
- <活動日時> 毎週火曜日 13:30～15:30
- <活動場所> なかよしホール、犬飼体育館、社会福祉会館(夏季プール)
- <活動内容> 準備体操、ウォーキング、ストレッチ及び動作訓練(スーパーバイザーによる指導)、水泳(夏季)
- <総括> ・利用者に合わせたペースでそれぞれが運動する時間を取ることができ、大きな怪我をすることなく活動に取り組むことができた。ストレッチ、ウォーキング、動作法の流れで時間配分をし、利用者が見通しを立てて穏やかに活動に参加できるように取り組んだ。
- ・活動終了後、使用会場の清掃(モップがけ)は丁寧に取り組むことができた。
 - ・阿部京子スーパーバイザーの指導のもと、個々の利用者に応じた動作法の活

動を実施した。

- ・体育館使用時は利用者の状態や気温に応じて、早めに館内での活動を切り上げてドライブを行うなど体調面に配慮した。
- ・利用者が落ち着いて参加できるように、利用者に必要な把握をつけた。
- ・夏季（8月）は、ジャイアンツと交互に社会福祉会館のプールに行き、活動に取り組んだ。
- ・夏季（7月～9月）は、その日の暑気に応じて、なかよしホールにて空調設備を使用し運動に無理のない環境を整えることができた。
- ・利用者の体力や年齢に応じた活動内容を今後も検討・提案していく。

ウォーキング活動

グループ1

<利用者> 10名

<職員> 5名

<活動方針> 四季折々の景色を楽しみながらウォーキングに取り組み、個々の健康増進と情緒の安定を図る。

<活動日時> 毎週水曜日 13:30～15:30

<活動場所> 白杵総合運動公園、大野町運動公園、レゾナックドーム、めぶき園近郊

- <総括>
- ・晴天時にはめぶき園近郊を歩くことで長距離のウォーキングに取り組み、利用者の体力の維持向上に繋げることができた。
 - ・新規利用者も入り、利用者同士のトラブルになることがあった為、職員が間に入るなどして、距離を取りつつ、歩いてもらっている。
 - ・感染予防の為、人混みを避けた場所を選んで活動した。
 - ・雨天時は活動できる場所が限られた為、今後は天候不順時に応じた活動内容を模索していく。
 - ・夏季時は日陰や涼しい場所で活動を行い、水分や塩分補給にも配慮するなど熱中症対策にも努めた。今後も利用者の体調を十分に把握しながら継続していきたい。
 - ・今後も年齢や利用者一人ひとりの体力や状態を考慮し、休憩時間の確保や各利用者のペース配分を行っていきながら、健康増進と心身のリフレッシュに努めていく。

グループ2

<利用者> 10名

<職員> 5名

- <活動方針> 四季折々の景色を楽しみながらウォーキングに取り組み、個々の健康増進と情緒の安定を図る。
- <活動日時> 毎週水曜日 13:30～15:30
- <活動場所> 臼杵総合運動公園、大野町運動公園、クラサスドーム、師田原ダム
- <総括>
- ・利用者の様子や体力を考慮しながらペース配分を考えて歩く事で、楽しみながら落ち着いて活動に参加することができた。
 - ・夏場、特に気温の高い日は、歩く距離を短くしドライブに切り替えた。また、塩飴・お茶を多めに用意し、熱中症対策を十分に行って体調面に配慮しながら活動に取り組むことができた。
 - ・別グループと合同になることもあったが、利用者同士のトラブルを避ける為配車を考慮しトラブルなく過ごすことが出来た。
 - ・出発時にトイレ誘導を行うことで、移動中に急遽トイレを探すことなく、目的地まで移動することができた。活動中に失禁する可能性を考慮し着替えを用意しておくことで安心して活動に参加できるようにした。今後も継続して移動前のトイレ誘導を徹底して行っていきたい。
 - ・今後も体力作りや健康増進に努める為、安全かつ安定して歩くことができる場所や活動内容・ペースを検討していく。
 - ・感染症の予防の為、人混みを避けて活動に取り組んでいる。

グループ3

- <利用者> 14名
- <職員> 4名
- <活動方針> 外の空気にふれる事で心身共にリフレッシュしながら、ウォーキングに取り組み、個々の健康増進と情緒の安定を図る。
- <活動日時> 毎週水曜日 13:30～15:30
- <活動場所> 臼杵総合運動公園、大野町運動公園
- <総括>
- ・利用者の個々のペース配分を考えながら歩く事で落ち着いて参加でき、体力の向上や、健康維持に繋がった。
 - ・外の景色を見ながらウォーキングする事で、季節の移り変わりを感じたり、心身ともにリフレッシュすることができた。
 - ・雨天時や、猛暑日、冬場等、体調面に配慮して、ドライブに切り替え臨機応変に対応した。また気候に合わせながら、無理のない程度に、歩く距離をのばすなど、体力向上に努めた。
 - ・時には、状況により別グループと合同で活動になることもあったが、利用者同士の相性を見ながら配車を組むことでトラブルなく過ごすことができた。
 - ・トイレ誘導の回数を増やし、出発前にもトイレ誘導を行う事で、失禁等なく

活動を行えた。

クラブ活動

(1) ウォーキングクラブ

〈利用者〉 16名

〈職員〉 3名

〈活動方針〉 ウォーキングを通して、健康増進と情緒の安定を図る。

〈活動日時〉 毎週木曜日 13:30～15:30

〈活動場所〉 臼杵総合運動公園、大野町総合運動公園、亀塚古墳

〈活動内容〉 ウォーキング

- 〈総括〉 ・活動場所は臼杵総合運動公園や、大野町総合運動公園を中心にウォーキングに取り組んだ。
- ・雨天時や気温の高い日はドライブや時間を短くする等配慮し、活動を実施することができた。
 - ・夏季の猛暑日は、水分補給や塩分補給を積極的に行った。
 - ・日によっては、他のクラブと合同での活動になる事があったが、移動のバス車内の席の配置やウォーキング中の利用者間の距離に気を配る等、利用者同士のトラブルが起こらないよう配慮することで問題なく実施できた。
 - ・利用者の個々のペース配分を考えながら必要な把握を行い、一緒に歩くことで落ち着いて参加でき、体力向上にも繋がった。

(2) 美術クラブ

〈利用者〉 8名

〈職員〉 6名

〈活動方針〉 絵画制作や工作を楽しむことを通して、感受性と表現の幅を広げる。

〈活動日時〉 毎週木曜日 13:30～15:30

〈活動場所〉 めぶき園食堂内

〈活動内容〉 モザイクタイル貼り、絵画(ペン画、鉛筆画)、ぬり絵

- 〈総括〉 ・利用者と職員が一緒にやりとりをしながら制作に取り組む事で、より良い関係性の構築ができた。また、個々の制作状況、興味・関心毎に沿いながら新たな素材を提案することで、作品制作の幅を広げる事ができた。
- ・活動中は声掛けを控え、利用者自らのタイミングや、自身の中から生まれる気持ちを優先し、落ち着いた環境の中での作品制作が行えるようにした。
 - ・作品が完成した際には、利用者と職員が喜びや達成感を共感し合い、次への意欲に繋がるよう心掛けた。引き続き、より良い制作の場の提供に努めたい。

(3) スポーツクラブ

<利用者> 9名

<職員> 5名

<活動方針> ランニングを中心に楽しく活動に取り組むことにより、心身を鍛え、健康増進と体力の向上を目指すとともに、豊かな生活、自己実現を図る。

<活動日時> 毎週木曜日 13:30～15:30

<活動場所> 大野町総合運動公園、白杵市総合運動公園、レゾナックドーム、亀塚古墳

<活動内容> グラウンドでのランニング、ウォーキング

<総括> ・大野町総合運動公園やレゾナックドームのランニングコースを中心とする長距離のランニングに取り組み、持久力の維持向上に繋げることができた。
・今後も利用者の年齢や体力等を考慮しながら、意欲的に取り組み、体力の維持向上に繋がるような活動内容を考えていきたい。
・今後も個々のペースで最後まで走り、目標を持って取り組むことができるようにしていきたい。
・夏季は体調等を考慮し、熱中症予防の為に塩飴を提供した。また、活動内容や場所など臨機応変に対応した。

第2章 給食

1. 総括

献立作成は、栄養基準量や食品構成に基づき実施した。肉、魚、卵をバランスよく取り入れた献立作成をし、味つけや切り方など工夫し調理を行った。その結果、今年度も残菜はほとんど見られなかった。揚げ物を揚げ焼きにするなど、脂質摂取量を抑える調理の工夫もしている。

今年度アレルギー対応者2名、刻み対応者5名。

行事食は、誕生会（毎月）・お楽しみランチ（行事のない月）、クリスマス会、新年会も実施。おやつは、月、火、木、金曜日は牛乳と菓子類、水曜日はヨーグルトと麦茶。夏は、アイスクリームと麦茶。土・日曜日はジュースで実施した。夜のおやつタイムは、火曜日は菓子類、金曜日はコーヒータイムで実施した。また毎月1週のみ（月から金曜日）は昼食後にコーヒータイムを実施している。水曜日には、毎週交代で、各課どんこレストランに行き、自分の好きなものを注文して食事をおこなっている。

2. 資 料

(1) 令和6年度カロリー・主要栄養素目標及び実績平均値（1日量）

	エネルギー cal	蛋白 g	脂肪 g	カルシウム mg	鉄 mg	ビタミンA レチノール	ビ ^ッ タミン B1 mg	ビ ^ッ タミン B2 mg	ビ ^ッ タミン C mg
目標	2,100	70.0	48.0	600	10.4	598	1.19	1,34	92
実績	2,090	69.0	50.0	600	10.5	600	1.18	1,30	94

(2) お楽しみランチ

日 付	内 容
4月11日	園遊会 おにぎり 焼き肉 ジュース
5月16日	ご飯 ハンバーグトマトソース カニクリームコロッケ ささみサラダ コーンスープ フルーツポンチ
6月27日	ご飯 ステーキ チキンのハーブステーキ 梅肉大葉巻きカツ たこときゅ うりの酢の物 コーンスープ わらび餅
7月20日	ご飯 ユーリンチ エビチリ 豚角煮 わかめスープ フルーツ杏仁
8月29日	ご飯 ハンバーグ ミートスパゲティ 豆腐サラダ コーンスープ ケーキ
9月26日	ご飯 エビフライ とり唐揚げ ごぼうの唐揚げ だし巻き卵 ベーコンキ ノコスパゲティ かぼちゃスープ チョコくずアイス
11月28日	ご飯 ベーコンハンバーグ エビフライ ミルクコロッケ ポトフ 味噌汁 ティラミス
2月27日	ご飯 ハンバーグ クリームコロッケ マカロニサラダ 味噌汁（豆腐わか め）
3月27日	炊き込みご飯 ヒレカツ チキンガーリックソテー アスパラ巻き だし巻 き卵 ブロッコリーとカリフラワのサラダ 若竹汁 桜餅

(3) 誕生日会

日 付	内 容
4月20日	ご飯 ハンバーグ マカロニグラタン かぼちゃのスープ プリン ジュース
5月23日	ご飯 鳥肉マスタード風味焼き 野菜サラダ あすか汁 ゼリー ジュース
6月13日	ご飯 トンカツ ささみともやしの中華風 豚汁 プリン ジュース
7月18日	ご飯 焼き肉風煮 ポテトサラダ わかめスープ たらみゼリー ジュース

8月22日	ご飯 トンカツ ポテトサラダ 味噌汁（ほうれん草 しめじ） ピーチ・ゼリー ジュース
9月19日	ご飯 ミートローフ ハムジャガイモサラダ コンソメスープ プリン ジュース
10月24日	ご飯 トンカツ ポテトサラダ 味噌汁（エノキ 厚揚げ） ショートケーキ ジュース
11月21日	ご飯 ハンバーグ 野菜サラダ コーンポタージュ プリン ジュース
12月19日	ご飯 トンカツ ポテトサラダ 味噌汁（白菜 しめじ） プリン ジュース
1月23日	ご飯 エビフライ&ヒレカツ ハムサラダ かぼちゃのスープ ショートケーキ ジュース
2月13日	ご飯 トンカツ ポテトサラダ 豚汁 カットケーキ ジュース
3月19日	カツカレー マカロニサラダ プリン コーラ

第3章 医療・保健衛生

1. 定期検診及び検査

《 内科検診 》年2回実施（内容）一般診察・検尿・血圧測定（対象）利用者全員

日 付	実施医療機関	利用者
令和6年8月5日	博愛診療所 長尾 医師	32名
令和7年2月3日		32名

《 血液検査 》（内容）血液一般、生化学（対象）利用者全員

日 付	実施医療機関	利用者
令和6年10月30日	地域保健支援センター	32名

《 胸部レントゲン検査 》（対象）利用者全員

日 付	実施医療機関	利用者
令和6年10月30日	地域保健支援センター	32名

《 婦人科検診 》

日 付	実施医療機関	利用者	検査内容
令和 6 年 12 月	安達産婦人科	女性利用者 4 名	子宮（下腹部）エコー
令和 7 年 1 月	みえ病院		乳腺エコー

《 上部消化管内視鏡検査（胃カメラ） 》

日付	実施医療機関	利用者
令和 6 年 6 月 ～令和 7 年 3 月	大久保内科外科（内視鏡）クリニック	36 歳以上で保護者の同意が得られた利用者

《 厨房職員便細菌検査 》

日 付	職 員
4 月 8 日	6 名
5 月 9 日	6 名
6 月 10 日	6 名
7 月 8 日	6 名
8 月 5 日	6 名
9 月 9 日	6 名
10 月 7 日	6 名
11 月 11 日	6 名
12 月 9 日	6 名
1 月 14 日	6 名
2 月 12 日	6 名
3 月 10 日	6 名

全員異常なし

2、健康管理

《 歯科検診及び治療 》

月 2 回、どんこの里いぬかいと合同で高橋歯科医院を受診している。昨年度より別日にめぶき園利用者のみで受診する日も設けた。また、利用者の特性に応じて、大分県口腔保健センター（王子新町・大分県歯科医師会館内）を利用している。医療機関を使い分けながら、利用者 32 名全員が年 1 回以上の歯科検診が受けられるよう配慮している。令和 7 年より、むとう歯科（犬飼町）の歯科受診も追加し、より多くの利用者が歯科受診を受けることができた。

《 検 温 》

毎朝、朝食前に全員検温を実施している。有熱者は職員ミーティングで報告・経過観察した。今年度も新型インフルエンザの流行があり、感染症対策マニュアルに沿って普段以上に慎重に対応している。

《 体重・血圧測定 》

毎月 1 回、測定・記録し、必要に応じて食事量の調整等行っている。

3、衛生管理

《 居室や施設内の清掃・消毒 》

毎朝居室ドアノブや館内の窓など消毒・清掃している。毎月第 3 土曜日は居室内のハイター拭きを行うなど、衛生的な環境整備に努めた。

《 寝具の日光消毒 》

天気のいい日に実施し、利用者の場合職員が介助している。

4、看護記録

《 看護日誌 》

体調の悪い利用者の健康状態を記録することで、経過的に状態を把握・対応できるよう努めた。

《 服薬 》

服薬内容は個別にファイリングし、お薬手帳でも管理している。変更があった際は、その都度療育日誌に記録したり職員ミーティングで報告したりすることで服薬間違いがないよう努めた。

《 女性利用者の生理 》

療育日誌の生理の欄に、氏名と経過日を記録し状況を把握することで女性特有の健康トラブルの早期発見に努めている。

《 健康診断 》

二次健診の対象になった利用者に対しては速やかに対応し、その結果も併せて分かるようファイリングしている。

5、総括

昨年度に引き続き、令和 6 年度も新型コロナウイルス感染予防対策が必要な年となり

ました。ご家族のご理解のもと集団感染も長引くことなく終息する事が出来ました。ご家族の皆様にはご心配をおかけしました。また日頃から外出等に関する園の方針にご理解・ご協力を賜り誠に有り難うございます。コロナ、インフルエンザ対策に限らず、利用者の高齢化や受診件数の増加など看護の課題は年々増えておりますが、皆さんがそれぞれのライフステージに合った適切なケアを受けられるよう努力したいと思ひます。

第4章 防災関係

年	月 日	訓練種別・避難タイム	備 考
令和6年	4 / 1 6	避難訓練（2分12秒）	
	4 / 2 0	防火管理委員会	避難訓練の反省と次回の予告
	5 / 1 4	避難訓練（2分39秒）	
	5 / 1 8	防火管理委員会	コロナウイルス拡大防止の為、中止
	6	避難訓練	コロナウイルス拡大防止の為、中止
	6 / 2 2	防火管理委員会	次回避難訓練の予告
	7 / 9	避難訓練（3分37秒）	
	7 / 2 0	防火管理委員会	避難訓練の反省と次回の予告
	8 / 6	避難訓練（2分53秒）	
	8 / 1 7	防火管理委員会	避難訓練の反省と次回の予告
	9 / 1 0	避難訓練（2分22秒）	
	9 / 2 1	防火管理委員会	避難訓練の反省と次回の予告
	1 0 / 8	避難訓練（2分38秒）	
	1 0 / 2 6	防火管理委員会	避難訓練の反省と次回の予告
	1 1	避難訓練	日程の調整できなかった為、未実施
	1 1 / 1 6	防火管理委員会	次回避難訓練の予告
	1 2 / 2 0	夜間避難訓練（2分32秒）	
	1 2 / 2 1	防火管理委員会	夜間避難訓練の反省と次回の予告
令和7年	1	避難訓練	日程の調整できなかった為、未実施
	1 / 1 8	防火管理委員会	次回避難訓練の予告
	2	避難訓練	日程の調整できなかった為、未実施
	2 / 1 5	防火管理委員会	次回避難訓練の予告
	3 / 8	BCP 訓練・研修	
	3 / 8	防火管理委員会	次回総合避難訓練の予告
	3 / 3 1	総合避難訓練	

※ 避難訓練では、「避難場所に素早く集合」を目標にし、出火場所に合わせて避難場所を

設定し、行っている。大きな混乱なく、スムーズに避難できるようになってきているが、こだわりなどで動けずに避難が遅れることもあった為、スムーズに避難誘導できるよう引き続き取り組んでいく。また、職員による代返が少なく点呼に時間がかかることもあった為、しっかりと代返できるよう取り組んでいきたい。

第5章 家族との連携

1. 週末帰宅状況

4月27日	16名在園
5月4日	11名在園
5月11日	14名在園
5月18日	25名在園
5月25日	17名在園
6月1日	12名在園
6月8日	15名在園
6月15日	12名在園
6月22日	14名在園
6月29日	11名在園
7月6日	15名在園
7月13日	17名在園
7月20日	15名在園
7月27日	12名在園
8月3日	14名在園
8月10日	15名在園
8月17日	15名在園
8月24日	14名在園
8月31日	15名在園

9月7日	13名在園
9月14日	17名在園
9月21日	15名在園
9月28日	14名在園
10月5日	12名在園
10月12日	15名在園
10月19日	12名在園
10月26日	15名在園
11月2日	14名在園
11月9日	16名在園
11月16日	11名在園
11月23日	16名在園
11月30日	11名在園
12月7日	15名在園
12月14日	15名在園
12月21日	13名在園
12月28日	19名在園
1月4日	18名在園
1月11日	15名在園
1月18日	12名在園
1月25日	11名在園
2月1日	11名在園
2月8日	12名在園

2月15日	13名在園
2月22日	14名在園
3月1日	14名在園
3月8日	11名在園
3月15日	13名在園
3月21日	26名在園
3月29日	14名在園

2. 家族連絡会

令和6年6月22日（土） 犬飼公民館ホールにて実施。

出席数：17家族（25人）/32家族

第6章 利用者の状況

1. 年齢別利用者の状況（R 7. 3. 31）

年齢	2 3	2 5	2 6	3 6	3 8	4 0	4 1	4 2	4 3	4 4	4 7
男性	1	1	1	3	2	2		1	2	1	1
女性							1				
合計	1	1	1	3	2	2	1	1	2	1	1

年齢	4 8	4 9	5 0	5 1	5 2	5 3	5 6		合計	平均年齢
男性	1	1	3	3	3	1	1		2 8	4 3. 6
女性	1	1			1				4	4 7. 5
合計	2	2	3	3	4	1	1		3 2	4 4. 1

2. 市町村別利用者の状況（R 7. 3. 31）

	大分市	別府市	日田市	津久見市	臼杵市	杵築市	豊後大野市	由布市	佐伯市		合計
男性	1 8	1	1	1	3	1	1	1	1		2 8
女性	4										4
合計	2 2	1	1	1	3	1	1	1	1		3 2

3. 判定別利用者の状況

<療育手帳>

	A 1	A 2	B 1	B 2	合計
男性	1 0	1 6	1	1	2 8
女性	2		2		4
合計	1 2	1 6	3	1	3 2

<障害支援区分>

	6	5	4	3	合計
男性	2 7	1			2 8
女性	3	1			4
合計	2 8	2			3 2

4. 入園前の状況

	支援学校高	支援学校中	通所授産	作業所	在宅	合計
男性	7	6	4	2	9	2 8
女性	2	1	1			4
合計	9	7	5	2	9	3 2

第7章 職員研修実施状況

期 日	研 修 名	場 所	参加者
5/25・6/1 8	第1回強度行動障害支援者養成研修	わくわくかん	福田 中田
7/11・12	全国知的障害関係施設長等会議	東京国際フォーラム	福田
7/31	社会福祉施設等経営支援セミナー 効果的な部下・新人育成の実務研修	大分県総合社会福祉会館	繁
8/21	豊後大野市障がい福祉事業所連絡協議会 第1回職員研修会	豊後大野市役所	井上
9/18	社会福祉等経営支援セミナー メンタルヘルス研修	社会福祉会館	渡邊
10/9・10	九州地区知的障害関係施設長研究大会	長崎県	福田
10/10	社会福祉施設向け感染症対策研修	豊後大野市緒方公民館	戸高
11/6	社会福祉施設等経営支援セミナー 権利擁護/虐待防止とリスクマネジメント研修	社会福祉会館	多田
11/26・27	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	大分県庁	富高
11/21・22	九州・山口・四国自閉症施設協議会	福岡県	福田 小野 堀
11/29	相談支援従事者・サービス管理責任者等 専門コース別研修「意思決定支援」	大分県社会福祉介護研修 センター	神野
11/30	障害者にも小児にも使える行動調整	Zoom	戸高
12/3・4	強度行動障害支援者養成研修（実践）	大分県庁	富高
12/4	社会福祉施設等経営支援セミナー アンガーマネジメント研修	大分県社会福祉介護研修 センター	佐藤
1/22	社会福祉施設等経営支援セミナー クレーム対応力研修	大分県社会福祉介護研修 センター	後藤未
1/26	第16回発達障がい研究会	大分県総合福祉会館	佐藤
1/28	効果的な口腔ケアについて	Zoom	戸高
3/4	社会福祉施設等経営支援セミナー メンター研修	大分県社会福祉介護研修 センター	遠本優

第8章 日中一時・ショートステイ利用状況

1. 日中一時

(1)利用人数	1名
(2) 利用回数	39回
(3) 利用延べ日数	39日
(4)利用者居住地域	豊後大野市1名
(5)利用者性別	男性1名、女性0名
(6)利用者年齢区分	児童（18歳未満）0名 成人（18歳以上）1名

2. ショートステイ

(1)利用人数	8名
(2)利用回数	72回
(3)利用延べ日数	529日
(4)利用者居住地域	大分市6名、竹田市1名、佐賀市1名
(5)利用者性別	男性6名、女性2名
(6)利用者年齢区分	児童（18歳未満）0名 成人（18歳以上）8名

令和6年度

ライフサポートセンターなごみ園事業報告

第1章 療育活動

「放課後等デイサービス事業」

1. 療育方針

- ① 発達支援 人との関係を軸にしながら、遊びや課題を通して一人一人のお子さんの発達段階に応じた支援を行います。
 - ・人とのコミュニケーションの中で自己表現方法の獲得や自立心を促していくとともに、社会的なスキルの向上をねらいとした遊びや課題内容を提示していくことによって子どもの発達を促し、行動の改善を行った。
- ② 才能援助 様々なことを経験する機会を通して、一人一人の可能性を引き出し、自己表現力や有用感を高めます。
 - ・既存の枠組みにとらわれず、利用児童の興味や関心をもとにして、文字や計算などの学習課題や、社会的なスキルの習得を目指した活動を展開した。
- ③ 家庭援助 子育てについての相談や学習会を通して、お子さんへの理解を深めながらこどもの育ちと暮らしを支援します。
 - ・子育ての相談を受けるだけでなく、なごみの会において保護者同士でお子さんの近況報告を行ったり、発達支援計画を通したりしながら親御さんと一緒に子どもの発達理解を深めた。
- ④ 地域援助 ボランティアの要請や研修会を開催し、保育園や学校などの関係諸機関との連携を密にしながら地域でのお子さんの暮らしを支えます。
 - ・定期的に学生ボランティアを要請したり、行事を通して地域ボランティアを要請したりすることで、いろいろな人との交流を深めた。
- ⑤ 心のケア 「癒し」をテーマとしたメンタルケアを行うことで、心身の発達を促進します。
 - ・こどもの状態や周囲の生活状況などに合わせて、集団活動や課題内容を変更したり、自分の好きな事をじっくりと取り組める活動をメインにした状況をつくるなどの配慮を行った。

2. 日 課

- | | |
|----------|---------------|
| ①平日午後コース | 15時00分～17時00分 |
| ②土曜日午前 | 9時30分～11時30分 |
| ③土曜日午後 | 14時00分～16時00分 |

時 間	内 容	具 体 的 な 活 動 内 容
① 15 : 00 ② 9 : 30 ③ 14 : 00	登園 自由遊び 個別学習	ブランコやトランポリン、ボールプール等の大型遊具や三輪車、プラレール、積み木などの玩具を共有して遊びながら集団のルールや動作技能の習得を目指します。
① 16 : 15 ② 10 : 45 ③ 15 : 00	集団活動 ・芸術活動 ・制作活動・調理実習 ・課外活動・専門活動 ・リラクゼーション	工作や調理等といった技能的な課題状況や、SST プログラムを通して社会的な適応力を育てます。
① 16 : 45 ② 11 : 15 ③ 15 : 30	おやつ 準備・片付け	自己表出支援とともに、集団のルールに応じることや、片付け、準備などの整理意識を育てます。
① 17 : 00 ② 11 : 30 ③ 16 : 00	帰りのお集まり 降園	今日の活動内容や次回の活動内容の確認をすることで、自己意識や先の見通しを得る力を育みます。

内容

◎集団活動：自ら集団活動へ入っていくことで、自己意識や集団への適応意識を高め、社会適応力を身につけていく。

- ・強制をしなくても、回数を重ねていく中でこども自身が流れや内容を理解し、自ら意識的に活動に入れていた。

◎制作活動：行事用の制作活動を通してながら、季節感や創作意欲を獲得していく。

- ・すべてのグループにおいて、同じ内容の作業に取り組んだり、リレー作業を行ったりしたことで、「なごみ園」という集団に対する帰属意識を育てることができた。

◎調理実習：生理的な欲求を自分の力で満たす経験や、準備から片づけまでの経験を得ていくことで、自立心を育てる。(ホットケーキ、やきそば、お好み焼きなど)

- ・お友達と一緒に調理したことで、今まで苦手だった物も食べられるようになったり、道具を揃える準備から調理、皿洗いなどのお片づけも回数を重ねる度に上手になった。また、調理場面では、自分がやりたいという自己主張が強く表れる機会も多くみられた。

◎野外活動：居住地域での適応範囲を広げる（リバーパーク、吉四六ランドなど）

- ・買い物や公園に出かけたり、電車に乗車する体験を行ったりすることで、こどもの居住地域における社会適応力や、保護者との行動範囲にも広がりがみえた。

◎SST（ソーシャルスキルトレーニング）：社会生活を営む上で重要視されてくるマナーやルールを子どもたちが興味のある活動を通して学んでいった。

- ・ 子ども同士で意見を出し合う話し合いの中で、お互いに妥協点を見つけ出し、折り合いをつけていける経験を得られた。

3. 行 事

◎3月2日・・・なごみの会がんばり賞授与式・保護者会

「生活介護事業」

1、目的

利用者の自立と社会参加を図ることを目的とし、生きがいとしての生産活動や余暇的、文化的活動を提供する。

2、方針

- ① 人権と主体性を尊重し、常に利用者の立場に立って支援する。
- ② 自立した日常生活及び社会生活を営めるように支援する。
- ③ 安心感と信頼関係に基づき、チームワークによる支援を行う。
- ④ 地域や家族との結びつきを重視し、関係機関との連携に努める。

3、日課

時間	活動内容
9：00	通所・更衣
10：00	朝の会・ラジオ体操
10：10	活動開始（生産活動）※1時間ごとに10分休憩をはさむ。
12：00	昼食・休憩
13：00	活動開始（生産活動・余暇活動）
15：00	帰りの会 17時までに各自帰宅

4、作業の種類

☐アルミ缶潰し ☐ピザ作り ☐和紙作り（牛乳パックカット、フィルムはがし、紙すき、ポチ袋組み立て） ☐絵画制作 ☐アイロンビーズ作品制作 ☐モザイクアート作品制作 ☐織物 ☐調理活動 ☐農作業

「就労継続支援 B 型事業」

1、目的

利用者に福祉的就労の場を提供するとともに、一般就労に向けての支援によって、自立と社会参加を図ることを目的とする。また、生きがいとしての生産活動や余暇的、文化的活動を提供する。

2、方針

- (ア) 人権と主体性を尊重し、常に利用者の立場に立って支援する。
- (イ) 自立した日常生活及び社会生活を営めるように支援する。
- (ウ) 安心感と信頼関係に基づき、チームワークによる支援を行う。
- (エ) 地域や家族との結びつきを重視し、関係機関との連携に努める。
- (オ) 就労に必要な知識及び技術の向上に努めるとともに、可能な限り一般就労に向けて支援する。

3、日課

時間	活動内容
9：00	通所・更衣
9：50	朝の会・ラジオ体操
10：00	仕事開始※1時間ごとに10分休憩をはさむ。
12：00	昼食・休憩
13：00	仕事開始※1時間ごとに10分休憩をはさむ。
15：00	帰りの会

4、作業の種類

＜コーヒー豆・ドリップパックの販売＞

- ・コーヒーの焙煎 ・コーヒー豆の選別（ピッキング） ・コーヒー豆を挽く
- ・軽量作業・ドリップ袋への袋詰め ・コーヒー袋詰め ・シール貼り
- ・シーラーで包装・配達作業

＜地域交流スペースにおける業務＞

- ・接客業務 ・清掃業務 ・厨房内での洗い物 ・食器の片付け

「日中一時支援事業」

1、目的

利用者の自立と社会参加を図ることを目的とし、生きがいとしての生産活動や余暇的、文化的活動を提供する。

2、方針

- ① 人権と主体性を尊重し、常に利用者の立場に立って支援する。
- ② 自立した日常生活及び社会生活を営めるように支援する。
- ③ 安心感と信頼関係に基づき、チームワークによる支援を行う。
- ④ 地域や家族との結びつきを重視し、関係機関との連携に努める。

3、日課

時間	活動内容
15：00	活動開始（創作活動、体力づくり）
16：00	おやつ
16：50	帰りの会
17：00	帰宅

第2章 利用者の来園状況

「放課後等デイサービス事業 保育所等訪問支援事業」

	利用児数 (人)	送 迎 (回)	訪問支援	開園日数 (日)	1 日平均利用 (人)
4 月	241	436	0	26	9.3
5 月	240	430	8	24	10.0
6 月	249	466	10	26	9.6
7 月	257	484	1	27	9.5
8 月	201	378	0	22	9.1
9 月	224	422	5	24	9.3
10 月	266	471	5	27	9.9
11 月	215	396	8	25	8.6
12 月	237	433	0	25	9.5
1 月	208	392	2	23	9.0
2 月	224	417	12	23	9.7
3 月	254	431	0	27	9.4
合計	2816	5156	51	299	9.4

「生活介護事業」

	利用者数 (人)	送 迎 (回)	開所日数 (日)	1 日平均利用 (人)
4 月	231	376	24	9.6
5 月	227	371	24	9.5
6 月	198	324	20	9.9
7 月	224	361	23	9.7
8 月	171	275	18	9.5
9 月	210	337	21	10.0
10 月	224	361	23	9.7
11 月	200	322	21	9.5
12 月	206	323	22	9.4
1 月	191	301	20	9.6
2 月	193	305	20	9.7
3 月	227	368	21	10.8
合計	2502	4024	257	9.7

「就労継続支援 B 型事業」

	利用者数 (人)	送 迎 (回)	開所日数 (日)	1 日平均利用 (人)
4 月	37	39	22	1.7
5 月	39	40	23	1.7
6 月	35	36	21	1.7
7 月	37	38	23	1.6
8 月	28	28	17	1.6
9 月	36	39	22	1.6
10 月	37	39	24	1.5
11 月	37	40	23	1.6
12 月	38	40	22	1.7
1 月	35	35	20	1.8
2 月	35	38	20	1.8
3 月	42	49	21	2.0
合計	436	461	258	1.7

「日中一時支援事業」

	利用者数 (人)	送 迎 (回)	開所日数 (日)	1 日平均利用 (人)
4 月	55	35	21	2.6
5 月	57	38	21	2.7
6 月	53	34	21	2.5
7 月	54	35	22	2.5
8 月	42	28	17	2.5
9 月	52	34	20	2.6
10 月	54	34	23	2.3
11 月	55	38	23	2.4
12 月	54	34	20	2.7
1 月	53	35	20	2.7
2 月	51	33	19	2.7
3 月	54	37	22	2.5
合計	634	415	249	2.5

第 3 章 職員の体制

「放課後等デイサービス事業」

管理者（常勤・専従）	1 名	児童発達支援管理責任者（常勤・専従）	1 名
保育士（常勤・専任）	3 名		
保育士（非常勤・兼務）	1 名	児童指導員（常勤・兼務）	1 名
児童指導員（非常勤・兼務）	1 名	心理担当職員（常勤・専任）	1 名

「生活介護事業」

管理者（常勤・専従）	1 名	サービス管理責任者（常勤・専従）	1 名
生活支援員（常勤・専従）	3 名	生活支援員（常勤・兼務）	3 名
看護師（常勤・専従）	2 名	理学療法士（常勤・専従）	1 名
嘱託医（非常勤・兼務）	1 名		

「就労継続支援 B 型事業」

管理者（常勤・専従）	1 名	サービス管理責任者（常勤・専従）	1 名
目標工賃達成指導員（常勤・専従）	1 名	職業指導員（常勤・専従）	1 名
生活支援員（常勤・専従）	1 名		

「日中一時支援事業」

管理者（常勤・専従）

1 名

生活支援員（非常勤・専従）

1 名

生活支援員（常勤・兼務）

2 名

第4章 職員会議・実習生の受け入れについて

1、職員会議（15 件）

日付け	内容	参加職員
4 月 22 日	就労 B 検討会議	秋月正博、橋本友紀、三宮英朗、中田真子、中嶋想空
5 月 8 日	中堅職員会議	秋月正博、橋本友紀、三浦佳菜子、三宮英朗、矢野佐和子
7 月 16 日	中堅職員会議	秋月正博、橋本友紀、三浦佳菜子、三宮英朗、矢野佐和子
7 月 19 日	全体職員会議	全職員
8 月 22 日	就労 B 検討会議	秋月正博、橋本友紀、三宮英朗、中田真子、中嶋想空
9 月 6 日	就労 B 検討会議	秋月正博、橋本友紀、三宮英朗、中田真子、中嶋想空
10 月 9 日	就労 B 検討会議	秋月正博、橋本友紀、三宮英朗、中田真子、中嶋想空
11 月 16 日	中堅職員会議	秋月正博、橋本友紀、三浦佳菜子、三宮英朗、矢野佐和子
12 月 10 日	生活介護職員会議	秋月正博、橋本友紀、矢野佐和子、牧征那、橋本今日子、橋本叶枝
1 月 4 日	全体職員会議	全職員
1 月 8 日	就労 B 検討会議	秋月正博、橋本友紀、三宮英朗、中田真子、中嶋想空
2 月 20 日	事業担当者会議	秋月正博、橋本友紀、三浦佳菜子、矢野佐和子、中田真子
3 月 5 日	就労 B 検討会議	秋月正博、橋本友紀、三宮英朗、中田真子、中嶋想空
3 月 14 日	中堅職員会議	秋月正博、橋本友紀、三浦佳菜子、三宮英朗
3 月 27 日	全体職員会議	全職員

2、学生実習受け入れ（6 人）

実習生氏名	受け入れ期間	学校・機関名	担当職員
堀 杏里さん	9 月 2 日～9 月 12 日	別府大学短期大学部	橋本友紀 三浦佳菜子
松尾 有將さん	11 月 27 日～12 月 7 日	大分大学教育福祉課学部	秋月正博 橋本友紀
山崎 亜美果さん	11 月 27 日～12 月 7 日	大分大学教育福祉課学部	秋月正博 橋本友紀
伊東 賢伸さん	11 月 27 日～12 月 7 日	大分大学教育福祉課学部	秋月正博 橋本友紀

奥村 友音さん	2月17日～2月27日	別府大学文学部人間関係学科	秋月正博 中田真子
楠田 ななさん	2月17日～2月27日	別府大学文学部人間関係学科	秋月正博 中田真子

5、支援学校生徒実習受け入れ(9回)

実習生氏名	受け入れ期間	学校	担当職員
小野 紗友莉さん	5月13日～5月24日	竹田支援学校	秋月正博 橋本友紀
阿南 友大さん	5月13日～5月24日	竹田支援学校	秋月正博 橋本友紀
内村 龍之介さん	5月13日～5月24日	竹田支援学校	秋月正博 橋本友紀
工藤 翔さん	5月13日～5月24日	竹田支援学校	秋月正博 橋本友紀
小野 紗友莉さん	9月30日～10月18日	竹田支援学校	秋月正博 橋本友紀
阿南 友大さん	9月30日～10月18日	竹田支援学校	秋月正博 橋本友紀
内村 龍之介さん	9月30日～10月18日	竹田支援学校	秋月正博 橋本友紀
工藤 翔さん	9月30日～10月18日	竹田支援学校	秋月正博 橋本友紀
葛城 大輝さん	10月16日～10月22日	大分附属支援学校	秋月正博 橋本友紀

第5章 総括

新規事業所の開所から2年目を迎えた令和6年度はさらに飛躍の年となりました。1階で行っている就労継続支援B型事業は利用者さんの作業として、ドリップバッグや焙煎豆・粉の作成のための仕事に取り組みました。1年目は主に計量作業・ドリップ袋への袋詰め、コーヒー袋詰め、シール貼りといった単純作業がメインでしたが、職員でも難しいコーヒー豆の選別（ピッキング）の作業にも新たにチャレンジをしました。

また、お客さんからのニーズを聞いたり、流行りを調べたりしながら新商品の製作にも積極的に挑戦しました。ドリンクメニューについては新たにコーヒーゼリークリームラテやコーヒーフロート、ダルゴナコーヒーといった新メニューを作りました。またリキッド

コーヒーの作成、豆・粉・ドリップバッグについては生活介護利用者のアート作品をパッケージした期間限定ドリップバッグを作成し販売するなどの工夫をしました。また、竹田市役所や CO,s coffee、焼き菓子の bear、竹田支援学校など販路がさらに増えたことでコーヒー関連商品の売り上げは1年目よりも増加しています。地域との交流についても販売会に積極的に参加することで、多くの交流ができた1年となりました。(犬飼花火大会、すがおこども園お祭り、太分大学文化祭、わさだタウン販売会、エイトピアおおの販売会など) 販売している商品についての具体的な売り上げですが、年間でコーヒー関連商品の売り上げが 5,949,420 円、地域交流スペースで販売しているドリンクメニューの売り上げが 2,692,200 円、イベント販売で 416,300 円の収入がありました。売り上げの収支差額から工賃を計算し、月平均 45,409 円の工賃を支給できています。工賃を多く支給できたことで、令和7年度は就労継続支援B型の報酬単価で1番高い単価となります。

生活介護事業ですが、新規事業所での活動がスタートしましたが、利用者さんは全体的に比較的スムーズに移行ができました。アート商品は全体売上げが 783,301 円、純利益が 501,421 円計上でき、毎月の工賃で支給している額よりも多く純利益があったことから特別賞与を冬に利用者に支給しています。特別賞与を支給することで、利用者の中で仕事に励む意欲の向上が見られました。

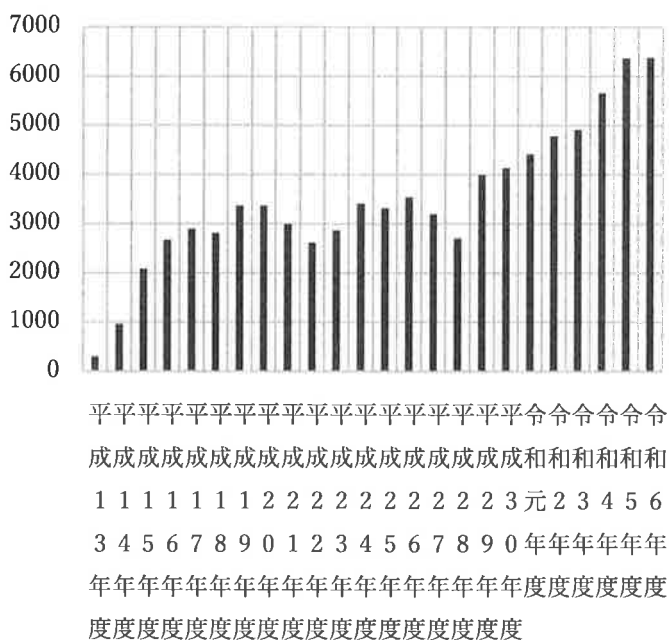
生活介護事業と就労継続支援B型事業について、支援学校の生徒の施設体験実習の受け入れを積極的に行い、高等部卒業後に通所してもらえるように、学校や家庭、利用者との関係作りに努め、延べ9名の生徒が実習に来ました。結果として令和7年度より生活介護と就労継続支援B型事業の利用者が5名(うち2名は他事業所との併用)増えることが確定しました。

放課後等デイサービス事業は、学校と家庭だけでは対応が困難なケースがあり、緊急的な対応が必要だったため、ほぼ毎月個別支援会議を開催し、安定した生活ができるようにサポートするなど、個別で対応が必要なケースに関しては丁寧な対応を心がけました。保育所等訪問支援事業に年間で51件行き、保護者の困りやニーズに対して学校と連携して関わられるように工夫をしました。このように、ニーズに応じて通常の受け入れとは違った時間帯での対応を行うなど、困りに対して柔軟に対応することを心掛けました。

利用総数年間推移

平成 13 年度	302 人	平成 14 年度	963 人	平成 15 年度	2094 人
平成 16 年度	2675 人	平成 17 年度	2906 人		
平成 18 年度	2817 人	(うち日中一時が 682 回)			
平成 19 年度	3374 人	(うち日中一時が 1118 回)			
平成 20 年度	3373 人	(うち日中一時が 1117 回)			
平成 21 年度	2997 人	(うち日中一時が 203 回)			
平成 22 年度	2622 人	平成 23 年度	2873 人	平成 24 年度	3412 人
平成 25 年度	3316 人	平成 26 年度	3546 人	平成 27 年度	3201 人
平成 28 年度	2714 人				
平成 29 年度	3992 人 (生活介護事業 1063 人放課後等デイサービス事業 2929 人)				
平成 30 年度	4137 人 (生活介護事業 1206 人放課後等デイサービス事業 2931 人)				
令和元年度	4422 人 (生活介護事業 1493 人放課後等デイサービス事業 2929 人)				
令和 2 年度	4782 人 (生活介護事業 1841 人放課後等デイサービス事業 2941 人)				
令和 3 年度	4912 人 (生活介護事業 2059 人放課後等デイサービス事業 2853 人)				
令和 4 年度	5658 人 (生活介護事業 2516 人放課後等デイサービス事業 2504 人日中一時支援事業 638 人)				
令和 5 年度	6371 人 (生活介護事業 2426 人放課後等デイサービス事業 2613 人就労継続支援 B 型事業 441 人日中一時支援事業 891 人)				
令和 6 年度	6388 人 (生活介護事業 2502 人放課後等デイサービス事業 2816 人就労継続支援 B 型事業 436 人日中一時支援事業 634 人)				

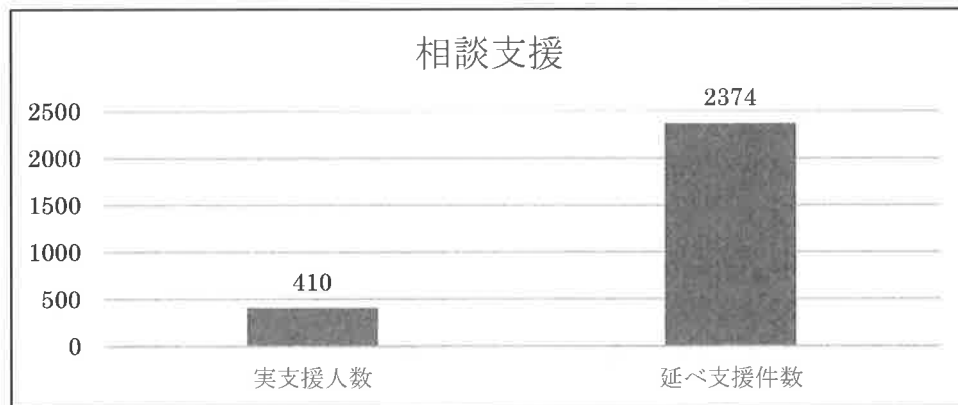
利用総数年間推移



第 1 章 相談支援・発達支援

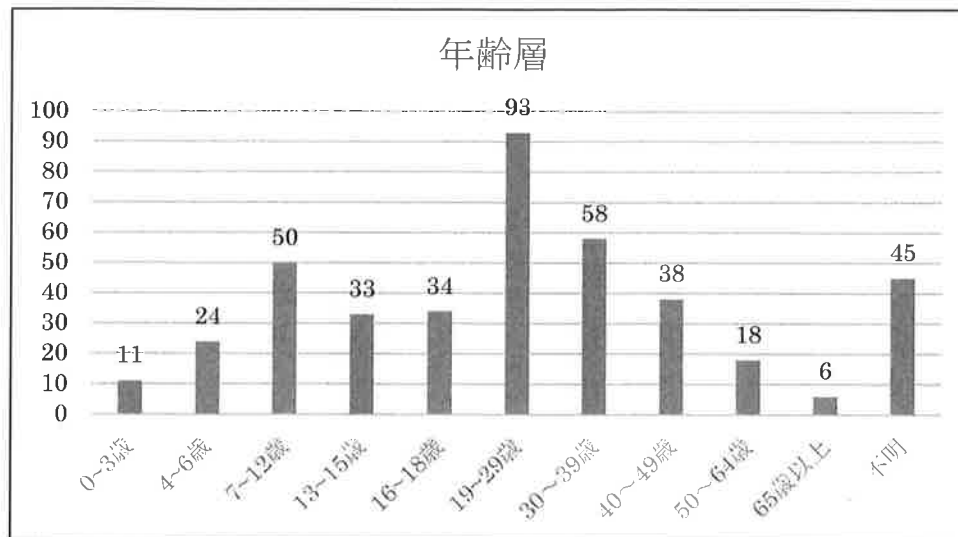
相談者数

実相談者数	410 人
延べ相談者数	2374 件



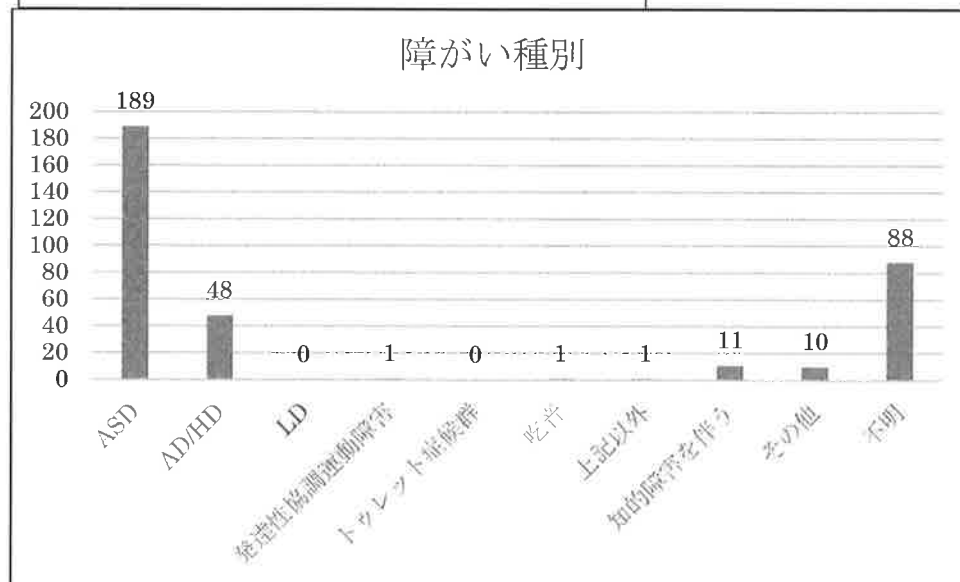
年齢層

0～3 歳（幼児期前期）	11 人
4～6 歳（幼児期後期）	24 人
7～12 歳（小学生）	50 人
13～15 歳（中学生）	33 人
16～18 歳（高校生）	34 人
19～29 歳	93 人
30～39 歳	58 人
40 歳～49 歳	38 人
50 歳～64 歳	18 人
65 歳以上	6 人
不明	45 人



障がい種別

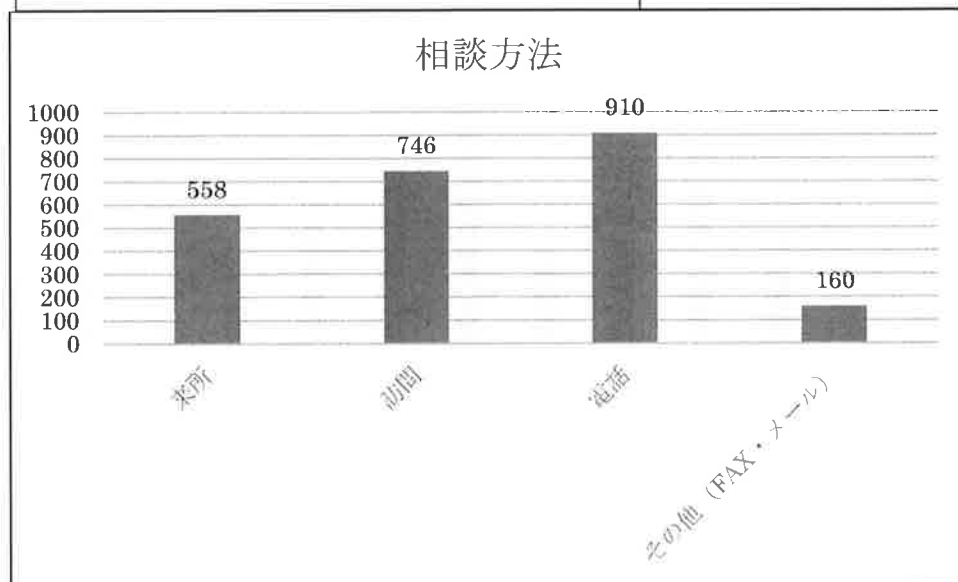
ASD	189 人
AD/HD	48 人
LD	0 人
発達性協調運動障害	1 人
トゥレット症候群	0 人
吃音	1 人
上記以外	1 人
知的障害を伴う	11 人
その他	10 人
不明	88 人



相談方法

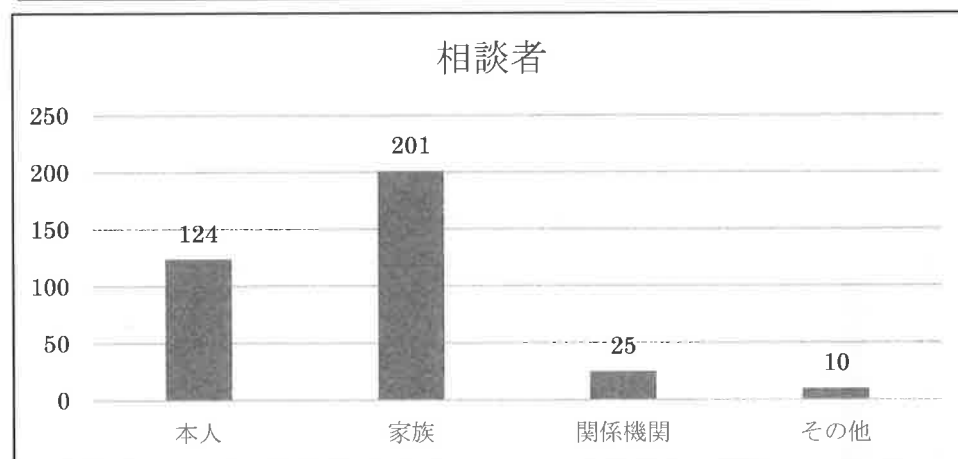
来所	558 件
訪問	746 件

電話	910 件
その他（FAX・メール等）	160 件



相談者

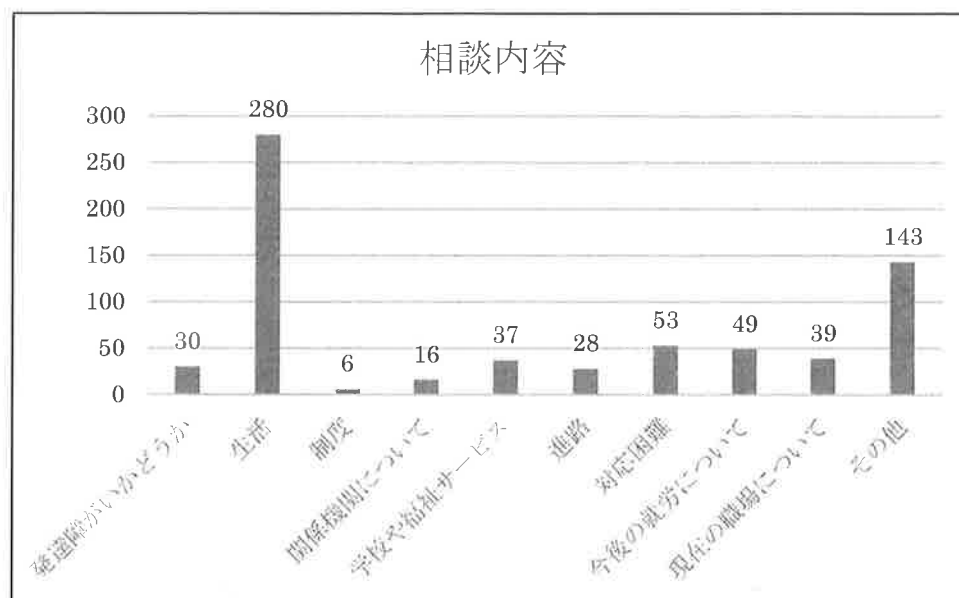
本人	124 人
家族	201 人
関係機関	25 人
その他	10 人



相談内容

対象者が発達障がいかどうか知りたい	30 件
生活に関することや家族ができることを知りたい	280 件
利用できる制度について知りたい	6 件
診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい	16 件
学校や福祉サービスに関する相談をしたい	37 件
進路や将来の生活に関する相談をしたい	28 件

対応困難な状況の改善について相談したい（強度行動障害、ひきこもりなど）	53 件
今後の就労について相談したい	49 件
現在勤めている職場に関する相談をしたい	39 件
その他	143 件



考察

相談件数については、前年度と同様の件数であり、例年並みと考えます。

年齢別に見ると、成人の相談が全体の半分以上を占めています。中でも 20 代の相談が最も多く、20 代を中心としてその周辺部（16 歳～18 歳、30 代）がついで多いという結果となりました。中高生に関しては、依然として不登校の問題や、進路などに関する相談が多いです。また、就労に向けた相談も多く、社会に出るにあたっての困りが多く、逆に言えばそういった情報が少ない現状があるということだと推察されます。

障がい種別に関しても、これまで同様、自閉スペクトラム症が圧倒的に多く、困りとしては対人関係の問題や、周囲に理解してもらえないことからくる問題が多いです。また、電話での問い合わせも依然として多く、特に受診したいので病院を紹介してもらいたいという問い合わせが多くありますが、特に成人期の専門的に診てもらえる医療機関が数か月～年単位待ちというところが多く、医療機関の受け皿の問題も課題と感じています。また、中学生で新規で医療機関を受診したいといった場合、ほとんどの精神科や心療内科は高校生以上が対象であり、療育センターなどでは幼児期から通っていないと受診できないというところが多く、中学生で受診する場合の難しさも課題と考えています。

相談者に関しては、保護者からの相談が多いですが、本人からのご相談も少しずつ増えてきている傾向が見られます。これは、インターネットやメディアを通して本人たちが調べるきっかけになっており、そこからつながってきていると推察されます。

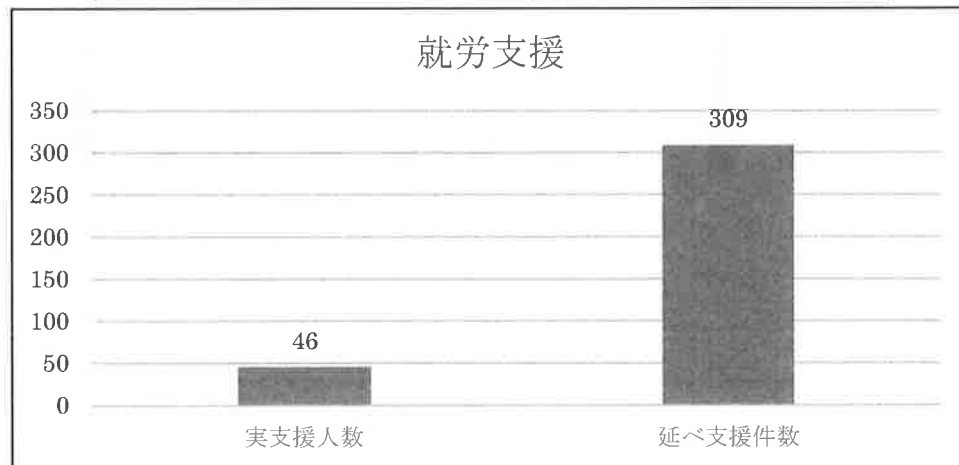
相談内容では、生活全般の困りが最も多くなっていますが、学校や職場、福祉施設など、社会との接点での困りが無いということではなく、そういった課題もある一方で、最終的には保護者からの相談が多いこともあり、家庭での対応や生活上の困りがメインになりやすいということだと推察されます。また、内容としては、どのように対応したらいいのかわからない、どういう障がいなのか理解できていな

いといったところから起きている問題がほとんどであり、やはりこの障がい理解や受容といった問題が最も重要であり、これが発達障がい支援の一番難しいところと言えます。

第2章 就労支援

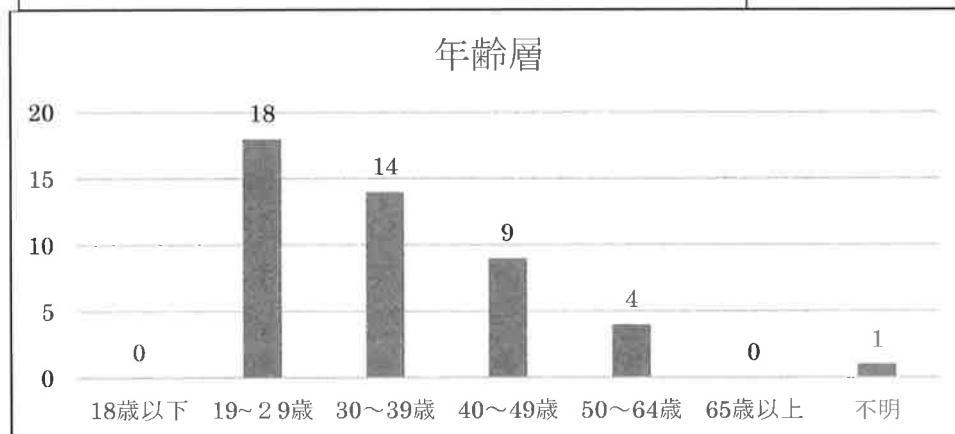
相談者数

実支援人数	46 人
延支援件数	309 件



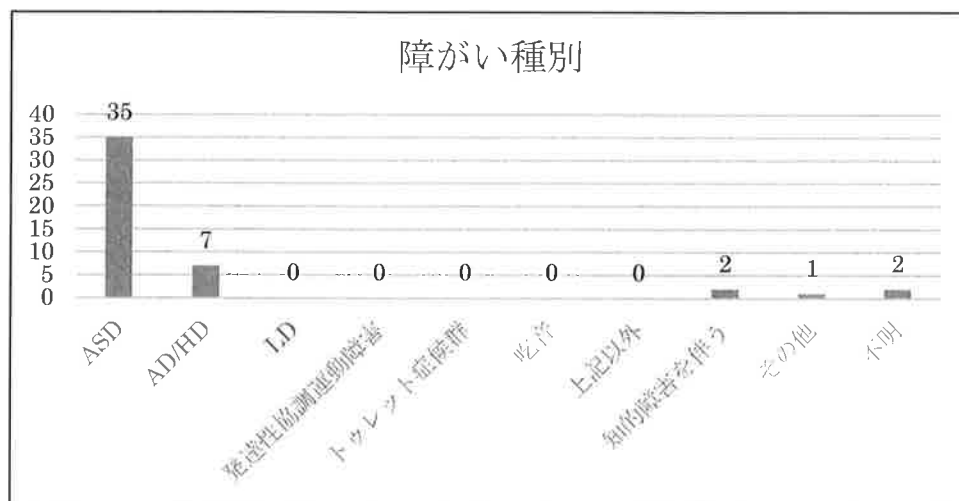
年齢層

18歳以下	0 人
19～29歳	18 人
30～39歳	14 人
40～49歳	9 人
50～64歳	4 人
65歳以上	9 人
不明	3 人



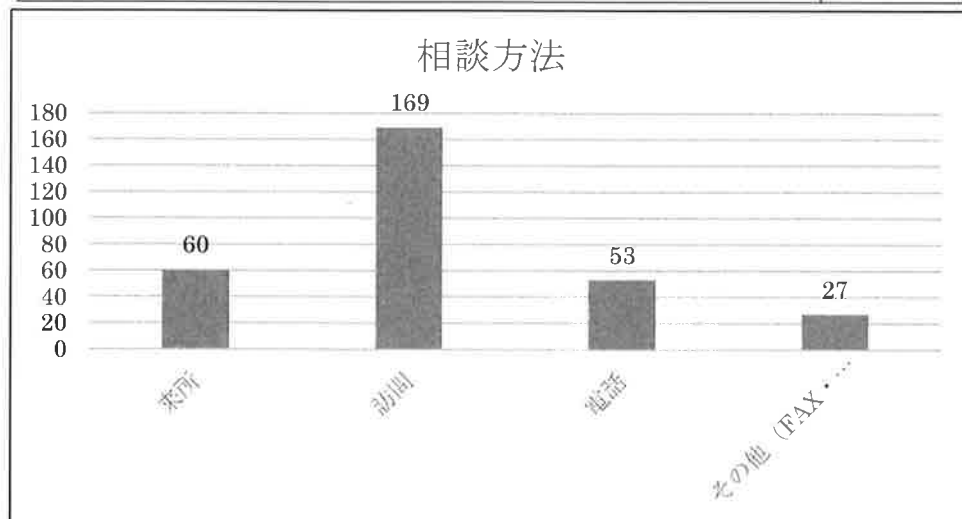
障がい種別

ASD	35 人
AD/HD	7 人
LD	0 人
発達性協調運動障害	0 人
トゥレット症候群	0 人
吃音	0 人
上記以外	0 人
知的障害を伴う	2 人
その他	1 人
不明	2 人



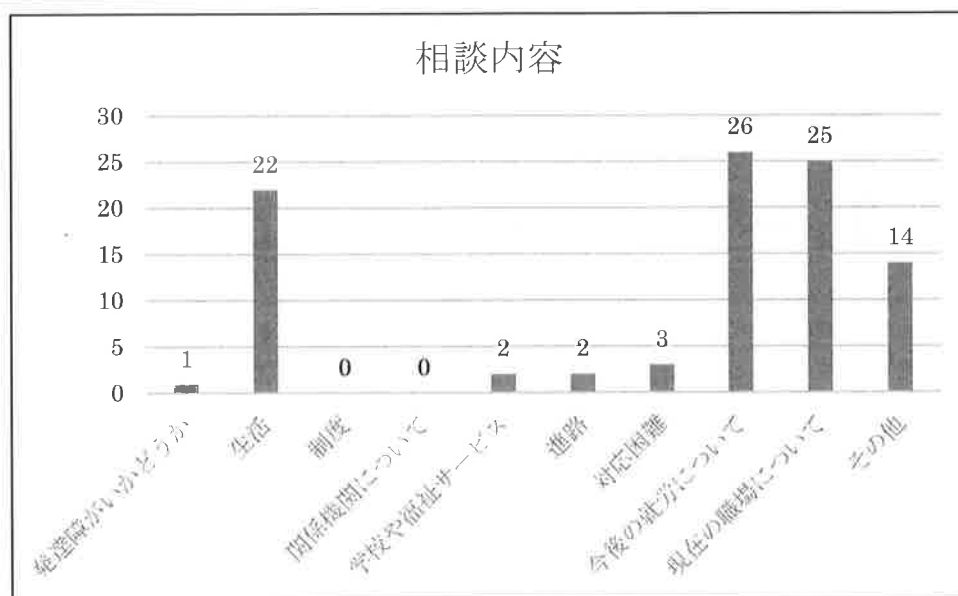
相談方法

来所	60 件
訪問	169 件
電話	53 件
その他（FAX・メール等）	27 件



相談内容

対象者が発達障がいかどうか知りたい	30 件
生活に関することや家族ができることを知りたい	280 件
利用できる制度について知りたい	6 件
診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい	16 件
学校や福祉サービスに関する相談をしたい	37 件
進路や将来の生活に関する相談をしたい	28 件
対応困難な状況の改善について相談したい（強度行動障害、ひきこもりなど）	53 件
今後の就労について相談したい	49 件
現在勤めている職場に関する相談をしたい	39 件
その他	143 件



考察

就労支援は、例年に比べると少し減少しました。これは、一人に対して継続的に支援が必要なケースが多くなっていることと、就労支援というよりも、その前段階の方の相談が増えたことが原因と考えられます。合理的配慮が義務化されたとはいえ、まだまだ合理的配慮が理解されていない状況はあります。障がい者雇用を積極的に行っている企業はともかく、いまだに障がい者雇用に消極的な企業は多く、障がいに対する偏見や、差別などは依然としてなくなっていません。障がい者を厄介者扱いするようなどころもありますし、「同じ給料なんだから同じくらい働いてもらわないと困る」と平然と言ってくる方もいます。そして、本人が特性や合理的配慮のお願いをしても、「わがまま」と捉えられたりすることも多く、支援者が間に入らないとうまくいかないケースが多い現状があります。そして、一般的には長く継続していけば問題は少なくなっていくと思われていますが、発達障がいの場合、環境が変われば問題が生じる可能性はあり、上司や同僚が変わったり、仕事の内容が変わるだけでも問題が生じる可能性が出てきます。長く続いているから大丈夫ということではなく、毎年異動の時期になると環境が変わるため、用心しておかなければいけません。そういう意味で、継続支援が非常に重要ですが、一般的には継続支援も1年経つと終了となることも多く、長く継続支援するシステムが現状ではありません。今後、就労支援を考える上では長期の継続支援を充実させていくことも必要ではないかと考えています。

第3章 普及啓発・研修

センター主催又は共催 で企画した研修	内訳	実施件数	延べ参加人数
	教育関係者を参加対象にしているもの		
	捜査及び裁判に関する業務に従事する者を主たる参加対象者としているもの		
	上記以外を主たる参加対象としているもの	47	522
合計		47	522
外部から講師依頼を受けた研修（講師派遣）	教育関係者を参加対象にしているもの	7	150
	捜査及び裁判に関する業務に従事する者を主たる参加対象者としているもの	2	50
	上記以外を主たる参加対象としているもの	62	2058
	合計	71	2258

大分県発達障がい者支援専門員等派遣

派遣件数	件数	対象	件数
SV 派遣	78	児童	78
メンター派遣	11	成人	11
合計	89	合計	89

派遣先

派遣先	件数	派遣先	件数
保育園（保育協議会等）	9	相談支援事業所	2
幼稚園（認定こども園）	15	障がい者就業・生活支援センター	0
小学校	12	障がい者通所施設	3
中学校	2	障がい者支援施設	1
高等学校	2	健診・発達相談会	0
特別支援学校	0	自立支援協議会	0
適応指導教室	0	医療機関	0
放課後児童クラブ	5	家族会	4
子育て支援拠点	0	行政	9
児童家庭支援センター	0	社会福祉協議会	8
障がい児通所支援事業所	13	その他	4
児童入所施設	0	合計	89

普及啓発に関しては、養成研修をはじめ、各種研修講師など、ほぼ変わりませんでした。SV 派遣については、今年度は予算の都合上上半期しか受けることができませんでしたが、それでも 89 件ありましたし、要請自体は例年通りたくさんのお問合せをいただきました。その後來た要請に関しても、すべてお断りするわけではなく、コンシェルジュやイコールで対応したものも多くありました。継続してもら

いたいという要望は来ていましたので、今後も予算を確保しつつ継続して行っていきたいと思います。

4 章 職員の体制

センター長	1 名
相談支援担当	1 名
発達支援担当	1 名
就労支援担当	1 名
地域支援マネージャー	1 名

第 5 章 職員への研修

発達障がい者支援センター全国連絡協議会
発達障がい者支援センター九州ブロック会議
大分県発達障がい研究会
九州自閉症研究協議会

第 6 章 総括

大分県発達障がい者支援専門員（以下、SV）養成研修を修了された方が 400 名を超え、地域での発達障がいへの理解や支援の基盤が日々構築されてきています。九州や全国の発達障がい者支援センターが集まる機会がありますが、その中でも常にこの養成研修や SV のシステムについては他県からも注目され、質問や問い合わせなどがあります。この研修では、保育士、教師、社会福祉士、ST、OT、心理、看護師など、多分野の職種が同じ研修を受けて職種を超えた大規模な多職種協働のネットワークが作れることに大きな意味があると考えています。発達障がい支援において、一つの事業所や特定の人だけで抱えるのは得策ではありません。いろいろな人や事業所が関わることでよい成長をしていきます。そういう意味ではこの養成研修はネットワークを作りやすい構成になっていますし、SV になってからも、圏域ごとに活動しており、年々ネットワークが拡大していつています。こういう顔の見れる関係というのは連携していくうえでも非常に重要で、イコールとしても大変ありがたいです。今後もより良いネットワークができるよう養成研修を行っていきたいと思います。

相談に関しては、依然として中高生の不登校や成人期における引きこもり、就労に関する相談が増加しています。また、相談の多くは自閉スペクトラム症の方が多く、発達障がい支援においてやはり自閉スペクトラム症の方の支援が最もニーズが高いことが伺えます。特に、不安の強さや確認の多さ、人の気持ちをうまく解せないことからくる自己中心的な言動など、感覚的に理解しにくい特性があることから、周囲は育てにくさを、本人は生きづらさを抱えてしまいます。近年、多様性という言葉が当たり前のように使われ、社会も変化してきていますが、発達障がいの多様性については、まだまだ受け入れられていないように感じています。そうした理解のない環境により、強度行動障がいや犯罪、引きこもりなどに繋がってしまうことが多いのがこの発達障がいです。こういった二次障がい、三次障がいを引

き起こさないですむように、これからもより一層発達障がいの支援体制を充実させていく必要がある
と考えます。

ホームヘルプサービスセンター らすかる事業報告

第1章 基本概念

1. 基本理念

- ①自立支援 利用者が自ら創る主体的な生活を尊重し、地域社会での自立の支援を行います。
- ・利用者の個性を尊重し、本人の意思または家族の意思をくみ取り、地域生活の場で支援しました。また、地域生活との橋渡しの存在として、利用者の想いを伝えていく支援をしました。
- ②才能支援 様々な経験を通して、個々の能力の保持増進、また、可能性を引き出し、生きがいのある生活を地域で送れるよう支援します。
- ・地域社会に出ていくことで、様々な経験を積み、利用者の個性を育みつつ、自発的なコミュニケーション、活動、創作を生かす支援をしました。
- ③日常生活支援 居宅において安全で快適な日常生活を営むことができるよう入浴、排泄及び食事等の援助、調理、洗濯及び掃除等の家事、生活等に関する相談支援、並びに外出時における移動の援助その他生活全般にわたる援助を適切に行います。
- ・日常生活の苦手な部分の手伝いをするとともに、外出時の安全確保、地域との関わりの補助をしました。
- ④個別支援 個人を尊重し、その人自身の生活がより豊かなものになるよう、置かれていた状況、環境に応じて、利用者の思いに沿った個別の支援を行います。
- ・個性を尊重し、環境調整を行いつつ、利用者の思いに沿った支援をしました。それにより、自己肯定感、安心感を得てもらい、支援を楽しんでもらえるように取り組みました。個別支援として、利用者に関わる他の事業所、学校と支援担当者会議等で連携を深め、「なごみ園」、「大分県発達障がい者支援センター」「めぶき園」と話し合い、支援についての指導や助言や意見の交換等のサポートを受け、「生活の場」を安心・安全にすることをしました。
- ⑤心のケア 「癒し」をテーマとしたメンタルケアを通して、地域で安心して生活できるよう支援します。
- ・本人の思いに沿った対応を心がけ、日常生活のストレスを発散できるよう、外出の際は、商業施設での買い物・プール・散歩・公園・遊具等利用して、余暇時間を楽しみつつ、心の安定を図る支援をしました。

2. 営業内容

- ① 営業日 月曜日～日曜日
- ② 営業時間 相談に応じる
- ③ ヘルプ内容 身体介護、家事援助、移動介護、行動援護、その他必要に応じた相談・助言

第2章 利用者の利用状況

1. 令和6年度月別の利用状況

年 月	身体介護	行動援護	移動支援	利用回数計	時間計数
R6. 4月	34回	94回	0回	151回	273H
5月	18回	65回	0回	129回	190.5H
6月	22回	86回	0回	130回	273H
7月	24回	89回	0回	136回	255.5H
8月	16回	89回	0回	118回	273.5H
9月	28回	94回	0回	128回	283.5H
10月	32回	92回	0回	133回	268.5H
11月	30回	78回	0回	138回	242H
12月	28回	78回	0回	121回	225.5H
R7. 1月	30回	79回	0回	117回	243.5H
2月	28回	85回	0回	133回	258H
3月	28回	91回	0回	142回	279.5H
合 計	318回	1,020回	0回	1,338回	3,066H

2. 市町村別の利用状況（令和7年4月30日現在）

地 域	契約者数(今年度新規)	地 域	契約者数(今年度新規)
豊後大野市	6名（0名）	別府市	0名（0名）
大分市	19名（0名）	竹田市	1名（0名）
佐伯市	0名（0名）	臼杵市	0名（0名）

第3章 総括

利用者や保護者のニーズに沿ったサービスの提供を行っている。主に、プール・温泉・屋外（海岸、河川、公園等）の利用を中心に外出している。兼務ヘルパーの確保が前年度よりも更に厳しくなり、受け入れ利用者数は引き続き制限している状況となった。人員不

足の現状の中でも、既存の利用者については、それぞれのライフステージの変化やニーズに合わせ、支援内容の見直しを行い、公用車の使用を減らし、公共交通機関を利用しての外出支援を検討、移行している。また、めぶき園、どんこの里、なごみ園などと連携し、当法人を利用されている方を中心に、日中活動後の継続したサービス提供に取り組む事で、安定した生活につなげている。

利用者各々のサービス担当者会議に参加することで、利用者に関わる各事業所や学校とで情報交換を行い、保護者との関わりを深めることで、本人の個性を理解し、意見や支援技術を共有することができ、利用者の希望する生活や支援の方針が決まり、サービス利用計画案によりそれぞれの役割や課題が明確化され、利用者の日常生活全般を知ることができたことで、より安定した支援へとつながっている。

ヘルパー会議では、利用者への対応や支援者の心構え等について検討し、兼務ヘルパーにも伝達することで、全員が共通認識をもった上で、統一した支援に取り組めるように心掛けている。虐待防止のチェックリストについても年3回実施することでヘルパー全員が再確認し、虐待防止に努めている。

今後もスタッフの質の向上の為、会議を通して伝達研修・ケース検討を実施し知識や経験をヘルパー全員の財産にし、「法人の顔」として恥ずかしくない人材育成に取り組み、法人内外での連携を図り、各専門分野での意見、支援技術を共有し、保護者へより専門性の高い助言、支援を継続していく。

令和6年度 指定共同生活援助事業所 グループホームかわしま 事業報告

【目 的】

利用者が地域において共同生活をしながら自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように、利用者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて共同生活住居において、入浴、排泄又は食事の介助、相談、その他の日常生活上の援助を適切かつ効果的に行います。

【運営方針】

関係法令を遵守し、他の社会資源との連携を図った適正且つきめ細やかな共同生活援助サービスを提供し、快適な生活の場を目指します。

【施設の概要】

(1)事業所の種類	指定共同生活援助（介護サービス包括型）
(2)事業所の名称	共同生活援助事業 グループホームかわしま
(3)事業所の所在地	(A・B棟)大分県豊後大野市犬飼町下津尾 3709 番地 8 (戸次棟) 大分県大分市中戸次 4454 番地 1
(4)管理者	近藤 暢秀
(5)サービス管理責任者	近藤 暢秀
(6)主たる対象者	知的障害者
(7)現 員	17 名（A棟:7 名、B棟:6 名、戸次棟:4 名）

【個別支援計画】

利用者のおかれている環境及び日常生活全般の状況等を通じて、利用者及びその家族が希望する生活や課題を明らかにし、適切な支援内容の把握に基づき、個別支援計画を作成します。個別支援計画の内容について、利用者とその家族などに対して説明を行い、文書により同意を求めます。

【支援内容】

①日 課

7 : 0 0	起床・検温 清掃（居室・廊下・トイレ等）
8 : 0 0	朝食・歯磨き
8 : 4 0	出勤（めぶき園・なごみ園・どんこの里いぬかい）
↓	↓（各事業所で活動。休憩。）
1 5 : 5 0	帰園（なごみ園の利用者・どんこの里いぬかい・めぶき園の利用者）

	おやつ
16:00	入浴・洗濯
18:00	夕食・歯磨き
	余暇活動（外食・買い物・コーヒータイム・おやつ等）
20:00	学習（実習日誌・日記の記入等）
	自宅への電話
22:00	就床

※月～金曜日は上記の流れ。

※土～日曜日はグループホームで過ごす為、活動はなし。

②日中活動

日中は、15名がどんこの里いぬかいにて生産活動や体力向上訓練等に取り組み、1名がめぶき園、1名がなごみ園で活動に取り組んだ。なごみ園以外は全て公用車で送迎した。

③食 事

食事担当の職員を配置することで、朝食と夕食の全ての食事をグループホームかわしまで調理して食べた（担当職員が公休等で不在の場合は、どんこの里いぬかいの調理員がフォローに入った）。肥満防止の為、白米の量を調整する等して健康管理に留意した。土曜日の夕食は在園者が少数の為、外食での対応とした。月1回の誕生日会（誕生者がいる月のみ）、クリスマス会やハロウィンパーティー等楽しい行事も夕食時に実施し、少人数の特徴を生かしたメニューも取り入れ、家庭的な雰囲気の温かみのある食事を提供した。

お誕生日会	4/18、5/14、6/12、7/27、8/20、9/11、10/29、12/24、
	1/29

④入 浴

毎日グループホームかわしまで入浴を行った。男性はA棟、女性はB棟の浴室を使用。戸次棟の利用者は戸次棟の浴室を使用。毎日男性、女性それぞれ担当の職員が見守り及び支援を行った。

⑤洗 濯

A棟・B棟・戸次棟にそれぞれ洗濯機を設置。入浴後に各自で洗濯し、干すようにしている。利用者全員がほぼ問題なく取り組むことが出来ている。かわしま棟は洗濯物が乾きにくい時は大型乾燥機を、戸次棟は除湿器を使用することで、乾燥に役立てている。

⑥余暇活動

グループホームかわしまでの生活をより楽しく充実したものにするため、余暇活動には常に力を入れて実施した。夜間レク（カラオケレク・買い物レク・外食レクを月1回ずつグループごとに実施）、コーヒータイム（毎週金曜日）、夜のおやつ（月～金曜日）はこれまで通り実施。その他、ビデオ鑑賞やカラオケ等、利用者のリクエストに応じて実施している。今年度より外食レク、カラオケレクを再開し実施した。概ね落ち着いて参加することができ楽しめている。

グループ	内容	日 付
A・B棟	食事	4/20、5/21、29、6/13、17、7/18、8/21、26、9/6、12、 11/27、 11/28、1/16、27、3/18、31
	買い物 カラオケ	4/11、5/16、23、30、6/5、27、7/17、8/16、30、9/17、26、 10/15、10/31、11/19、22、12/17、1/14、2/13、27、3/14、27
戸次棟	食事	4/20、5/28、6/20、7/27、8/8、9/30、11/14、1/20、3/6
	買い物	4/11、5/15、6/17、7/31、8/21、9/17、10/16、11/25、12/17 1/14、2/4、3/19
その他		ハロウィンパーティー → 10/29 かわしま一泊旅行 → 2/20、21 クリスマス忘年会(12月の夕食レク) → 12/19

- ・毎日、夜のおやつタイム、金曜日コーヒータ임을実施した。
- ・毎日、夜の自由時間に実習日誌、日記を書き、職員が閲覧した。
- ・希望者は夜、自宅へ電話をしている。

⑦役割分担

トイレ、浴室、洗面所、廊下掃除などは、役割分担を決めて利用者に責任を持って行ってもらった。食事の準備や片付けは職員が行ったが、配膳等手伝ってもらい、日常生活に必要な技術を少しずつ身につけてもらうようにした。決められた役割はほとんど忘れることなく取り組むことができるようになっている。

⑧地域交流

河島地区(自治会)の行事や集会、清掃日などには職員が必ず出席し、近隣住民の方々と交流を図るよう努めている。今年度は7月の大掃除のみ参加し、河島天神区総会は中止となった。

河島天神区大掃除	7/7
いぬかい秋祭り(天満社秋季大祭)	不参加
河島天神区総会	中止

⑨定期健診及び検査

《内科健診》年2回実施

(内容)一般診察・検尿・血圧測定

(対象)利用者全員

日 付	実施医療機関	利用者
令和6年 8月 5日	博愛診療所	17名
令和7年 2月 3日	長尾医師	17名

《血液検査》

(内容)血液一般・生化学

(対象)利用者全員

日 付	実施医療機関	利用者
令和6年10月18日	地域保健支援センター	17名

《胸部レントゲン検査》

(対象)利用者全員

日 付	実施医療機関	利用者
令和6年10月18日	地域保健支援センター	17名

《婦人科健診》

(対象)女性利用者

日 付	実施医療機関・内容	利用者
令和6年12月	三重病院(乳がん)	女性4名
令和7年 1月	安達産婦人科(子宮がん)	女性4名

《上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)》

(対象)36歳以上の利用者

日 付	実施医療機関	利用者
令和6年6月～ 令和7年3月	大久保内科外科・内視鏡クリニック	36歳以上で保護者の同意が得られた利用者

【総 括】

平成22年1月1日に運営を開始したグループホームかわしまは、地域の理解や協力も得られ、概ね定着した。その中で昨年3月にグループホームの利用者拡大に向け、かわしま棟の利用者1名を戸次棟に移動、4月にはめぶき園の利用者1名をかわしま棟に受け入れた。初めてのグループホームでの生活であったが、めぶき園で一緒に過ごした利用者が大半だったこともあり、すぐに馴染んで楽しんで生活している様子が伺える。

今年度はこれまでコロナの影響で活動が制限されてきた一泊旅行や夜間レク、クリスマス忘年会などの夜間の外出もコロナ前の体制に戻して実施した。かわしま棟、へつぎ棟で毎月カラオケレクや本屋レク、夕食レクをグループ毎に行い、誕生日会も毎月どんこレストランで実施した。また、2月には5年ぶりに一泊旅行に行き、長崎のハウステンボスやペンギン

ン水族館で、乗り物に乗ったり、ペンギンと遊んだり、宴会でご当地の名物を食べたり、カラオケで歌ったりととても充実した楽しい時間を過ごすことができた。利用者は日中活動で得た工賃で旅行やレクに行くことを励みに頑張っている様子が伺える。開設当時から継続している夜間の学習（日誌の記入や計算学習）においては、利用者とゆっくりと時間をかけてやりとりできる貴重な時間となっており、新しく入った利用者も実施しており、よりよいコミュニケーションのツールとなっている。今後も引き続き支援の一環として行っていく。

生活の中で感染症に関する対策は日々実施しておりほぼ定着しているが、7月18日～8月上旬にかけて利用者3名、職員6名のコロナ陽性者が確認され、年末年始にはインフルエンザが流行し、利用者8名、職員5名が罹患した。また3月にも利用者3名のコロナ陽性者が出た。コロナ渦からこれまで十分注意し生活してきたが、発熱などの感染症の可能性がある利用者が出た時は、できる限り隔離棟へ移動し、全員部屋食とし、対応する職員は防護服を着用、洗濯物は感染者の物とは別にし、ごみの分別も完全にするなど対策を徹底した。その成果もあり、3月の感染では職員に感染が拡大することはなかった。また、事業所の収支の影響を最小限にする為、毎日検温を徹底し、平熱者は生活介護の日中活動に参加するなどの対策を講じたことで、経営に及ぼす影響も少なかった。集団生活では感染を避けて通れない観点から、今回も隔離棟が十分に生かされたこと、そして何より迅速に対応策を講じ、職員全員が意識を高く持ち事業所一体となって真摯に業務に取り組んだことが感染の拡大を抑えられたと言える。夜間の利用者の体調不良については、緊急を要する場合は宿直者が看護師に連絡し情報を伝え、必要と思われる場合看護師は、グループホームに出向き状態観察を行って、場合によっては夜間救急外来を受診するが、今年度は一度受診する事例があった。

グループホームを開設して以降、今日まで大きな問題もなく運営ができている背景には、保護者や地域の方々の協力があり、大変感謝している。恒例の地区行事である天神祭りは今年度は実施されたが、利用者の高齢化と安全の観点から参加は見送った。今後は保護者の意見や利用者の気持ちに寄り添いつつ、参加について模索していきたい。草取りやゴミ置き場の清掃等は地区の一員として積極的に参加して交流を図り、連絡や情報共有を密にする等良い関係を保つことができている。保護者においては、感染症や高齢になったこともあり集まる機会は持てなかったが、週末帰宅の際に、グループホームでの状況や変化等を報告したり、帰宅中の様子等をうかがう等して情報の共有に努めた。また年に1～2回の帰宅の利用者の場合には、定期的に事業所から連絡をして状況を伝える等緊密な連絡を取ることを心掛けた。保護者も高齢化して、全体的に在園する利用者が増えてきている傾向にあり、今年度は年末年始も在園の利用者がいた。そのような利用者にも家庭で過ごすのと同じように充実した生活が過ごせるように手厚く支援するようにした。保護者と時間を取って話すことが難しくなってきたため、体調に関することなど必要なことはその都度電話連絡をし、話した情報は職員間でも共有するようにした。保護者から聞いた様子や日々の変化、また社会情勢や制度の変化等は、職員会議の中で事業所研修として取り上げ話すようにし、常に意識を高く持つようにした。帰宅帰園の送迎が、保護者の対応では難しく要望があった場合は事業所が送迎を担った。「出来る限り帰宅の希望を叶えてあげたいが、保護者も高齢となって

身体や運転がきつくなってきたので、送迎してもらえることはとてもありがたい」とのご意見をいただいている。

今年度に発生した感染症については、利用者の健康に関することを保護者と情報共有を徹底して行っており、協力体制もできている。今後も保護者、地域の方々と良い関係を保ち、利用者・職員ともに過ごしやすい事業所運営を行っていく。

令和6年度 指定障害福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい

事業報告

第1章 運営理念

(1) 目的

利用者に福祉的就労の場を提供するとともに、就労に向けての知識及び向上に努め、自立と社会参加を図ることを目的とする。また、生きがいとしての生産活動や余暇的、文化的活動を提供する。

(2) 方針

- ① 人権と主体性を尊重し、常に利用者の立場に立って支援する。
- ② 自立した日常生活及び社会生活を営めるように支援する。
- ③ 安心感と信頼関係に基づき、チームワークによる支援を行う。
- ④ 就労に必要な知識及び技術、また対人面のスキル向上に向けて支援を行う。
- ⑤ 地域や家族との結びつきを重視し、関係機関との連携に努める。

第2章 施設の概要

- | | |
|-------------|---|
| ① 名称 | 指定障害福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい |
| ② 所在地 | 大分県豊後大野市犬飼町久原1863番地の8 |
| ③ 利用定員 | 就労継続支援A型10名、生活介護20名 |
| ④ 運営主体 | 社会福祉法人 萌葱の郷 |
| ⑤ 管理者 | 近 藤 暢 秀 |
| ⑥ サービス管理責任者 | 工 藤 貴 志 |
| ⑦ 対象者 | 発達障がい者及び精神障害者・知的障害者 |
| ⑧ 設備の概要 | 厨房、フロア、事務室、販売所、更衣室、作業棟及び作業室、
A型～ユニットハウス、簡易トイレ、作業場、倉庫 |

第3章 事業概要

- (1) 営業日 月曜日から金曜日（土・日曜日は基本は休みとする）

(2) 日 課

- | | |
|-------|------------------------------------|
| 9:00 | 通所・更衣（ミーティング・体操）
活動開始（就労継続支援A型） |
| 9:30 | 体操、清掃、活動準備（生活介護） |
| 10:00 | 活動開始（生活介護） |
| 12:00 | 昼食、休憩 |

13:00 活動開始
 15:30 活動終了（生活介護）
 16:00 活動終了（就労継続支援A型）
 活動終了後、帰宅

（3） 作業内容

<就労継続支援A型>

◎畑作業

4月	苗植（ピーマン・ナス・ししとう）、播種（大根・人参）、防除、草切、畝立て
5月	収穫（ニンニク・玉ねぎ）、防除、草切
6月	収穫（大根・人参）、防除、草切、耕運、播種（落花生）
7月	収穫（人参・大根・ナス・ピーマン・ししとう）、ニンニクばらし、防除、草切、耕運
8月	収穫（人参・小ねぎ・ナス・ピーマン・ししとう）、ニンニクばらし、除草・草切、耕運
9月	収穫（ナス・ピーマン・ししとう）、播種（大根・カブ・人参・ニンニク）、防除、草切、畝立て、耕運
10月	播種（ニンニク）、草切、耕運
11月	収穫（大根・落花生・サツマイモ）、定植（玉ねぎ）、草切、耕運
12月	収穫（大根）、落花生ばらし、耕運、草切
1月	収穫（人参・葉玉ねぎ）、椎茸駒打ち、耕運、除草、堆肥散布
2月	収穫（葉玉ねぎ）、椎茸駒打ち、耕運、除草、堆肥散布
3月	収穫（人参）、播種（大根、小松菜、にんじん）除草、耕運、堆肥散布

※月例の畑会議の中で作付けや収穫の進捗、出荷、収支状況などのチェックを行った。

※月間、週間のスケジュールをたて、利用者の能力等を考慮し班編成を行った。

（総括）

昨年度9月に拠点の移転が完了し、今年度から本格的に新しい拠点の運用を開始した。昨年までは各現場に分散していた集荷場や野菜洗浄機やニンニク乾燥機などの各種設備を新拠点にまとめて設置したことで、収穫から出荷準備までの流れがスムーズになり効率が改善している。集荷スペースと駐車スペースも十分な広さが確保され、運搬用のトラックや利用者の通勤車両同士の接触トラブルなどもなかった。また夏場や冬場は空調設備のある休憩スペースができ、男女別の更衣室やトイレも完備したことで、利用者の快適性が向上し就労環境の改善につながった。新設の面談室では利用者の希望に沿って個別に面談できる機会が増え、支援者との関係性の向上にもつながっている。

利用者数の動向については11月に1名の利用者が地元の畜産公社へ一般就労し、1名欠員となったが、翌1月から新たな利用者が入りほぼ満定員を維持できている。日々の支援にあたっては利用者の心身の安定を図る為、現場には応援職員を加配し、手厚い人員配置を整えた他、利用者個々の特性や能力に合わせて作業種や作業量を分担したり、利用者同士の相性を考慮して作業場所を割り当てるなど様々な合理的配慮も行ったことで、殆どの利用者が年度を通じて体調面、精神面とも大きく崩れるこ

となく安定したサービス利用を継続できた。月例会議の中では利用者の状況、現場の環境、収支動向など事業所内で情報を共有し、課題の検討、改善にあたった。不安や不満などに細かに対応したことで、大きなトラブルに発展するようなことも見られなかった。

一部の利用者については体調不良や精神不調で通所が出来ないケースも散見されている。1名は腰痛により10月下旬から翌2月まで入院を含め長期療養しており、体調回復後もモチベーションが上がらずA型の復帰を迷っていたが、こちらから面談を持ちかけ提言したことで3月から現場復帰できている。もう1名は睡眠などの生活リズムの乱れから自宅に引きこもるようになり、11月下旬から翌1月までの間、殆ど通所ができなかった為、相談支援事業所、家庭とも改善に向けて話し合いを重ねた。途中、保護者への暴力で警察に指導を受けることがあり、相談員主導で保護入院していたが、2月からはいづれか通所できるようになっている。が、現在も精神不安や被害意識が強い状態が続いており、重点的な支援が必要である。

当事業所では福祉的就労という側面にウエイトを置いており、利用者の就労意欲の向上やサービスの利用促進につながっている反面、作業の非効率や繁忙時に集中的な労働力が賄えない等で収支の悪化要因となっている面も否めず、大きな課題となっている。増収を図る為、現在主力品となっているニンニクや落花生の増産に加え、今期から新たに椎茸の原木栽培をスタートした。小規模であるが、来年度秋の初出荷に向けて、生産体制や販売先の調整を現在行っているところである。来年度以降も収入の柱となるよう発展させていきたい。また農産物の販路については販売委託料が軒並み上がっており、収益を圧迫している現状がある為、自前で販売できる簡易的な店舗の設置を検討中である。戸次棟の1階に開設予定であり、内装や商品の選定など、こちらも来年度内のオープンを目指し計画的に進めていきたい。

今年度は臼杵支援学校からの依頼で実習生1名を受け入れた。法人内の放デイ利用児ということで支援学校、なかよし広場支援員とも連携して取り組んだ。A型においては、相談員や学校、ハローワーク、障がい者就業・生活支援センター等、幅広い関係機関との連携が不可欠であり、今後も緊密にチームワークの向上を図っていきたい。また昨年度から実施しているA型忘年会の企画については利用者に大変好評を博しており、互いの仲間意識や充実感を深める機会として今後も定着していきたい。引き続き就労支援を通して、利用者が心身ともに安定したリズムで社会生活を送れるようサービスを提供していく。

<生活介護>

機織り機での生地製作、機織り商品加工、販売を行う	・機織り作業 ・横糸用の布切り作業 ・縦糸の仕掛け ・生地加工 ・ラベル用シール切り ・商品ラッピング ・マスク製作
敷地内清掃	・草取り、ゴミ拾い ・公衆トイレの清掃、管理

アルミ缶つぶし	・アルミ缶つぶし、ペットボトル潰し、プルタブ外し ・アルミ缶回収、出荷
グループホーム清掃	・室内清掃 ・草取り、ゴミ拾い ・洗濯物仕分け
受注作業	・カッター組立作業 ・シイタケ作業 ・畜産公社での加工補助作業
なし園作業	・草取り ・摘果、摘蕾、袋掛け ・収穫、出荷 ・ネット修繕や柵作り等環境整備 等
レストラン作業	・レストラン業務 (接客、配膳及び下膳、盛付補助、食器洗浄および片付け、うどんゆで、ホールやトイレ清掃等) ・直販所内のレジ補助 (店内清掃、商品の品出しや補充、袋詰め等) ・弁当業務 (法人内職員用の弁当の盛り付け、配達準備等) ・製麺作業 (麺打補助、製麺所清掃) ・清掃作業
お菓子作り活動	・スイーツの製造、移動販売 (クッキー、マドレーヌ、パイなどの菓子製造、販売準備等)
体力向上訓練	・ランニング ・ウォーキング
クラブ活動	・絵画及びモザイク制作 ・ダンス、動作法

(総 括)

利用者数の動向については変動なく、年度を通じて安定的なサービス利用を継続できている。活動内容については一昨年度からスタートしたお菓子作りでは、めぶき園やこども園のおやつ用スイーツの受注を増やした他、なごみカフェへの卸用のスイーツや法人内職員向けのスイーツの受注、販売にも積極的に取り組んだ。レストランの来客が食後にお土産として購入したり、リピーターからの電話予約なども増えてきている。また従来からのラインナップに加え、かりんとうのバリエーションを増やしたり、えびせんや総菜系のパイ等の新商品を企画販売し、男性や年配層など客層も広がってきている。レストラン業務では、職域や近隣からの固定客や他施設から4～5名のグループでほぼ毎日利用する固定客などもあり、盛況時には入店待ちが出ることも多々見られた。またコロナ以降の流れで、今期もお

弁当テイクアウトの注文数も順調に増えている。収支のアンバランスについては、原材料や光熱費の高騰などで大きな課題となっている為、来年度の早い時期に全体的な価格の見直しを予定しており現在最終的な調整を行っている。外部からの委託作業（畜産公社での作業・ムラテックのカッター組立作業、成美の椎茸作業）では今年度も安定的な受注があった。地域交流、地域貢献の場としても大きな意義を感じるところであり、今後も関わりを深めていきたい。機織り商品やアート関連作品についても展示会やイベント（秋の交歓会、アートマーケット、ライトイットアップブルー等）に積極的に参加し販売促進を行った。なかでも利用者の自画像をモチーフにしたポーチが好評であり、販売会などでは毎回品切れになる売行きだった。利用者の作品や感性が多くの人目に触れ、利用者の活動が広く認知され身近に感じられる良い機会であるため、利用者の社会参加推進の意味においても、今後さらに注力していきたい。体力向上訓練として施設外でのランニングやウォーキング、ダンス等の活動にも継続的に取り組んだ。昨年度からダンスクラブの一つとして取り入れた動作法では、引続き講師の阿部氏による専門的なカリキュラムに沿って、力のコントロールが難しい利用者であっても身体の感覚を身に付けられるよう職員がマンツーマンで補助しながら取り組んだ。月例で実施している社会適応訓練については、アフリカンサファリやうみたまご、昭和の町などの観光施設や、ラクテンチや阿蘇の元気の森などの娯楽施設を利用した他、登山やバーベキュー、花見、餅つきなど季節に応じた内容で企画した。利用者と楽しみの時間を共有することで職員との関係性構築にもつながる為、今後も趣向を凝らした企画を検討していきたい。昨年度に続き特定月の土曜日にグループホームから通う利用者を対象に、9時30分～12時30分の3時間のサービス提供を行った。具体的な活動内容としては外出先での買い物や食事支援を行ったが、こちらも楽しみにしている利用者が非常に多く、生活の質向上にもつながっていると感じている。

どの活動においても、利用者の安心感や関係性の構築を最優先とし、現場の職員配置は基準を上回る手厚い配置を行った。また各利用者の特性や利用者同士の相性等を可能な限り考慮して、活動の振り分けや現場の環境調整を行っている。毎月の職員会議のなかでは、各現場から、その時々利用者の状態や動向について全職員で情報を共有し、若手職員を中心に課題対応や特性理解をテーマとするケース検討を行った。職員間で統一した支援に取り組んだことで、利用者の状態の改善や職員との信頼関係も進展していると感じる。今後も職員各人の情報感度や問題意識を高め、事業所全体の支援力の底上げを図り、サービスの充実を図っていく。

今年度も引き続き感染症防止に努めながら運営を行った。施設内のこまめな換気や、当番制でのアルコール拭きを、担当を割り当て継続的に実施した。世間一般の感染への懸念は年々薄れてきているなか、当事業所においてはレストランの一般客の出入りや自宅から通所してくる利用者も多く、今期中、以下の通りコロナ及びインフルエンザの集団感染があった。

【7月】コロナ感染…利用者3名、職員6名 【12月】インフルエンザ感染…利用者8名、職員6名
【3月】コロナ感染…利用者3名、職員なし

いずれも看護師主導で、抗原検査キットによる感染の早期特定、勤務調整による隔離等、その都度迅速に対応を行ったことで、感染被害は短期間で収束している。非感染者については通所を継続し、全体的なサービス利用の制限は行っていない。

コロナ期間中は自粛していた外部からの見学実習等についても、昨年度から受入を再開している。今年度は大分なごみ園やわくわくかんの保護者見学やSV初級見学の受入を行った。来年度はSV

中級研修の現場実習等も予定しており、内外との交流の場として今後も職員全体で携わっていきたいと考える。職員の各種研修についても同様に新人、中堅を問わず積極的に参加させていきたい。

利用者の利用状況

	生活介護	就労継続支援 A 型	合計	延利用日数
4 月	2 0	1 0	3 0	6 0 4 日
5 月	2 0	1 0	3 0	6 2 0 日
6 月	2 0	1 0	3 0	5 7 7 日
7 月	2 0	1 0	3 0	6 0 9 日
8 月	2 0	1 0	3 0	5 5 2 日
9 月	2 0	1 0	3 0	5 7 8 日
1 0 月	2 0	1 0	3 0	6 2 9 日
1 1 月	2 0	9	2 9	5 5 4 日
1 2 月	2 0	9	2 9	5 2 8 日
1 月	2 0	1 0	3 0	5 5 1 日
2 月	2 0	1 0	3 0	5 3 4 日
3 月	2 0	1 0	3 0	6 0 2 日

第 4 章 社会適応訓練

期 日	場 所	利用者数
R6.4.22(月)	別府ケーブルラクテンチ	2 0 名
R5.5.27(月)	A : おしばな工房いちりん亭 B : インディゴ C : ハンドメイド雑貨 KHO	1 9 名
R6.6.26(水)	A : アフリカンサファリ B : 阿蘇ファームランド 元気の森 C : サッポロビール日田工場	2 0 名
R6.7.31(水)	A : 内藤記念館 B : 大分市美術館、由布川溪谷 C : 稲積鍾乳洞、白水ダム	1 9 名
R6.8.28(水)	A : アミュプラザ (TOHO シネマ) B : うみたまご C : 大分空港、たのうらら	2 0 名
R6.9.25(水)	A : 関崎みらい海星館 B : ぶどう狩り (王様のぶどう旅行村農村) C : 昭和の町	2 0 名

R6.10.23(水)	A：るるパーク B：志高湖 C：豊後森機関車	20名
R6.11.20(水)	登山…天面山 ウォーキング…長者原ビジターセンター	20名
R6.12.10(火)	(クリスマス忘年会) 平和市民公園、フレンチレストラン 蔦の葉	20名
R7.1.22(水)	餅つき (なかよしホール)・扇森稲荷神社	20名
R7.2.20(木)	GH 利用者：一泊旅行 通所利用者：外食レク	20名
R7.3.26(水)	バーベキュー・カラオケ大会 (なかよしホール)	20名

第5章 職員研修実施状況

期 日	研 修 名	参 加 者
R6.5/25(土)、26(日)、8/16(金) R7.2/15(土)	動作法研修	樋口、岩田
R6.5/25(土)、6/1(土)、6/8(土)	強度行動障がい支援者養成研修	佐藤、嶋田 鳥嶋、森永
R6.6/26(水)	福祉業界のチームマネジメント研修	宮成
R6.7/10(水)、10/10(木) 11/21(木)	感染症研修 (県主催)	首藤、添田
R6.7/10(水)	プロ意識醸成研修	三宮
R6.7/31(水)	効果的な部下、新人育成の実務研修	十時
R6.8/16(金)	動作法研修	岩田
R6.8/23(金)	経営青年会セミナー	近藤
R6.9/4(水)	チームコミュニケーション力向上	岩田
R6.9/12(木)、13(金)	全国 GH 研修会 (兵庫)	近藤、工藤
R6.9/18(水)	メンタルヘルス研修	添田
R6.9/18(水)、19(木)	防火管理講習	大野
R6.11/6(水)	権利擁護・虐待防止研修	清田
R6.11/21(木)、22(金)	九州山口自閉症施設協議会 (福岡大会)	近藤、工藤
R6.11/26(火)、R7.2/10(月)	林福連携実践研修	野上、柴田
R6.12/4(水)	アンガーマネジメント研修	嶋田
R6.12.5(木)	竹田支援学校ワーキングフェア	近藤、柴田
R7.1/22(水)	クレーム対応研修	鳥嶋
R7.3/4(火)	メンター研修	樋口

※キャリアパス研修、SV 更新研修は適宜出席。

令和6年度 相談支援事業所プラス 事業報告

第1章 計画作成状況

	計画数	モニタリング数
障がい者	43	161
障がい児	45	89
(総数)	88	250

第2章 職員研修・協議体・講師等実施状況

1) 研修

期 日	研 修 名	場 所
R6.5.30	きらきらワークショップ	豊後大野市
R6.7.19	アルコール依存症対策関係者連絡会議	竹田市
R6.8.9	豊肥地域精神障害者地域移行実務者会議	豊後大野市
R6.9.3	精神保健連携福祉分科会	豊後大野市
R6.9.25	豊後大野市合同研修会	豊後大野市
R7.2.18	精神保健福祉連携分科会	豊後大野市
R7.2.21	精神保健地域移行研修	豊後大野市

2) 協議体

期 日	会 議 名	場 所
毎月	豊後大野市自立支援協議会 相談支援部会	豊後大野市
2ヵ月毎	豊後大野市自立支援協議会 生活支援部会・児童支援部会	豊後大野市
不定期	豊後大野市自立支援協議会 定例会	豊後大野市
不定期	豊肥地域精神障がい者地域移行支援協議会	豊肥保健所

3) その他

自閉症年少部会キャンプ 参加

第3章 職員体制

管理者	1名（常勤）
相談支援専門員	1名（常勤）
事務員	1名（非常勤）

第4章 総括

今年度も各事業所や関係機関と連携を密にすることで、個別支援会議や担当者会議等を問題なく取り組めた。利用者や保護者ともじっくり丁寧に関わることで少しずつ信頼関係を構築することが出来ている。

プラスαと毎月、業務における確認事項や対応について会議を設けたのが、問題解決につながり良かった。

豊後大野市からの相談業務委託は、9月で終了したが、困難事例について市やもうひとつの委託事業所と協議を重ね、解決することが出来た。また、市や他事業所のサポートも受けながら、何とか業務を遂行し、困難事例について支援することが出来た。

来年度、プラスαと合併することになり、豊後大野市から事業所は撤退することになったが、豊後大野市各関係機関の方々には、利用者とのやり取りや保護者への関わり等で配慮していただいたことに感謝し、今後も契約のある豊後大野市在住の利用者や家族のニーズに対して、よりよい支援プランを提供できるように努めていきたい。

令和6年度 いぬかいこども園 事業報告

第1章 施設運営

(1) 理念と方針

子ども達の発達と職員の働きがいとを最大限保障する施設を目指します

1. 子育て支援の核として、地域ニーズに応える施設を目指します
2. 行き届いた説明と情報開示により、信頼される施設を目指します
3. 常に業務内容の点検・検討を行い、安全と安心の向上を目指します
4. 多角経営と人事交流により、効率的で安定した運営を目指します
5. 人材育成と人事考課制度により、職員が働きがいと誇りの持てる施設を目指します

(2) 実施事業内容

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 教育保育事業（1号） | 月～金（9：00～13：00） |
| 2. 教育保育事業（2号・3号） | 月～土（7：00～18：00） |
| 3. 特別保育事業 | 月～土（7：00～18：00） |
| 4. 延長保育事業 | 月～土（18：00～19：00） |
| 5. 子育て支援センター事業 | 月～金（9：00～14：00） |

(3) 児童処遇（定員65名）

本年度は園児数62名でスタートし年度末には64名まで受け入れて事業運営を行いました。特別教育保育に関しては、なかよしひろばとの併行通所利用園児が3名在籍しており、個別ケース会議の実施等を通して関係機関との連携を図りながら支援しました。

延長保育は1時間延長を行いましたが、利用する家庭は多くありませんでした。一時保育はニーズが減少しているため、預かり保育のみ行いました。

子育て支援センターは、今年度も千歳の出張ひろばの活動も委託され実施しています。

1. クラス編成（令和7年3月31日）

クラス名	年齢	2・3号	1号
めばえ	0歳	4	
つぼみ	1歳	6	
つくし	2歳	9	
たんぽぽ	3歳	13	1
すみれ	4歳	14	1

さくら	5 歳	1 4	2
合 計		6 0	4

2. 事業編成（令和 6 年 3 月 3 1 日）

事業名	保育教諭数（パート）	その他の職員数
教育保育	1 0（2）	0
特別保育	1（1）	0
延長保育	交代制	0
子育て支援センター	1（2）	0
園長・副園長	1	1
主幹保育教諭	1	0
看護師・栄養士	0	2（1）
調理師	0	2（2）
運転手	0	0（1）
合計	1 4（5）	5（4）

3. 月別利用児童数（月初め）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	平 均 63 人
62 人	62 人	62 人	62 人	62 人	62 人	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
63 人	64 人	64 人	64 人	64 人	64 人	

4. 月別開園日数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合 計 2 9 1 日
25 日	24 日	25 日	26 日	24 日	23 日	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
26 日	24 日	24 日	23 日	22 日	25 日	

5. 月別特別保育利用数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	平 均 3 人
3 人	3 人	3 人	3 人	3 人	3 人	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
3 人	3 人	3 人	3 人	3 人	3 人	

6. 延長保育利用児童数（一日平均）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 7.5人
2人	9人	6人	5人	10人	22人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
9人	2人	5人	5人	6人	7人	

7. 月別子育て支援センター利用数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計
125人	118人	165人	203人	150人	214人	2,266人
10月	11月	12月	1月	2月	3月	大人 1,045人 子ども 1,221人
222人	233人	199人	219人	221人	197人	

8. 健康管理・感染症対策

子どもたちの体調の変化については様子を観察後、保護者へ連絡し病院受診等をお願いしました。園で起きた頭部の怪我については早急に対応し受診を行いました。園での子どもたちの体調の変化は、口頭でお伝えするようにして家庭と密に連絡をとるようにしています。併せて職員間の共有も随時行っています。

手洗い指導は、年2回手洗いチェッカーを使い子どもたちが実際に目で見て分かることで丁寧な手洗いの仕方や感染予防となる手洗いの大切さを伝えました。感染症対策として継続して職員による園内の定期的な消毒も実施しています。玩具に関しては、赤外線にて除菌・抗菌を行う機器を導入し定期的に使用しています。

厚生労働省や豊肥保健所における情報などをもとにほけんたよりを発行し、全体に周知しました。職員の健康管理については、職員健診やインフルエンザの予防接種を実施しています。

9. 年間保健行事

保健行事	歯科指導（6月）手洗い指導（4月・10月）
内科健診	全園児（前期5月11日）（後期11月16日）
薬剤師検査	水質検査
身体測定	全園児（毎月）
歯科健診	全園児（前期5月11日）（後期11月16日）
職員の健康管理	職員健診、インフルエンザ予防接種

10. 年間行事

（月例行事：誕生会・身体計測・避難訓練）

（隔週行事：運動遊び）

月	行事
4月	第10回入園式 園外保育(チューリップフェスタ見学 さくら組・すみれ組・たんぽぽ組) 保護者の会総会・お見知り会
5月	こどもの日楽しみ会 内科・歯科検診 芋の苗植え(すみれ・さくら組) 観劇(さくら組) 第1回保護者の会役員会 サッカー教室(さくら組)
6月	衣替え 保育参観・懇談会・給食試食会 歯科指導 食育講話 プール掃除 クッキング(たんぽぽ・さくら組) 犬飼中学校職場体験 こざいこども園年長児交流(サッカー) きらきらワークショップ(たんぽぽ組) 一日保育者体験
7月	プール開き 縁日ごっこ 七夕楽しみ会 クッキング(すみれ・さくら組) サマーナイト・お泊り保育(さくら組) 一日保育者体験 第2回保護者の会役員会 サッカー教室(さくら組)
8月	クッキング(たんぽぽ・すみれ・さくら組) 実習生受け入れ 夏のボランティア げんきはつらつ交流会 1号認定児夏季休業 こざいこども園年長児交流(プール) サッカー教室(さくら組) 1日保育者体験
9月	プール納め 防災クッキング 祖父母学級(すみれ・さくら組) クッキング(たんぽぽ組) ボディーペインティング 第2回保護者の会役員会 サッカー教室(さくら組)
10月	小運動会 大運動会 クッキング(すみれ組) 人権学習 社会見学(さくら組)
11月	歯科・内科検診 秋の遠足 芋ほり サファリごっこ クッキング(たんぽぽ・すみれ・さくら・つくし・つぼみ組) 親子研修遠足(たんぽぽ・すみれ・さくら組) 焼き芋・だんご汁大会 消防ひろば 軽スポーツ大会(すみれ・さくら組) サッカー教室(さくら組)
12月	はっぴょう会リハーサル はっぴょう会 クッキング(つくし・たんぽぽ・さくら組) クリスマス会 サッカー教室(さくら組) 大掃除 保育納め
1月	保育始め 風あげ 犬飼小学校交流会(さくら組) ラグビー教室(すみれ・さくら組) 餅つき クッキング(すみれ組) 環境劇 こざいこども園年長児交流(サッカー)
2月	節分・豆まき 恵方巻クッキング 保育参観・懇談会 サッカー教室(さくら組) クッキング(さくら組) おもいで遠足 第3回保護者の会役員会
3月	ひな祭り クッキング(つくし・さくら組) サッカー教室(さくら組) 卒園式リハーサル お別れ会食会 第10回卒園式 新年度入園説明会 学年末・年始休業(1号認定児)

(4) 教育保育理念と目標

子ども達一人一人をかけがえのない存在として、人権意識を育みながら認定こども園として年間を通した活動を行うことができました。運動会、発表会などの各行事もそれぞれの場

面で園児が主体的に力を発揮できるように職員会議等で話し合いを重ね、職員間で教育保育環境に配慮しました。それぞれのクラスで個々の多様性を尊重する取り組みが日常の保育の中で営むことができ人権意識も深まりました。あと、異年齢での活動を多く取り入れることで、配慮が必要な子ども達も年長児の優しさに触れ、お互いが相手のことを考える機会も設定しました。今年度も配慮の必要な園児を含めたそれぞれのクラス運営となりましたが、年間を通して活動を積み重ねることにより、集団のルールだけではなく自分や友だちの個性を認め合いながら、それぞれの場面で自分の力を発揮している姿を見ることができました。また、園内での米つくりや野菜栽培、法人内の協力を得ながら園外で作物を苗から育て収穫する等、社会体験学習の機会を取り入れ幅広く食育活動もすすめてきました。

1. 教育保育理念

子ども一人一人をかけがいのない存在として尊重し、保護者や地域社会とともに人権意識を育む。

2. 教育保育目標

- 明るく伸び伸びした子ども
- 喜んで話し喜んで聞く子ども
- 思いやりのある優しい子ども
- 心豊かで工夫する子ども
- よく見よく考える子ども

3. 7つの教育保育方針

- ① 家庭や関係機関と連絡をとりあい、安心感を育てます。
- ② よく食べ、よく遊び、しなやかで丈夫な身体を育てます。
- ③ のびのびと成長・発達する心を育てます。
- ④ 自分を大切にし、お友達の個性が理解できる知識を育てます。
- ⑤ 聴く力、考える力、ゆたかに自己表現できる才能を育てます。
- ⑥ 身辺自立の基盤となる生活習慣を育てます。
- ⑦ お友達の気持ちや集団生活のルールを考える力を育てます。

4. 各組の教育保育目標

① さくら組（5歳児）の年間目標

目標に向けて力を合わせ、達成感や充実感を味わうことで仲間意識を育て、お互いに相手を許したり、異なる思いや考えを認められる知識を獲得する。

② すみれ組（4歳児）の年間目標

身近な環境に積極的に関わることで、想像的・目的的な行動ができるようになり、身近な人

の気持ちを察して、手伝ったり、自分の気持ちを抑えたりすることができる。

③ たんぽぽ組（3歳児）の年間目標

身辺が自立し、知的興味や関心が高まるとともに、予想や意図、期待を持って自らすすんで行動できる。いろいろな行事や活動を体験しながら、集団への関心を高める。

④ つくし組（2歳児）の年間目標

基本的な運動・指先機能が高まり、身の回りのことを自分でし動作やおしゃべりといった表現活動や模倣遊びを楽しむ。

⑤ つぼみ組（1歳児）の年間目標

大人との信頼関係のもとで意欲的に身近な人や身の回りの物に働きかけ、指さし、身振り、片言などを盛んに使いながら遊ぶ。

⑥ めばえ組（0歳児）の年間目標

保育教諭との親密な関わりを通して、情緒的な絆が形成され、安心感のもとで周囲の人や物に興味を持つ。表情や動作、発声などのサインを通して、コミュニケーションをとる。

⑦ 特別保育の年間目標

発達特性に向けた配慮のもと、諸機関と連携しながら個別の発達段階に応じた教育保育を提供する。

（5）食事

検食担当職員の感想をもとに給食会議にて、献立内容や味付け・形態について検討しました。給食試食会では手作りパンをメインにして、保護者に給食の感想や食事に関する困りごと、要望などを聞くことができました。

食育に関しては、自分たちが育てた野菜・郷土料理を作り味わう機会を設け、生きる力を育む食育に取り組みました。シークレット野菜を取り入れることで野菜の成長により興味関心を持ってもらえるようにしました。さくら組(5歳児)は1年かけてお米を作り、2月におにぎりを作って試食しました。また、食育人材バンクを利用して以上児を対象に「よく噛んで食べること」「病気になりにくい丈夫な体を作ろう」をテーマに食育講話を実施しました。9月には防災クッキングを行い、非常食がどのようなものか知ってもらう機会を作りました。毎月のクッキングはたんぽぽ組（3歳児）・つくし組（2歳児）のクッキングは回数を増やしました。ドキュメンテーションを作成して教室に掲示することで保護者にもクッキングの様子が伝わるように工夫しました。

1. 目標『味わいながら、楽しく食べる子』に育てる。

配慮事項

- ① 薄味に心がける。
- ② 旬の素材を使った献立作りを心がける。
- ③ 見た目においしく、食べておいしい食事づくりを心がける。
- ④ 保護者や保健所との連携を密にし、個別的な配慮を心がける。

2. 栄養管理

毎日の献立の栄養計算を行い、月報を作成しました。

3. 食育

食育だより：毎月の献立表にいぬかいこども園の食事の紹介や食育活動の様子、栄養情報などを記載しています。アレルギー児に関しては個別に対応しました。

給食会議：0歳児は月1回の離乳食会議にて子どもの食事の状況、離乳食の移行時期、献立については、園長・副園長・クラス担当・栄養士・調理員で検討しました。

・アレルギー食数（1日平均）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平 均 2人
2人	2人	2人	2人	2人	2人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
2人	2人	2人	2人	2人	2人	

4. 衛生管理

衛生チェック表を作成し、毎日衛生項目に添って確認するとともに、調理員の細菌検査（毎月1回）調理室の掃除、ワゴン清掃（毎日）、冷蔵庫消毒、食器洗浄後熱風庫にて保管、原材料・調理済み食品を保存（2週間）しました。

・細菌検査

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 286人
25人	24人	23人	23人	25人	24人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
24人	24人	25人	23人	23人	23人	

5. 特別食（離乳食・アレルギー）に関して

離乳食に関しては、園児1人1人に合わせて無理なく進めました。アレルギー食については、園児専用の食器を準備し、保育者と連携を取りながら安全な提供を行いました。また、完全除去により不足する栄養素を考慮し、可能な限りの代替食での対応を行いました。

・離乳食数（0歳児）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 24食
2人	2人	2人	2人	2人	2人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
2人	3人	3人	2人	1人	1人	

・月別給食仕出し食数（なかよしひろば）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合 計 979 食
93 食	87 食	86 食	100 食	68 食	79 食	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
92 食	72 食	75 食	80 食	70 食	77 食	

6. 豊後大野市認可保育園献立会議

4 月 10 日・5 月 8 日・6 月 12 日・7 月 10 日・8 月 7 日・9 月 11 日・10 月 9 日
11 月 13 日・12 月 11 日・1 月 8 日・2 月 12 日・3 月 12 日

(6) 職員処遇

新制度への移行に伴い、職員体制を手厚くすることができ、専門性の向上に向けて研修等へも積極的に参加をしました。

1. 健康管理

・健康診断 1 年 1 回 (9 月)

2. 職員会議

・全体会議

4 月 1 8 日、5 月 1 6 日、6 月 1 4 日、7 月 1 8 日、9 月 6 日、10 月 20 日、11 月 2 2 日、
2 月 2 0 日、3 月 1 4 日

クラス担当者会議 (全体会議の他に必要に応じて開催)

未満児：4 月 1 3 日、5 月 7 日、6 月 8 日、6 月 2 0 日、8 月 6 日、10 月 1 8 日、
11 月 1 日、1 月 8 日、2 月 1 0 日、2 月 2 1 日

以上児：4 月 1 日、4 月 1 5 日、5 月 2 0 日、6 月 1 1 日、6 月 2 2 日、7 月 2 3 日、
8 月 2 0 日、9 月 1 1 日、10 月 1 5 日、1 0 月 1 8 日、11 月 1 日、1 1 月 1 9 日、
1 月 1 4 日、2 月 8 日、2 月 2 2 日、3 月 2 1 日

3. 研修報告

・園内

研修名	日時	場所
AED 研修	6 月 14 日	あそびのへや
子どものケガ対応研修	9 月 28 日	なかよしホール
なかよしひろば合同事例検討交流会	1 月 17 日	なかよしホール

・豊後大野市教育保育協議会

日時	内容	場所
4月23日	園長会	豊後大野市役所
6月12日	総会・園長会	豊後大野市役所
6月27日	福利厚生委員会	中央公民館
7月10日	研修委員会	中央公民館
7月10日	主任・主幹研修会	中央公民館
7月30日	調査・広報委員会	豊後大野市役所
8月2日	主任・主幹研修会	あさじルンビニこども園
9月3日	調査広報委員会	豊後大野市役所
9月18日	調査広報委員会	豊後大野市役所
9月27日	調査広報委員会	豊後大野市役所
10月22日	調査広報委員会	豊後大野市役所
10月31日	福利厚生委員会レクリエーション	大野公民館
11月12日	園長会	中央公民館
11月29日	研修委員会スキルアップ研修	大野公民館
1月21日	園長会	豊後大野市役所

・外部研修

研修名	日時	場所
大分県認定こども園連合会総会及び研修会	5月20日	大分銀行宗麟館
衛生推進養成講座	5月21日	オンライン
熱中症予防指導員研修	6月17日	オンライン
甲種防火管理署講習	6月18日、19日	教育会館
保育コーディネーターフォローアップ研修	6月20日	商工会議所
キャリアアップ研修【食育・アレルギー】	9月3日～5日	豊後大野市役所
子育て支援員研修	8月26日～9月26日	オンライン
AED研修【消防署】	9月28日	なかよしホール
保健研修会	10月18日	中央公民館
子育て支援士研修会	12月1日～31日	オンライン
保育事業大会	1月24日	オアシス
キャリアアップ研修【保護者支援・子育て支援】	12月20日～	eラーニング
キャリアアップ研修【障害児保育】	12月20日 ～	eラーニング
キャリアアップ研修【乳児保育】	1月9日～10日	豊後大野市役所
発達障がい研究会	1月26日	社会福祉会館

第2章 施設管理

(1) 避難訓練・設備管理の実施状況

1・避難訓練月日

4月25日	5月24日	6月26日	7月25日	8月26日	9月3日
地震・火災	地震	不審者侵入	火災	台風	地震・火災 台風
10月29日	11月28日	12月26日	1月29日	2月28日	3月5日
火災	消防ひろば	地震・火災	地震	不審者侵入	地震・火災

2・遊具点検月日

4月1・25日	5月24日	6月26日	7月25日	8月26日	9月3日
10月29日	11月28日	12月26日	1月29日	2月28日	3月5日

3. 消防用設備等点検

令和6年8月22日、令和7年2月25日

第3章 諸機関との連携

(1) 保護者との連携

- ・連絡帳を通して、こどもたちの日々の様子を伝達するとともに、園だよりとクラスだより（保育ドキュメンテーション）を作成し発行しました。
- ・ラインを使い緊急時のお知らせを行いました。
- ・保護者アンケートを通して、ニーズの調査を行いました。
（給食試食会、個人面談、保育教諭体験等について）

(2) 小学校や幼稚園との連携

進学をふまえた訪問交流を行うとともに、年長組を対象にこども園の中で芽生えた力や個性、配慮点を記録した「教育保育要録」を作成して引き継ぎました。

(3) 相談機関や療育機関などとの連携

こどもの発達や保護者のニーズに応じて、療育機関やなかよしひろばとの併用利用を導くとともに、療育機関や福祉制度の利用についての案内をご家族に行い、合計3名の児童を特別に保育しました。

(4) 地域との連携

1. 地域における世代間交流や異年齢児交流、育児講座への参加や開催を、縮小且つ内容変更等を熟考しながら開催しました。

会議・交流事業名	日時	場所
愛育会・班会	4月19日	犬飼支所
愛育会・班会	6月7日	犬飼支所
愛育会・班会	8月9日	犬飼支所
愛育会・班会	10月7日	犬飼支所
愛育会・班会	12月9日	犬飼支所
愛育会・班会	2月6日	犬飼支所
支援センター長会議	5月23日	本庁会議室
支援センター連絡会議	5月23日	本庁会議室
支援センター連絡会議	7月3日	いぬかい子育て支援センター
支援センター連絡会議	8月26日	やしの実ひろば
支援センター連絡会議	11月21日	しいのみこども園
支援センター連絡会議	1月30日	ふれあいひろば 本庁保健センター・
支援センター長会議	3月5日	本庁会議室
支援センター連絡会議	3月5日	本庁会議室
縁日ごっこ	7月6日	こども園
こども園運動会交流	10月12日	こども園
こども園体験会	11月1日	こども園つくし組
だんご汁大会交流	11月26日	こども園
消防ひろば	11月28日	こども園
環境劇観劇	1月21日	なかよしホール
県央豊肥ブロック地域子育て拠点 子育て支援拠点スタッフ ネットワーク研修	11月12日	大分市役所別館 J:COM ホルトホール大分
支援センター独自研修	1月30日	本庁保健センター
愛育会地域交流事業 親子クッキング（お焼き作り）	9月10日	犬飼公民館
愛育会親子交流事業 千歳出張ひろばリフレッシュ講座	11月21日	千歳支所
愛育会親子交流事業 クリスマス会	12月24日	支援センター会議室
支援センタースタンプラリー	9月～3月	市内子育て支援センター
なかよしこよしのつどい	中止	
こどもひろば	中止	

2. 地域の子育て家庭を援助するため、一時保育、園庭開放、育児相談、子育て講座の開催、絵本の貸出、出張ひろば、男性子育て応援企画、地域向け育児情報の提供等からなる豊後大野市子育て支援拠点事業を実施しました。

月	行事
4 月	シール帳作り・誕生表作り・ミニ講話（粗大運動①）・お見知り遠足・こいのぼり制作・ファミリーデイ（センターで遊ぼう、園庭遊び）
5 月	ミニ講話（粗大運動②）野菜の苗植え・運動遊び・制作遊び・ファミリーデイ（母の日クッキング、エアトランポリン）
6 月	ミニ講話（基本動作の発達段階&支援のポイント）・父の日制作・リフレッシュ講座（サンキャッチャー）・七夕制作・ファミリーデイ（パパといっしょ・父の日クッキング、茶話会）
7 月	ミニ講話（発達の土台①触覚）・子育て座談会（合田心理士）・水遊び開き・水遊び・ファミリーデイ（園日ごっこ、とうもろこしパーティ）
8 月	きらきら出張相談会・水遊び・ミニ講話（基本動作①固有覚「押す・引く」）水遊び納め・ファミリーデイ（水遊び、流しそうめん）
9 月	ミニ講話（基本動作②前庭覚「ぶら下がる」）敬老の日制作・親子クッキング（お焼き作り）・エアトランポリン・リフレッシュ講座（アロマ講座）・ファミリーデイ（防災クッキング、パパといっしょ梨狩り）
10 月	ミニ講話（基本動作④走る・ジャンプする・のぼる）運動遊び・サーキット遊び・茶話会・ファミリーデイ（こども園大運動会、運動会ごっこ）
11 月	こども園体験・ミニ講話（基本動作⑤投げる・受け取る）散歩、制作・秋の遠足・園庭遊び（焼き芋・団子汁）消防広場・ファミリーデイ（パパといっしょ・ピザ作り、焼き芋パーティ）千歳出張ひろばリフレッシュ講座
12 月	お話の日・ママのリフレッシュ講座（スワッグ制作）・クリスマス制作・クリスマス会（親子交流事業）ファミリーデイ（クッキング、パパカフェ）
1 月	ミニ講話（基本動作⑥こぐ・協調動作）お話の日・環境劇観劇・節分制作・ファミリーデイ（凧あげ、バスボム作り）
2 月	きらきら出張相談会・缶バッジ制作・ミニ講話（我が子に寄り添うコミュニケーション①）・なごみ園交流・ひな人形制作・ファミリーデイ（節分・豆まき、ウォークラリー）
3 月	ミニ講話（我が子に寄り添うコミュニケーション②）リフレッシュ講座（ソイキャンドル）思い出制作（思い出シート）お別れ会・ファミリーデイ（ひなパーティ、パパといっしょ・いちご狩り）

* 毎月：身体計測・誕生会・身体計測・園庭開放

* 毎週木曜日：ちとせ出張ひろば

* 毎週金曜日：交流、相談日

*毎月：子育てアドバイザー（作業療法士）による講話と遊び

○ペアレント・プログラム事業（大分県委託事業）

豊後大野市（2回）	大分市（1回）
（対象者） 子育て支援センターゆうゆうキッズ利用家庭 （会 場） ゆうゆうキッズ	（対象者） 大分なごみ園利用家庭 （会 場） 丹生公民館（2F）
（対象者） なかよしひろば利用家庭 （会 場） 犬飼公民館	

3. 地域交流や次世代育成を踏まえ、ボランティアや実習生を受け入れています。

期日	ボランティア・実習生	内容
5月15日	トリニータスクールコーチ	サッカー教室
5月29日	要保護会議	地域の要保護家庭について
6月11日	いぬかいこども園保護者	1日保育者体験
6月14日	要保護会議	地域の要保護家庭について
6月27日28日	犬飼中学生徒（2年生）	職場体験
7月16日	野津 FC	サッカー教室
7月23日	社会福祉協議会	夏のボランティア
7月31日	いぬかいこども園保護者	1日保育者体験
8月19日	社会福祉協議会	夏のボランティア
8月22日	社会福祉協議会	元気はつらつ交流会
8月23日	いぬかいこども園保護者	1日保育者体験
8月28日	野津 FC	サッカー教室
8月31日	いぬかいこども園保護者	1日保育者体験
9月9日	野津 FC	サッカー教室
9月9日～3日	別府大学短期大学部初等教育科1年	観察実習
9月10日	愛育班	支援センタークッキング
10月17日	野津 FC	サッカー教室
10月26日	愛育班	支援センターうんどう会ごっこ
11月12日	野津 FC	サッカー教室
11月14日	要保護会議	地域の要保護家庭について

11月20日	犬飼公民館	軽スポーツ大会（年中・年長）
12月10日	犬飼小学校	1年生との交流会
12月13日	要保護会議	地域の要保護家庭について
12月24日	愛育班	支援センタークリスマス会
12月26日	野津 FC	サッカー教室
1月9日	野津 FC	サッカー教室
1月15日	愛育班	もちつき
1月23日	大分県ラグビー普及訪問事業	ラグビー教室
1月29日	要保護会議	地域の要保護家庭について
2月12日	野津 FC	サッカー教室
3月6日	野津 FC	サッカー教室

第4章 総括

今年度も定員を65名に設定し最終的には64名の園児を受け入れることができました。園生活については、年間行事計画に沿って多くの園行事を開催することができました。子ども達の大切な経験の場として運動会や発表会、卒園式等の大きな行事は保護者や地域の皆様にも参加していただき、地域と共に子ども達の成長した姿を見ることができました。豊後大野子育て総合支援センターとしては、隣接する児童発達支援センターと子育て支援センターとの連携により子どもの多様性を尊重した支援体制の構築に努めました。地域での子育て家庭への支援として、今年度も地域支援事業と特別支援事業を実施し家庭で孤立しない体制作りに務めてまいりました。

大分県からの委託事業であるペアレント・プログラムについては、豊後大野市で2回、大分市で1回実施することができました。今後は第4次豊後大野市子ども・子育て支援事業計画の中の新事業としても実施する方向で豊後大野市と協議を進めていきたいと考えております。

職員体制については、多くの園で保育士不足が社会的な課題とされているところですが家庭内での転勤による退職者が1名であり職員にとって働きやすい環境を提供できていると思われますので、引き続き人事考課制度や法人内外での研修を充実させて職場環境の整備に努めていきます。

これからも子ども一人一人の発達を保障し職員と共に社会福祉法人として地域貢献に尽力していきたいと考えております。

令和6年度 こざいこども園事業報告

第1章 施設運営

(1) 理念と方針

子どもたちの発達と職員の働きがいを最大限保障する施設を目指します

1. 子育て支援の核として、地域ニーズに応える施設を目指します
2. 行き届いた説明と情報開示により、信頼される施設を目指します
3. 常に業務内容の点検・検討を行い、安全と安心の向上を目指します
4. 多角経営と人事交流により、効率的で安定した運営を目指します
5. 人材育成と人事考課制度により、職員が働きがいと誇りの持てる施設を目指します

(2) 実施事業内容

1. 通常教育保育 月～土（7：00～18：00）
2. 特別教育保育 月～土（7：00～18：00）
3. 延長保育 月～土（18：00～19：00）
4. 預かり保育 月～金（13：00～18：00）

(3) 児童処遇・・・A

定員75名（1号15名、2号36名、3号30名）

本年度は81名でスタートし、最大で86名の受入れをしました。

特別教育保育に関しては11名の児童をわくわくかんや、大分子ども医療センター、学校等と連携して支援しました。

延長保育は1時間延長を開所しましたが、利用する家庭は多くありませんでした。

一時保育はニーズが減少しているため、預かり保育のみ行いました。

1. クラス（）内は1号

クラス名	年齢	30年度4月	31年度3月	2年度3月	3年度3月	4年度3月	5年3月	6年3月
つき	0歳	7	11	10	10	10	10	10
ほし	1歳	11	12	13	13	12	12	12
そら	2歳	14	13	13	12	13	13(1)	13(1)
ひかり	3歳	16(3)	18(6)	19(5)	18(4)	17(5)	18(5)	18(5)
にじ	4歳	13(3)	13(3)	19(9)	18(5)	18(4)	16(6)	17(4)
はな	5歳	15(1)	16(2)	14(3)	18(9)	18(5)	18(4)	16(6)
合 計		76(7)	83(11)	88(17)	89(18)	88(15)	87(16)	86(16)

2. 事業編成（令和7年3月31日）

事業名	保育教諭（パート）	その他の職員
教育保育	15(7)	6(6)
一時・預かり保育	0(2)	0
特別教育保育	0(1)	0
延長保育	交代制	0

3. 職種

職名	保育教諭（パート）	その他の職員
園長	0	1
副園長	1	0
主幹保育教諭	1	0
保育教諭	14（7）	0
看護師	0	1
調理員	0	3（1）
保育補助、環境整備	0	0（5）
合計	16（7）	5（6）

4. 月別利用児童数（月初め）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 83人
81人	81人	82人	82人	82人	82人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
83人	83人	84人	85人	86人	86人	

5. 月別開園日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 292日
25日	24日	25日	26日	26日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	24日	24日	22日	22日	25日	

6. 月別特別保育利用数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 9人
6人	6人	7人	7人	9人	11人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
11人	11人	11人	11人	11人	11人	

7. 一時預かり（1号）利用児童数（月平均）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 12.6人
12人	12人	12人	12人	12人	12人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
13人	12人	14人	13人	13人	14人	

8. 延長保育利用児童数（月平均）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 9.2人
10人	9人	11人	11人	11人	7人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
6人	10人	7人	12人	10人	6人	

9. 健康管理・感染症対策

体調の変化について連絡帳や家族との口頭でのお知らせを通して家庭と密に連絡をとるとともに、異変があった時には保護者へ緊急連絡や病院の受診を行うなど、早めの対応を行いました。

室内の消毒は次亜塩素酸ナトリウム消毒液を使用し毎日実施しました。玩具や抱っこ紐などの保育用品は1回／週消毒しました。感染症が発生した場合は、より念入りに消毒を行いました。

厚生労働省による保育所等における感染症対策ガイドラインや大分市保健所による食中毒・感染症対策情報をもとに、保健だよりの発行やインフルエンザや他の感染症の園内感染者数をコドモンでお知らせ一斉配信を行い全体に周知しています。嘔吐下痢の処理方法について研修で学んだことを資料を提示し職員全員に目を通してもらい周知することができました。一年を通して室内温度と湿度の管理を行い、エアコンや床暖房などで環境の調整をしました。気管支喘息のお子さんが増えてきた為、喘息があり体調がすぐれない園児に対して毎日酸素濃度測定器を使用して酸素濃度を測定したり体調の変化に細目に気を付けるようにしました。またハウスダストの原因でもある砂埃を少しでも軽減する為、乾燥した日には特に園庭の水まきを行うようにしました。エアコンや加湿器のフィルターの掃除もこまめに行いました。また換気は最低でも1時間毎に行いました。夏季は外気温に注意して園外活動を行い、熱中症アラートが発令された日は極力園外活動を控えるように気を付けました。プールは屋根があるところで実施し外気温水温に注意しながら行いました。また、水分摂取を細目に促しました。水筒だと摂取量の把握が難しいため、特に水分摂取量が少ないお子さんは中身が減っているかの確認をするよう心掛けました。インフルエンザなどの感染症流行時は職員が感染の媒介者とならないために、アルコール消毒・石鹸での手洗いを促しました。

10. 年間保健行事

内科健診	全園児（前期4月28日）（後期10月17日）
薬剤師検査 検査センターの検査	室内二酸化炭素検査（2月4日） 教室などの空気（ホルムアルデヒド、トルエン及びキシレン、二酸化炭素、湿度、相対湿度、浮遊粉塵、気流、ダニ又はアレルゲン）7月22日
身体測定	全園児（毎月）
歯科健診	全園児（前期4月18日）（後期10月30日）
歯科指導	6月4日（はなぐみ）、6月5日（ひかりぐみ）、6月6日（にじぐみ）
視力・聴力検査、尿検査	視力検査・聴力検査（3月中に実施）、尿検査（2月18日～2月28日の間に実施）

11. 年間行事

（月例行事：誕生会・身体計測・避難訓練）

月	行事
4月	第6回入園式・グリーンピース玉葱の収穫（はな・にじ）内科検診・歯科検診
5月	保護者面談（にじ・はな）・さつま芋の苗植え（はな）クッキング（はな）社会見学（はな）ジャガイモの収穫（ひかり）地域交流（はな）
6月	保護者面談（ひかり）・保育参加（ほし・そら）・歯科指導（ひかり・にじ・はな）・保育参観（はな）・プール開き（ひかり・にじ・はな）いぬかいこども園交流サツ

	カー（はな）
7月	夏まつり（全園児）・プール開き（ほし・そら）・交通安全教室（にじ・はな）・野菜スタンプ（ひかり・はな）
8月	お楽しみ保育（はな）・スイカわり 食育活動 野菜スタンプ（そら）・地域交流事業（はな・卒園児）・いぬかいこども園交流プールあそび（はな） プール納め・クッキング（はな）
9月	小運動会・はなクッキング・芋ほり（にじ）
10月	大運動会・ハロウィン・内科検診・歯科検診・ジャガイモの苗うえ（にじ） 芋ほり・園外保育（そら・ひかり・にじ・はな）次年度1号説明会・社会見学（はな） クッキング（にじ）へつぎ保育園交流（そら）芋ほり（はな）稲刈り（はな）
11月	秋の遠足・秋の収穫祭・消防広場・地域交流事業（はな・卒園児）お楽しみ保育（卒園児） クッキング（ひかり・にじ・はな）保育参観（ひかり・にじ）・焼き芋会（ひかり・にじ・はな）
12月	溝部学園主催ミュージックカーニバル（はな）・お出かけイングリッシュ（はな） クリスマス会 クッキング（ひかり・はな）民生委員主催「人形劇」観覧
1月	餅つき（ひかり・にじ・はな）・いぬかいこども園交流サッカー（はな）生活発表会 リハーサル 地域交流（はな・卒園児）大根の収穫（そら）・東高校生家庭科実習（そら・ひかり・にじ・はな）
2月	節分・生活発表会・へつぎ保育園交流（そら）・食育活動（そら）
3月	ひな祭り・お別れ交流会（全園児）・入園説明会・新1号体験入学・逃走中（はな） お別れ会食会・クッキング（そら・にじ・はな）・地域交流事業（はな・卒園児） 卒園式

（４）教育保育理念と目標・・・A

認定こども園として教育要素を高めるための研修や園内での公開保育、事例検討会・ミーティング等を通して職員全員がこどもの発達に応じた教育保育環境に配慮するとともに、運動会や生活発表会などの各行事場面で園児が主体的に参加できるようにドラマティックな演出を行うことで、クラスや園全体がまとまっていきました。人権意識については、日常の教育保育場面で丁寧に代弁的な関わりをすることにより、聴く力や考える力のみならず、周りの人の気持ちを考える力も深まりました。朝のミーティング時に全児童の状況確認と倫理綱領の暗唱も継続しました。

各行事場面で集団のルールだけでなく、自分や友だちの個性を認めながら自分の力をのびのびと発揮している姿を見ることができています。

また、地域の方々の協力のもと、玉ねぎや芋の収穫や調理等の社会体験学習の機会をつくることができ、食育活動もすすめることができました。

1. 教育保育理念

子ども一人一人をかけがいのない存在として尊重し、保護者や地域社会とともに人権意識を育む。

2. 教育保育目標

○明るく伸び伸びした子ども

- 思いやりのある優しい子ども
- よく見よく考える子ども
- 喜んで話し喜んで聴く子ども
- 心豊かで創工夫する子ども

3. 7つの教育保育方針

- ⑧ 家庭や関係機関と協働し、安心感を育てます。
- ⑨ 伸び伸びと成長・発達する心を育てます。
- ⑩ 身辺自立の基盤となる生活習慣を育てます。
- ⑪ よく食べ、よく遊び、しなやかで丈夫な身体を育てます。
- ⑫ 友達の気持ちや集団生活のルールを考える力を育ます
- ⑬ 自分を大切にし、友だちの個性が理解できる知識を育てます
- ⑭ 聴く力、考える力、ゆたかに自己表現できる才能を育てます。

4. 各組の教育保育目標

- ⑧ はな組（5歳児）の年間目標
目標に向けて力を合わせ、達成感や充実感を味わうことで仲間意識を育て、お互いに相手を許すことや異なる思いや考えを認められる知識を獲得する。
- ⑨ にじ組（4歳児）の年間目標
身近な環境に積極的に関わることで、想像的・目的的な行動ができるようになり、身近な人の気持ちを察して、手伝ったり、自分の気持ちを抑えたりできる。
- ⑩ ひかり組（3歳児）の年間目標
身辺が自立し、知的興味や関心が高まるとともに、予想や意図、期待を持って自らすすんで行動できる。いろいろな行事や活動を体験しながら、集団への関心を高める。
- ⑪ そら組（2歳児）の年間目標
基本的な運動・指先機能が高まり、身の回りのことを自分でしようとするとともに、動作やおしゃべりといった表現活動や模倣遊びを楽しむ。
- ⑫ ほし組（1歳児）の年間目標
大人との信頼関係のもとで意欲的に身近な人や身の回りの物に働きかけ、指さし、身振り、片言などを盛んに使いながら遊ぶ。
- ⑬ つき組（0歳児）の年間目標
保育教諭との親密な関わりを通して、情緒的な絆が形成され、安心感のもとで周囲の人や物に興味を持つ。表情や動作、発声などのサインを通して、コミュニケーションをとる。
- ⑭ 特別保育の年間目標
発達特性に向けた配慮のもと、諸機関と連携しながら個別の発達段階に応じた教育保育を提供する。

（5）食事・・・A

検食担当の職員の感想をもとに給食会議にて、献立や食器についての感想や反省、改善案などを検討しました。行事食も見た目から楽しんでもらえるような食事の提供に努めました。

1. 目標『食に興味を持ち、みんなと楽しく食べる子』に育てる。

配慮事項

- ① 薄味に心がける。

- ② 旬の素材を使った献立作りを心がける。
- ③ 見た目においしく、食べておいしい食事づくりを心がける。
- ④ 保護者との連携を密にし、個別的な配慮を心がける。

2. 栄養管理

毎日の献立の栄養計算を行い、月報を作成しました。

3. 食育

毎月一予定献立表を配布（アレルギー幼児食は個別）し、コドモンで食育活動の様子などを定期的に配信しました。

給食会議－0歳児は月1回の離乳食会議にて子どもの食事の状況、離乳食の移行時期、献立については、園長・主任・クラス担当・栄養士・調理員で検討しました。

・アレルギー食数（1日平均）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平 均 3.5人
4食	5食	5食	5食	6食	6食	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
5食	5食	5食	5食	3食	3食	

4. 衛生管理

衛生チェック表を作成し、毎日衛生項目にそって確認するとともに、調理員の細菌検査（毎月1回）調理室の掃除、ワゴン清掃（毎日）、冷蔵庫消毒、食器洗浄後熱風庫にて保管、原材料・調理済み食品を保存（2週間）しました。

・細菌検査

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 255人
26人	19人	21人	20人	27人	20人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
21人	21人	28人	22人	22人	22人	

5. 特別食（離乳食・アレルギー）に関して

個人差を考え、無理なく離乳を進めました。1歳児の食事に関しては離乳食後、間もないため、必要に応じて完了食も準備することや、アレルギーを持つ児童用に専用の食器を準備、「代替食」を対応し、子どもの症状に応じて除去解除をしました。

・離乳食数（0歳児）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 31食
8食	7食	6食	4食	4食	3食	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
0食	0食	1食	0食	1食	1食	

6. 大分市献立会議

4/4、5/8、6/3、7/9、8/5、9/2、10/1、11/8、12/3、1/9、2/10、3/6

(6) 職員処遇・・・A

感染症対策等に向けて職員体制を手厚くし、専門性の向上に向けて研修等へも積極的に参加するようにしました。

1. 健康管理

- ・健康診断 1年 1回(9-12月)

2. 職員会議

・全体会議

4月19日、5月24日、6月27日、7月26日、8月23日、9月20日、10月25日、11月15日、12月22日、1月23日、2月22日、3月22日

・クラス担当者会議(全体会議の他に必要に応じて開催)

ミニ会議 4月19日、5月10日、6月21日、7月9日、8月23日、9月20日、10月25日、11月15日、12月23日、1月17日、1月20日、2月21日、3月14日

未満児：4月10日、4月25日、5月14日・6月20日、7月17日、8月22日、8月18日、9月18日、10月16日、11月21日、12月19日、1月18日、2月19日、3月13日

以上児：4月9日、5月17日、5月24日、6月11日、6月21日・7月18日、8月21日、9月17日、10月9日、11月13日、12月19日、1月15日、2月17日、3月12日

給食担当者会議：4月26日、5月24日、6月20日、7月5日、8月22日、9月26日、10月31日、11月12日、12月25日、1月23日、2月3日、3月3日

・3園会議 (いぬかいこども園・へつぎ保育園・こざいこども園)

4月8日、7月4日、11月1日、12月26日、1月30日、2月19日

・3園給食会議(いぬかいこども園・へつぎこども園・こざいこども園)

5月14日・10月15日・12月4日

3. 研修報告

・法人研修

日時	内容	場所
4月1日	萌葱の郷の理念	なかよしホール
4月26日	接遇マナー研修	なかよしホール
5月11日	関係性の構築に向けた事例検討会 事例検討会 虐待防止及び身体拘束	なかよしホール
6月14日	けが・体調不良の処置について	なかよしホール
7月5日	発達障がい基礎知識と心の理論について	なかよしホール
7月19日	てんかんについて	なかよしホール
9月25日	事例検討会	なかよしホール
11月13日	AED・救急法	なかよしホール
12月6日	育ちのミカタ	わくわくかん

・ 外部研修

研修名	日時	場所
東部地区献立会議	4月4日	大分市
幼保連携型認定こども園新規職員研修	4月10日	別府市
幼保連携型認定こども園新規職員研修	4月23・24日	大分市
幼保連携型認定こども園新規採用教諭研修	5月1日	大分市
大分市東部地区献立会議	5月8日	大分市
リトミック研修センターリトミック	5月12日	大分市
認定こども園設置者・園長研修会	5月20日	大分市
大分市幼保小連携研修会	5月23日	大分市
令和6年度大分市保育部会総会	5月25日	大分市
東部地区献立会議	6月3日	大分市
調理担当者研修会	6月3日	大分市
大分市私立保育連盟創立10周年	6月3日	大分市
AED研修	6月4日	オンライン
大分市保育協議会公開保育	6月8日	大分市
調理者担当会議	6月13日	オンライン
令和6年度社会福祉施設事務担当職員研修	6月11・26日	大分市
保育コーディネーターフォローアップ研修	6月20日	オンライン
東部地区全体研修会	6月22日	大分市
保育コーディネーター養成研修	6月26日	大分市
幼保連携型認定こども園新規採用研修	7月9日	別府市
東部地区献立会議	7月9日	大分市
保育コーディネーター養成研修	7月25日	大分市
大分市キャリアアップ研修	8月1～30日	オンライン
保育コーディネーター養成研修	8月7日	大分市
保育コーディネーターフォローアップ研修	8月16日	別府市
大分市キャリアアップ研修	9月1～30日	オンライン
大分市東部地区献立会議	9月2日	大分市
大分市社会福祉協議会4地区合同研修会	9月7日	大分市
保育コーディネーターフォローアップ視察研修	9月10日	中津市
大分市キャリアアップ研修	9月10日～10月10日	オンライン
大分県子育て支援員研修	9月11日	大分市
令和6年認定こども園新規採用者研修	9月13日	大分市
大分市キャリアアップ研修	9月14日	大分市

保育コーディネーター養成研修	9月26日	大分市
一般社団法人大分市保育協会園長特別研修会	9月27日	大分市
東部地区献立会議	10月1日	大分市
大分市キャリアアップ研修会	10月9日	大分市
令和6年度発達障がい地域別研修会	10月22日	豊後大野市
保育コーディネーター養成研修	10月23日	大分市
東部地区研修会	11月8日	大分市
令和6年度保育コーディネーター養成研修	11月15日	大分市
大分市公開研究発表会	11月21日	大分市
認定こども園新規者採用研修会	11月27日	別府市
大分市保育協議会こども主体の保育	11月30日	大分市
東部地区献立会議	12月5日	大分市
第44回まちづくり	12月10日	大分市
スチコンフル活用術セミナー	12月11日	大分市
大分市社会福祉協議会保育部会研修	12月21日	大分市
東部地区献立会議	R7.1月9日	大分市
令和6年度幼保連携認定こども園新規採用者研修	1月16日	別府市
令和6年度第3回認定こども園研修会	1月31日	大分市
全幼研修 藤影幼稚園	2月23日	佐賀市

第2章 施設管理・・・A

避難訓練・設備管理の実施状況

毎月の避難訓練と遊具等の設備点検の他、年2回の消防用設備等点検や遊具の保守点検を専門業者に依頼して行いました。日常の教育保育場面でも砂場の掘り起しや、遊具の異常や破損を発見等の報告を受けた時には迅速に対処しています。

(1) 避難訓練月日

4月30日	5月7日	6月29日	7月31日	8月8日	9月2日
火災・消火	消火・火災	消火・地震	消火・不審者	消火・地震	消火・風水害
10月10日	11月28日	12月28日	1月31日	2月27日	3月17日
消火・地震	消火・地震	消火・不審者	消火・火災	消火・火災	消火・火災

(2) 遊具点検月日

4月22日	5月7日	6月15日	7月31日	8月27日	9月2日
10月31日	11月12日	12月28日	1月21日	2月18日	3月6日

(3) 消防用設備等点検

令和6年5月8日、令和5年11月6日

(4) 遊具保守点検

令和6年11月7日

第3章 諸機関との連携・・・A

(1) 保護者との連携

- ・連絡帳やコドモン（ICT）を通して、こどもたちの日々の様子を伝達するとともに、園だよりを毎月1回発行しました。
- ・メーリングリストを作成し、緊急のお知らせや感染症などのお知らせを行いました。
- ・保護者アンケートを通して、ニーズの調査を行いました（給食試食会）。
- ・全家庭と個別面談を開催し、必要に応じて複数回行うようにしました。

(2) 小学校や幼稚園との連携

進学をふまえた訪問交流を行うとともに、年長組を対象にこども園の中で芽生えた力や個性、配慮点を記録した「教育保育要録」を作成して引き継ぎました。

幼・保・小接続会議

期日	会議名	場所
5月21日	大分市幼保小連携研究会	大分市教育会館
6月18日	第1回幼保小連絡会議	小佐井小学校
7月5日	校区幼保小連携会議	坂ノ市小学校
11月20日	小佐井小交流会	小佐井小学校
R7・2月13日	幼保小連絡会議	小佐井小学校・丹生小学校
3月11日	幼保小連絡会議	坂ノ市小学校

(3) 相談機関や療育機関などとの連携

こどもの発達や保護者のニーズに応じて、保育コーディネーターが軸となって療育機関や福祉制度の利用についての案内をご家族に行うとともに、関係諸機関との協働を通して合計10名の児童を特別に保育しました。

(4) 地域との連携

こざいこども園の利用児家庭のみならず、地域の子育て家庭に向けた支援として、一時保育事業の他にも地域交流や次世代育成を踏まえ、ボランティアや実習生を受け入れています。

期日	ボランティア・実習生	内容
7月26日	地域交流	一日体験（夏まつりごっこ）
9月9日～13日	別府大学短期大学学園1年生	保育実習
9月12日	坂ノ市中学校2年生	職場体験
10月5～25日	別府大学短期大学部2年生	保育実習
10月29～31日	大分県東高校2年生	インターンシップ
12月3日	大分県立東高等学校	保育実習
R7.1月27日	大分県立東高等学校2年生	保育実習
2月3～14日	別府短期大学実習1年生	保育実習

第4章 総括・・・A

令和6年度のこざいこども園の事業を振り返り、施設運営の充実、教育保育の質の向上、職員の専門性強化、地域との連携を軸に様々な取り組みを実施しました。本年度は定員75名を超える最大86名の園児を受け入れ、通常保育に加え、特別保育、延長保育、預かり保育を提供しました。特別保育では11名の児童を対象に、発達支援が必要な子どもへの個別対応を行い、わくわくかん等の関係機関と密に連携しながら支援を進めました。

健康管理の面では、感染症対策を徹底し、園内の衛生管理を強化しました。次亜塩素酸ナトリウム消毒液を使用した室内消毒を毎日実施し、玩具や保育用品の定期的な消毒も徹底しました。また、気管支喘息などの持病を持つ園児への配慮として、酸素濃度測定を日常的に行い、園庭の水まきなどの環境調整を行いました。室内の温度・湿度管理にも注意を払い、季節に応じた適切な対策を講じました。

食育活動では、子どもたちが食に興味を持ち、楽しく食事ができる環境づくりを推進しました。薄味を心がけた栄養管理を実施し、旬の食材を活用した献立作りを進めました。行事食についても、見た目から楽しめる工夫を行い、食文化の多様性を体験できる機会を提供しました。アレルギーを持つ子どもへの対応も個別に行い、保護者との連携を深めながら、安心して食事ができる体制を整えました。

年間行事では、子どもたちが主体的に参加できる活動を多く取り入れました。運動会や生活発表会では、園児の成長を感じられる場を提供し、地域交流を促進しました。特に、玉ねぎやさつま芋の収穫、クッキング活動を通じて、食への関心を高める取り組みを行いました。また、地域の方々やボランティアとの協力のもと、スポーツや美術、太鼓などの社会体験学習の機会を設け、子どもたちが園外での学びを深めることができました。

職員の処遇改善にも注力し、研修参加を促進することで専門性の向上を図りました。法人内研修や外部研修の機会を増やし、職員間の情報共有を活性化しました。定期的な全体会議や担当者会議を実施し、園の運営が円滑に進むよう努めました。特に、教育保育の質を高めるための事例検討会や公開保育を実施し、職員のスキルアップを支援しました。

防災対策では、毎月の避難訓練を継続的に実施し、消防設備や遊具の点検を徹底しました。災害時にも落ち着いて対応できるよう、マニュアルの見直しを行い、安全確保に努めました。遊具の整備や環境美化にも力を入れ、園児が安全で快適に過ごせる施設環境を維持しました。

保護者との連携では、連絡帳やICTを活用し、子どもたちの日々の様子を共有しました。園だよりの発行や個別面談、アンケート等を通じて、保護者の意見を取り入れながら、より良い保育環境の構築を目指しました。幼保小連携の強化に向けて、小学校との交流を図り、進学に向けたサポートを充実させました。

本年度の事業を通じて、子どもたちの成長を支える環境づくりが進みました。今後も教育保育の質を向上させるため、職員研修の充実や地域とのさらなる連携を図り、安心して通える施設運営を目指します。次年度も、子どもたちの発達に寄り添いながら、保育の質の向上と地域社会との協力を深めていきます。

令和6年度 へつぎ保育園事業報告

第1章 施設運営

【1】理念と方針

子どもたちの発達と職員の働きがいとを最大限保証する施設を目指します

1. 子育て支援の核として、地域ニーズに応える施設を目指します
2. 行き届いた説明と情報開示により、信頼される施設を目指します
3. 常に業務内容の点検・検討を行い、安全と安心の向上を目指します
4. 多角経営と人事交流により、効率的で安定した運営を目指します
5. 人材育成と人事考課制度により、職員が働きがいと誇りの持てる施設を目指します

【2】実施事業内容

1. 通常保育事業 月～土（7：00～18：00）
2. 特別保育事業 月～土（7：00～18：00）
3. 延長保育事業 月～土（18：00～19：00）

【3】 児童処遇（定員18名）

本年度は17名でスタートし、8月、9月に各1名の入園、1月に1名転園等あり、最終的に18名の受け入れを行いました。

延長保育は一時間の延長保育を行いました。利用児は数名でした。

特別保育の利用はありませんでした。

1. クラス編成

クラス名	年齢	6年4月	6年8月	6年9月	7年1月
つき	0歳	4名	5名	6名	6名
ほし	1歳	6名	6名	6名	6名
そら	2歳	7名	7名	7名	6名
合計		17名	18名	19名	18名

2. 事業編成

事業名	保育士数（パート）	その他の職員数
保育	4（4）	1
特別保育	0	0
延長保育	交代制	0

3. 職種

(パート職員)

園長	1	
主任保育士	1	
保育士	4	4
栄養士兼調理師	1	1
看護師	1	
事務	1	
合計	9	5

4. 月別利用児童数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 18人
17人	17人	17人	17人	18人	19人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
19人	19人	19人	18人	18人	18人	

5. 月別開園日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 24日
25日	24日	24日	26日	26日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	24日	24日	23日	22日	25日	

6. 月別特別保育利用数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 0人
0人	0人	0人	0人	0人	0人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
0人	0人	0人	0人	0人	0人	

7. 延長保育利用児童数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 3人
2人	2人	3人	7人	4人	4人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
0人	3人	5人	2人	2人	2人	

8. 健康管理・感染症対策

体調の変化については朝の検温表を保護者に記入してもらい、密に連絡を取るとともに、体調不良等があった場合は、早やめに保護者に連絡をいれ、病院受診をお願いし、解熱後普段の生活が出来る様になってからの登園をお願いしました。厚生労働省による保育所における感染症対策ガイドラインや大分市保健所による感染症対策情報をもとに、毎月保健だよりの発行をし、感染症の園内感染情報を保護者に周知しています。一年間を通して室内温度や湿度の管理を行い、エアコンや床暖房などで環境調整を行いました。また、室内清掃・玩具の消毒は特に細目に行い感染症予防に努めました。

9. 年間保健行事

内科健診	全園児（前期5月15日）（後期11月19日）
歯科検診	全園児（前期5月1日）（後期11月6日）
身体計測	全園児（毎月）

10. 年間行事

（月例行事：誕生会・身体計測・避難訓練）

月	行事
4月	第三回入園・進級式
5月	歯科検診・内科健診
6月	保育参加 園外保育（なかよしホール）
7月	プール開き 七夕
8月	なつまつり・プール納め
10月	親子遠足（運動会ごっこ） 芋ほり ハロウィン
11月	園外保育（こざいこども園） 歯科健診 内科健診
12月	保育参加・クリスマス会
1月	たこあげ大会
2月	発表会ごっこ・節分
3月	ひなまつり・遠足（吉四六ランド）・卒園式

【4】保育理念と目標

小規模保育園で未満児を対象にし、職員也多めに配置している為一人の子どもと密に関わることが出来ました。担任だけではなく、職員全体で子ども達の成長を見守り、多職種と連携をとり情報共有をすることで、子ども一人ひとりに寄り添い、個々の発達を捉えることができました。また、発達に応じた環境を整えることで、子どもがのびのびと自分の力を発揮している姿が見られています。

1. 保育理念

子ども一人一人をかけがえのない存在として尊重し、保護者や地域社会とともに人権意識を育む。

2. 保育目標

- 明るく伸び伸びした子ども
- 思いやりのある優しい子ども
- よく見よく考える子ども
- 喜んで話し喜んで聴く子ども
- 心豊かで創意工夫する子ども

3. 7つの保育方針

- ①家庭や関係諸機関と協働し、安心感を育てます
- ②のびのびと成長し・発達する心を育てます
- ③身辺自立の基盤となる生活習慣を育てます
- ④よく食べ、よく遊び、しなやかで丈夫な身体を育てます
- ⑤友だちの気持ちや集団生活のルールを考える力を育てます
- ⑥自分を大切にし、友だちの個性が理解できる知識を育てます
- ⑦聴く力、考える力、豊かに自己表現できる才能を育てます

4. 各組の保育目標

①そら組(2歳児)

基礎的な運動・指先機能が高まり、身の回りのことを自分でしようしたり、動作やおしゃべりといった表現活動や模倣遊び楽しむ。

② ほし組(1歳児)

大人との信頼関係のもとで意欲的に身近な人や身の回りの物に働きかけ、指さし、身振り片言などを盛んに使いながら遊ぶ。

③ つき組(0歳児)

保育士との親密な関わりを通して、情緒的な絆が形成され、安心感のもとで周囲の人や物に興味を持つ。表情や動作、発声などのサインを通して、コミュニケーションをとる。

④ 特別保育の年間目標

発達特性に向けた配慮のもと、諸機関と連携しながら個別の発達段階に応じた保育提供する。

【5】食事

検食担当の職員の感想をもとに給食会議にて、献立や形状についての感想や反省、改善案

などを検討しました。給食試食会は今年度も中止し、代わりに子ども達の人気のレシピを配布しました。また、食育として、夏野菜を育て給食時に提供してもらい、自分達で収穫した野菜を楽しんで味わう機会を作りました。お誕生日会には行事食を取り入れるなど、楽しい雰囲気づくりをし、食への関心を高められるようにしています。

1. 目標『味わいながら、楽しく食べる子』に育てる。

配慮事項

- ① ゆったりとした雰囲気の中で食欲を育む。
- ② 個人差に配慮しながら、食べようとする気持ちを大切にする。
- ③ 食べる事の喜びや楽しみを感じられるように保育室の環境に配慮する。
- ④ 個々の食欲に合わせて量の調節をする。
- ⑤ 保護者との連携を密にし、個別的な配慮を心がける。

2. 栄養管理

毎日の献立の栄養計算を行い、月報を作成しました。

3. 食育

毎月一献立表を配布し、アレルギー食・離乳食に関しては個別に記載し、保護者に伝える様にしています。家庭での様子も記入してもらい子どもの状態がお互いに理解できるようにしています。

給食会議・職員会議・クラス会議等を利用し離乳食の移行時期や食事の状況について、園長・主任・担当保育士・栄養士（調理員）で検討しました。

4. 衛生管理

衛生チェック表を作成し、毎日項目にそって確認するとともに、調理人の最近検査（毎月）調理室の掃除、ワゴン清掃（毎日）、冷蔵庫消毒、食器洗浄後熱風庫にて保管、原材料・調理済み食品を保存（2週間）しました。

・細菌検査数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 131人
11人	11人	11人	11人	11人	11人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
11人	11人	11人	11人	11人	10人	

5. 特別食（離乳食・アレルギー食）

個人差を考え保護者と相談しながら、無理なく離乳を進めました。1歳児の食事に関しては、離乳食（完了食）後が間もない為、必要に応じて離乳食（完了食）も準備しました。

また、食品チェックを家庭でチェックしてもらい、なかなか食材の摂取が進まない家庭には都度声掛けし相談に乗っています。

・離乳食数（0歳児）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 1,75食
4食	4食	2食	1食	1食	2食	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1食	1食	1食	2食	1食	1食	

・アレルギー食数（1日平均）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 1食
1食	1食	1食	1食	1食	1食	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1食	1食	1食	1食	1食	1食	

6. 大分市献立会議

4月4日	5月8日	6月3日	7月2日	8月5日	9月2日	10月1日
11月8日	12月5日	1月9日	2月7日	3月6日	地区研修年2回	

【6】 職員処遇

職員体制を手厚くし、専門性の向上に向けて研修等へも積極的に参加するようにしました。

1. 健康管理

- ・健康診断 1年1回（9月～12月）

2. 職員会議

- ・全体会議

4月28日	5月20日	6月24日	7月8日	8月19日	9月30日
10月14日	11月9日	12月2日	1月11日	2月3日	3月2日

- ・クラス担当者会議は必要に応じて随時行う
- ・給食会議は職員会議に含む

3. 研修報告

・法人・事業所内研修

日時	内容	場所
12月7日	乳児の心肺蘇生法・AED 使用法 乳幼児の怪我の処置	保育園ホール
6月31日	衛生管理委員会主催「衛生講話」	なかよしホール

・外部研修

研修名	日時	場所
保育総会	5月25日	ホルトホール
大分県保育連合会 専門職員研修会	5月27～28日	ホテル日航大分オアシス
熱中症予防指導員研修	6月17日	Zoom
保育コーディネーターフォローアップ研修	6月20日	大分商工会議所
大分市4地区合同研修（つながりあそびうた）	7月27日	大分県教育会館
大分県保育連合会主催 令和6年度監事・園長研修	8月26～27日	ホテル日航大分オアシス
大分市4地区合同研修	9月7日	コンパルホール
大分市社会福祉協議会保育部 会主催 保育所（園）長研修会	11月20日	コンパルホール
大分県私立北協議会主催 令和6年度監事・園長研修	12月4日	ホルトホール
大分県保育連合会主催 大分県保育業研究大会	1月24日	ホテル日航大分オアシス
大分県保育連合会主催 保育コーディネーターフォローアップ研修	12月20日	大分県消費生活・男女共同参画プラザ
大分県保育事業大会 大分市保育部会	12月21日	大分県教育会館
大分県保育連合会主催 大分県保育業研究大会	1月24日	ホテル日航大分オアシス

第2章 施設管理

避難訓練・設備管理の実施状況

毎月の避難訓練と遊具等の設備点検、安全衛生管理点検をし、異常や破損を発見した時には迅速に対処しています。

(1) 避難訓練月日

4月26日	5月31日	6月21日	7月31日	9月3日	9月26日
火災	火災 不審者	・火災	水害・火災	地震・火災	不審者・火災
10月30日	11月28日	12月27日	1月31日	2月28日	3月24日
火災・通報訓練	火災(おやつ時)	地震・火災	地震(津波)・火災	総合避難訓練	火災(降園時)

(2) 消防用設備点検

令和6年9月27日 令和7年3月31日

第3章 諸機関との連携

(1) 保護者との連携

- ・連絡帳を通して、子ども達の日々の様子を伝達するとともに、園だより・ほけんだよりを毎月1回発行しました。
- ・メーリングリストを作成し、緊急のお知らせや感染症などのお知らせを行いました。
- ・保護者アンケートを通して、ニーズの調査を行いました。(保育参加・給食試食会時)

(2) 接続園との連携

- ・2歳児の修了後の受け入れ先のこざいこども園・みのりこども園と修了児の配慮点を記録し、引き継ぎました。年3回園児交流を行いました。

(3) 相談機関や療育機関などとの連携

- ・子育てに心配のある保護者について、関係機関と連携し、出席状況や子どもの様子等の情報交換を行いました。

第4章 総括

今年度で開所5年目になりました。園児の受け入れは定員の18名の受け入れとなりました。保育に関しては、一人一人にゆつくりと関わられるようなきめ細やかな保育を提供できていると思います。特に0歳児に関しては、個々の生活スタイルに応じて安全な保育が出来るように保育士を多めに配置しています。また、離乳食やアレルギーの相談が保護者より多くあり、その都度担当保育士、栄養士が対応しアドバイスをを行い、食事に関して家庭との連

携が取れました。保育中に園児が転倒し、腕を骨折する事案があり、職員会議で事故報告し、事故を未然に防げるための対策を検討し、全職員に周知しました。今後もヒヤリハット報告を十分に行い安心安全な保育を提供していこうと思います

行事に関しては、うんどうかい・発表会と人数制限せずに保護者参加にすることにより、園での様子を保護者に見てもらい良い機会になったと同時に、園児・保護者だけでなく多世代にも参加してもらい事で、良い交流になっていると思います。また、写真を掲載して保育活動の見える化を行い、日々の様子を送迎の際には詳しく様子を伝えたり保護者とのコミュニケーションを十分に図るようにしました。

職員研修については、昨年度より集合の研修・会議が多くなり、他園との情報交換が十分にできるようになりました。また、ICT 導入により日々の保育の振り返りや保育士の業務軽減につながったと思われます。今後も引き続き法人内外の研修や事業所内での研修や勉強会を充実していき、働きやすい環境を整え、職員の質の向上に努めていきたいと考えます。また、接続園を増やし、定員超の園児の受け入れが出来るように交渉していきたいと考えます。

令和6年度なかよしひろば事業報告

第1章 療育活動

1. 療育方針

- ⑥ 発達支援 人との信頼関係を軸にしながら、一人一人の発達段階に応じた育ちを支援します
- ・年齢ではなく一人一人の生活経験や器質的な特性・発達段階に応じたクラス分けを行っています。
 - ・愛着や信頼関係、自己肯定感を丁寧に育んでいき安心感や信頼関係を軸に、順番やルールを守るといった自律する力を育てていけるよう、こども一人一人の成長段階に合わせたクラス編成と活動を実施しました。
 - ・サービス利用時間を通じて、代弁的コミュニケーション支援技法を用いた表出支援を行いました。支援者が表出モデルを見せていくことで、言語表出やジェスチャー等のサインを用いた表出が増えていきました。
 - ・学童児にはモラルスキルやソーシャルスキルトレーニング等を取り入れながら、集団適応及び対人折衝力の向上に努めました。
- ② 才能援助 様々な経験が得られる機会をつくることで、一人一人の可能性を引き出し、伸ばしたりしながら自己表現力や有用感の育ちを支援します。
- ・子ども達が主に活動内容を話し合う場を設定しました。高学年生が中、低学年生に分かりやすく説明したり、気持ちを聴いたりしながら取り組むことができました。高学年生が責任を持って話し合いをまとめ、自分たちで考えた活動が行えた時の喜びや高学年生を頼る、中、低学年生の姿が見られました。
 - ・段ボールや紙を使って剣や銃などの武器を作り、それを使って戦いごっこを楽しむことができていました。また子供たちの興味を示す、ゲーム機やパソコンも職員と一緒に作り、文字を書いたりしながら嬉しそうに再現して遊ぶ姿が見られました。
- ③ 家庭援助 子育てについての相談や学習会を通して、お互いにお子さんへの理解を深めながら育ちと暮らしを支えます。
- ・親子通園日に臨床心理士を中心とした保護者のグループミーティングを設定し、臨床心理士による子育てのアドバイスや、保護者同士が互いに近況報告や子育てのアドバイスすることで、お子さんへの理解や保護者同士の繋がりを深める機会となりました。また就学後も保護者同士の繋がりがグ

グループミーティングの機会が欲しいというニーズに応え、午後からも保護者のグループミーティングの時間も継続して行ないました。

- ・個別面談を行い、子育ての悩み、兄弟児への関わりについての相談対応を行っていました。
- ・行事の際に保護者連絡会を開催し、保護者同士が近況を伝え合ったり情報を交換したりする場を作りました。

④ 地域援助 ボランティアの要請や、相談会・研修会への協力、保育園、幼稚園、学校保健所などの関係諸機関と連携することで子どもの育ちと暮らしを支えます。

- ・昨年度に引き続き5歳児健診に参加し、母子保健との連携を継続して深めていくことができています。
- ・家庭支援等が必要なケースは、継続的に関係機関と会議を行い、情報共有し役割分担をすることで、それぞれの専門性を活かしたサポートを行いました。
- ・就学に向けた接続支援の会議を地域の保育所・こども園等で行い、保護者や関係機関と情報を共有しながら就学に向けた接続支援を行いました。
- ・継続的に就学前の児童が安心して入学を迎えられるように、小学校と相談しながら、放課後の校庭で遊んだり、学校内を見学できる機会を作り見通しを持って入学式を迎えるサポートを行いました。
- ・小学校、中学校との連携においては、保育所等訪問支援を実施するだけでなく、必要に応じて支援会議を開催し、支援の方向性についての話し合いをすることで、児童が安心して学校生活が過ごしているようにサポートを行なっています。
- ・行事の際には、学生ボランティアを募集し多くの学生が参加をしてくれています。

⑤ 心のケア 関係性の視点から子どもの心身の状態を把握し、「安心感」を軸とするメンタルケアを施すことで発達を促します。

- ・安心できる人間関係を軸に好きな遊びを楽しみ心が満たされる時間を提供して行きました。
- ・学校や園行事など、児童の疲れやストレスが溜まりやすい時期には、公園に行ったり、ゆったりと過ごせる活動内容に変更したりするなど、状態に合わせた遊びの設定を行いました。
- ・必要に応じて個別の関わりを大切にして職員と一緒に活動を考え取り組むことで信頼関係の構築に努めました。

2. 日 課

児童発達支援

時 間	内 容	具 体 的 な 活 動 内 容
9 : 3 0	登園 自由あそび 設定あそび 個別学習	ブランコやトランポリン、ボールプール等の大型遊具や三輪車、プラレール、積み木などの玩具を共有して遊びながら集団のルールや動作技能の習得を促します。 季節を感じられる設定遊びを提供し、個々の遊びから小集団の遊びへ展開していきます。
1 1 : 0 0	お集まり（※クラス別） ・集団活動・外活動 ・親子あそび ・運動あそび ・音楽あそび ・リラクゼーション	音楽、体操、絵カードやサーキットなどの集団状況を通して社会的な適応力を育てたり、身の自立を促したりするような課題設定を行います。 親子でのスキンシップ遊びを提供し愛着形成のサポートを促します。
1 1 : 3 0	昼食・おやつ 準備・片付け	集団のルールに応じることや、片付け、準備などの整理意識を育てます。
1 2 : 3 0	制作・調理実習 専門活動 降園準備	制作や鑑賞などを通して自己表出支援を行う。 今日の活動内容や次回の活動内容の確認をすることで、自己意識や先の見通しを得る力を育みます。
1 5 : 3 0	閉園	活動の記録や準備等を行います。

放課後等デイサービス ①学校休業日 ②登校日

時 間	内 容	具 体 的 な 活 動 内 容
① 1 0 : 0 0 ② 1 4 : 0 0	登園 自由遊び・個別学習	大型遊具やパズル、プラレール、積み木などの玩具を共有して遊びながら集団のルールや動作技能の習得を促します。
① 1 1 : 0 0 ② 1 6 : 0 0	お集まり 集団活動 粗大運動・芸術活動 工作活動・制作活動 調理実習・課外活動 リラクゼーション 専門活動	音楽、体操、絵カードやサーキットなどの集団状況を通して社会的な適応力を育てたり、身の自立を促したりするような課題設定を行う。

① 12:00 ② 16:30	昼食 片付け・おやつ	自己表出支援とともに、集団のルールに 応じることや、片付け、準備などとい った整理意識を育てます。
① 13:00	自由遊び 個別学習	個々の才能に着目し、伸ばしていくこ とで、自己表現力や有用感の育ちを支援 します
① ② 17:00	降園	今日の活動内容や次回の活動内容の確 認をすることで、自己意識や先の見通し を得る力を育みます。

※クラスのねらい

◎こあら・ぱんだ組（おおむね年少児まで）

- 愛着・信頼関係・自己肯定感を育てる。
- 対人意識を高める（目が合う、人を意識する、人と関わるのが楽しいと感じる等）
- 人への安心感をはぐくみ、安心感をもとに小集団で過ごしていく

◎らいおん組・きりん組（おおむね年中児）

- 人への安心感を軸にしながら、自己表現力をのばす。
- 小集団のなかで、大人との信頼関係を基盤にして、友だちへの意識を高める。
- 個々の発達段階に合わせた生活習慣や身辺自立を高める。

内 容

◎集団活動：自らが意識的に集団活動へ参加していくことで、自己意識や他者意識を高め、社会的な適応力を身につける。

- ・ 年齢ではなく児童一人一人の発達段階に合わせたクラスの集団活動に参加し、情緒的な交流機会を通じて愛着形成を促し、安心感を持って集団に参加できるよう個々に合わせた丁寧な支援を行なっています。年齢が上がるにつれて遊びの中に順番やルール等を取り入れながら、就学や母集団への移行を意識した集団活動の設定を行なってきました。

◎親子遊び：親との共感的なやりとりの中から、情緒を育てる。

- ・ 臨床心理士を中心としたグループミーティングを開催し、お子さんへの具体的な関わり方のアドバイスをを行いました。またアドバイスをした内容を保護者が親子遊びで実践することができるように支援者が関わり方のモデルを見せたり、より良い親子関係の構築を目的とした助言を場面ごとに伝えたりして行きました。

- ・ 親子遊びでは、ふれあいを通して愛着関係が築けるように、ふれあい遊びの時間を多く取り入れたり、褒めたりする機会を持てるような遊びを設定し、親子関係のサポートを行いました。

◎運動遊び:感覚意識の統合性や身体的な運動能力を高めていく(ブランコ・トランポリン・ボールプール・技巧台等)。

- ・ 屋外で体を動かして遊んだり、室内にあるトランポリンやブランコに乗ったりするなど、体を動かしながら様々な刺激を感じる機会を作りました。また夏にはプールで水遊びを楽しんだり、放課後デイでは河川プールに出掛けたりしました。
- ・ 鬼ごっこや逃走中ごっこ、サッカーやバレーボール、バドミントンなど、広い空間を使ってダイナミックに体を動かして遊ぶことができました。
- ・ 運動遊び(運動教室)の時間を週に1回行い、体を動かして遊ぶことの喜びを感じながら、苦手な運動にも取り組んでみる機会を作ることができました。

◎音楽遊び:音楽等を通してながら、共感性や場面への適応力を身につけていくとともに、自己表現や協調性が豊かに育つことを期待する(ダンス、楽器遊び等)。

- ・ 汽車ポッポなどの導入遊びでは、音楽に合わせて歩きながら友だち同士で連結をしたり、トンネルを作ったりして仲間意識や集団への所属意識を高めていきました。
- ・ 流行しているダンスを友達と一緒に踊り、仲間との一体感を感じる時間を作ることができました。

◎制作:行事用の制作活動を通してながら、季節感や創作意欲を獲得していき、自己表現力や有用感を高めていく(クリスマス用靴下、ひなかざり等)。

- ・ 季節に応じた製作活動を行いました。またスライム作りや粘土遊びなど、子どもたちが意欲的に取り組める物を準備し、楽しみながら手先の微細運動をする機会を作ることができました。
- ・ 放課後デイでは、お化け屋敷を作り1週間お化け屋敷の活動を行いました。また最終日には保護者も参加できるように行事としてお化け屋敷を行い、子どもたちがお化け役になって保護者を驚かせるなど、親子で楽しむ機会を作りました。

◎調理活動:生理的な欲求を自分の力で満たす経験や、準備から整理までの経験を得ていくことで、自立心を育てる(ホットケーキ、焼きそば等)

- ・ 調理活動を実施し、自分たちで育て収穫した野菜を調理したり様々な食材に触れたりする機会を作ることができました。子どもたちが調理したものを職員に振る舞う姿もあり、感謝されることに喜びを感じる姿がありました。

◎課外活動:公共の場に参加することなどを通して社会的なルールに対する気付きを促す(地域交流・交通機関の利用等)

- ・ 夏休みなどの長期休暇を利用して、大型商業施設や河川プールなどに出掛けています。事前に公共の場での立ち振る舞いやルール等を伝え、必要に応じて個別に声掛けをしながら社会的なルールの気付きに繋げていくことができました。
- ・ 公園に出掛け、遊具を順番に使ったり安全面で気をつけることを伝えたりしていきながら、不特定多数の人が使用する場での過ごし方やルールについて学ぶ機会を作りました。

◎リラクゼーション:活動を媒介にして他者との共感的なやりとりを経験する。また、シーツ遊びや楽器演奏などを通して情緒の安定やリフレッシュを図るとともに、他者との共感性や場面への適応力を身につけていく

- ・ シーツ遊びでは、シーツブランコを行い、シーツに包まれ揺れる感覚を楽しんだり、身を委ねたりすることができていました。シーツを使った大風では、床に寝転び、シーツが覆い被さる感触や風の流れを感じながらリラックスした時間を提供することができました。

◎専門活動:主に外部の専門家やインストラクターに依頼することで、専門性の高い発達支援が受けられる場を提供する。

- ・ ペアレントプログラムに講師を派遣して、地域の子育て世代への支援を行いました。
- ・ 作業療法士が作成した運動メニューを軸に毎週金曜日に運動教室を実施しました。

3. 行 事

- ◎ 7月・・・なかよしひろば祭り
- ◎ 7月・・・七夕製作 プール活動
- ◎ 7月下旬～8月上旬・・・放課後デイ夏季休暇外出活動
- ◎ 10月・・・親子遠足
- ◎ 11月・・・ハロウィンウィーク、お化け屋敷、芋掘り、焼き芋活動
- ◎ 12月・・・クリスマスウィーク（放課後デイ）クリスマス会（児童発達支援）
- ◎ 2月・・・がんばり賞授与式（児童発達支援）
- ◎ 3月・・・がんばり賞授与式（放課後デイ）ひな祭り会 総合避難訓練

第2章 利用者の来園状況

1. 令和6年度月別の来園状況

	児童発達支援 (人)	放課後等デイ (人)	保育所等 訪問支援 (人)	開園日数 (日)
4月	428	190	16	21

5月	432	202	23	21
6月	442	187	16	21
7月	431	186	17	22
8月	306	132	7	16
9月	395	172	19	19
10月	416	201	17	22
11月	341	183	27	20
12月	389	175	14	21
1月	374	164	11	19
2月	359	156	23	19
3月	407	197	18	21
合計	4720	2145	208	242

5. 通園の状況（令和7年3月31日現在）

幼児 59名：月、火、水、木、金曜日

学童 32名：月、火、水、木、金曜日

第3章 職員の体制

1. 職員の体制

管理者	(兼務)	1名		
児童発達支援管理責任者（専任）	1名	(兼務)	1名	
児童指導員（常勤・専任）	2名	(非常勤)	2名	
保育士（常勤・専任）	10名	(非常勤)	1名	
生活支援員（常勤・専任）	2名			
心理担当職員（常勤）	2名	(非常勤)	1名	
栄養士（常勤・専任）	1名			
看護師		(非常勤)	1名	

第4章 地域・施設交流実施状況

1. 研修会

外部

期 日	研修名	場 所	参加者
6月17日	熱中症予防指導員研修	オンライン研修	新宮貴志
6月29・30日	CDS 熊本研修会	県民交流館パレア	新宮貴志
7月9日	安全運転管理者講習会		水野尚貴

9月25日	豊肥地区合同研修会	豊後大野市役所 大野支所	新宮貴志 足立朋子 中村真子
11月20日 21日 26日	サービス管理責任者等研修会 実践研修	大分県労働福祉会館 ソレイユ	廣田千穂
11月23日	未来はばたきネット研修会	大分療育センター	新宮貴志
11月26日	第12回全国児童発達支援施設運営協議会（福岡大会）	ホテルニューオータニ博多	新宮貴志
1月26日	大分県発達障がい研究会		足立朋子 多田弥生 保毛津祥世 横山瞳子 古庄夏奈 船津輝行 橋爪麻衣 島尾祐美
2月7日	児童発達支援・放課後等デイサービス制度研修会	大分県庁	新宮貴志 足立朋子

内部

期 日	研修名	場 所	参加者
5月18日	感染症の基礎と対策について （講義及び訓練）吐物処理実践	なかよしひろば	常勤職員
5月18日	BCP（事業継続計画）について	なかよしひろば	常勤職員
5月18日	早期発見から通告までの流れを知る （虐待防止研修）	なかよしひろば	常勤職員
5月31日	衛生講習会	なかよしホール	足立朋子 多田弥生 岩下楓
6月14日	手洗いチェッカー実施訓練	なかよしひろば	常勤職員
8月10日	虐待防止・身体拘束に関する研修	なかよしひろば	常勤職員
9月14日	BCP（事業継続計画・訓練）について （講義及び訓練）	なかよしひろば	常勤職員
11月2日	インリアルアプローチについて	なかよしひろば	常勤職員
11月15日	法人全体会	なかよしホール	足立朋子

			中村真子 水野尚貴 森菜摘 柳井実奈 岩下楓
1月28日	効果的な口腔ケアについて	めぶき園	足立朋子
1月13日	いぬかいこども園・なかよしひろ ば合同研修 事例検討会 「育ちのミカタ」	なかよしホール	常勤職員
1月28日	効果的な口腔ケアについて	めぶき園	足立朋子

※法人が実施するキャリアパス研修には、対象者が適宜参加をしている。

2、個別支援会議（ 53 件）

日にち	会議内容	場所	参加者
4月16日	O・Kさん支援会議	ひがしこども園	足立朋子・廣田千穂
4月23日	O・Kさん支援会議	双葉保育園	足立朋子
4月23日	G・Tさん支援会議	新田小学校	新宮貴志 園田菜摘
5月8日	K・Tさん支援会議	豊後大野市役所	足立朋子
5月27日	T・Kさん支援会議	犬飼小学校	新宮貴志
5月30日	K・Rさん支援会議	陣屋の里	足立朋子
6月3日	I・Yさん支援会議	三重第一小学校	新宮貴志 園田菜摘
6月12日	E・Gさん支援会議	ひがしこども園	足立朋子
6月18日	N・Yさん支援会議	双葉保育園	足立朋子
6月24日	H・Rさん支援会議	菅尾小学校	新宮貴志 園田菜摘
6月26日	F・Eさん支援会議	豊後大野市役所	足立朋子
6月28日	A・Yさん支援会議	菅尾小学校	新宮貴志 園田菜摘
6月28日	O・Sさん支援会議	扇田保育園	足立朋子
7月2日	H・Tさん支援会議	おおのルンビニこども園	足立朋子・横山瞳子
7月12日	H・Kさん移行会議	元気ハウス	新宮貴志
7月16日	O・Kさん移行会議	なかよしひろば	新宮貴志・足立朋子
7月24日	S・Kさん支援会議	カンガルー保育園	新宮貴志
8月1日	W・Tさん支援会議	なかよしひろば	新宮貴志
8月5日	N・Hさん支援会議	おおのルンビニこども園	足立朋子
9月2日	O・Mさん支援会議	三重東小学校	新宮貴志 園田菜摘
9月2日	A・Yさん支援会議	にこにこ保育園	足立朋子
9月10日	S・Yさん支援会議	菅尾小学校	新宮貴志 園田菜摘
9月27日	A・Rさん支援会議	三重中学校	新宮貴志 園田菜摘

10月8日	G・Tさん支援会議	新田小学校	新宮貴志 園田菜摘
10月22日	W・Tさん支援会議	どんこの里	新宮貴志 水野尚貴
10月25日	G・Aさん支援会議	千歳保育園	足立朋子・吉野哲晴
10月29日	K・Tさん支援会議	豊後大野市役所	足立朋子
10月31日	H・Kさん支援会議	千歳小中学校	新宮貴志
11月19日	G・Aさん支援会議	千歳保育園	足立朋子・吉野哲晴
11月21日	A・Yさん支援会議	扇田保育園	足立朋子・保毛津祥世
11月22日	S・Kさん支援会議	どんぐり幼稚園	足立朋子・廣田千穂
11月28日	A・Kさん支援会議	ひがしこども園	足立朋子・中村真子
11月28日	I・Hさん支援会議	なごみ園	新宮貴志
12月6日	O・Kさん支援会議	三重東小学校	新宮貴志 園田菜摘
12月10日	Y・Sさん支援会議	三重中学校	新宮貴志 園田菜摘
12月24日	G・Tさん支援会議	新田小学校	新宮貴志 園田菜摘
1月16日	H・Mさん支援会議	なごみ園	新宮貴志
1月20日	I・Kさん支援会議	三重東小学校	新宮貴志 園田菜摘
2月4日	O・Mさん支援会議	三重東小学校	新宮貴志 園田菜摘
2月13日	H・Rさん支援会議	菅尾小学校	新宮貴志 園田菜摘
2月18日	W・Tさん支援会議	臼杵支援学校	新宮貴志 水野尚貴
2月21日	H・Yさん支援会議	すがおこども園	足立朋子 吉野哲晴
2月25日	K・Tさん支援会議	豊後大野市役所	足立朋子
3月4日	O・Mさん支援会議	三重東小学校	新宮貴志 園田菜摘
3月5日	A・Rさん支援会議	なかよしひろば	足立朋子・園田菜摘 保毛津祥世
3月5日	A・Y・Kさん移行会議	なごみ園	足立朋子
3月6日	T・Kさん支援会議	犬飼小学校	新宮貴志 園田菜摘
3月7日	O・Kさん支援会議	なごみ園	足立朋子
3月11日	G・Tさん支援会議	新田小学校	新宮貴志 園田菜摘
3月13日	T・Sさん支援会議	なかよしひろば	足立朋子 横山瞳子
3月17日	I・Yさん支援会議	三重第一小学校	新宮貴志 園田菜摘
3月21日	M・Tさん支援会議	豊後大野市役所	足立朋子
3月24日	F・Eさん支援会議	豊後大野市役所	足立朋子

※全利用児童のモニタリング会議の実施及び相談支援専門員が開催する担当者会議に出席している

3、外部機関実習

実習生氏名	受け入れ期間	学校・機関名	担当職員
衛藤 千朋	8月16日～ 8月27日	別府短期大学部 初等教育科	足立朋子
樋口 麗鳥	9月2日～ 9月12日	別府短期大学部 初等教育科	足立朋子
大分県発達障がい者 支援専門員養成研修 受講生	7月2・4・9・11・ 18・23・25日	大分県発達障がい者支 援専門員養成研修	新宮貴志
保育士3名	11月8日	保育コーディネーター 養成研修	新宮貴志

4、関係機関連携・地域支援（15件）

日にち	内容	場所	担当職員
4月11日	合同会社シェアザハウス視察対応	なかよしひろば	新宮貴志
6月14日	豊後大野市自立支援協議会児童部会	豊後大野市役所	新宮貴志
6月20日	放課後等デイサービス見学同行	元気ハウス	新宮貴志
8月2日	親と学校をつなぐ会	豊後大野市教育会館	合田紀子
8月29日	5歳児健診連絡会議	豊後大野市役所	新宮貴志 足立朋子
9月6日	豊後大野市自立支援協議会	豊後大野市役所	新宮貴志
9月24日	5歳児すこやか相談会	豊後大野市役所	新宮貴志 足立朋子
10月17日	まかせて会員養成講習会	なかよしひろば	新宮貴志
10月30日	豊後大野市自立支援協議会児童部会 視察対応	なかよしひろば	新宮貴志
11月1日	豊後大野市自立支援協議会児童部会	豊後大野市役所	新宮貴志
11月1日	豊肥地区通所支援事業所連絡会	なかよしひろば	新宮貴志 足立朋子 中村真子
1月23日	新田小学校幼保連携会議	新田小学校	足立朋子
2月14日	豊後大野市自立支援協議会児童部会	豊後大野市役所	新宮貴志
2月28日	子育てきらきらワークショップ	豊後大野市役所	廣田千穂 園田菜摘
年6回	ペアレントプログラム講師派遣	豊後大野市役所	足立朋子 多田弥生

5、施設内職員会議

日にち	内容	参加職員
4月12日	職員会議	常勤職員
5月18日	職員会議	常勤職員
6月14日	職員会議	常勤職員
7月19日	職員会議	常勤職員
8月10日	職員会議	常勤職員
9月14日	職員会議	常勤職員
10月18日	職員会議	常勤職員
11月2日	職員会議	常勤職員
12月19日	職員会議	常勤職員
1月9日	職員会議	常勤職員
2月6日	職員会議	常勤職員
3月13日	職員会議	常勤職員
5月16日	業務推進会議	管理者・主任
6月11日	業務推進会議	管理者・主任
7月9日	業務推進会議	管理者・主任
9月12日	業務推進会議	管理者・主任
10月9日	業務推進会議	管理者・主任
11月1日	業務推進会議	管理者・主任
12月19日	業務推進会議	管理者・主任
1月9日	業務推進会議	管理者・主任
2月6日	業務推進会議	管理者・主任
3月13日	業務推進会議	管理者・主任

第5章 総括

令和6年度は報酬改定による児童発達支援センターの機能強化に伴い、中核機能強化加算を算定することになり、その取り組みの一つとして地域の通所支援事業所との連携体制を深めることを目的とした豊肥地区通所支援事業所連絡会を開催しました。豊後大野市は事業所間の関係性が良く、連絡会を開催しなくても事業所間の連携が充実している地域です。しかし連絡会を開催したことで、報酬改定に伴う対応についての情報共有等を行うことができ、参加者からも次回の開催を希望する声をいただくことができました。今後は年に3回程度の開催を目標に、通所支援事業所間で成功事例の共有や課題の検討を行い、必要に応じて自立支援協議会に課題提起を行うなどの取り組みを行っていきたいと考えています。

児童発達支援は、昨年度と同様に多くのご利用希望を受け、早期の発達支援に取り組ん

できました。成長段階に応じて地域の保育所・認定こども園等で過ごす時間を増やし、地域移行を進めながら空いた定員枠にご利用希望者を入れていくなど、必要なこどもに必要な発達支援が受けられるように取り組んできました。また支援の方向性についても、職員間で検討しながら質の向上に努め自由遊びの時間の取り組み強化などにも取り組んできました。以前よりもこども同士で遊ぶ時間が増えるなど、成果が見えてきているので、引き続き支援の質向上を目指して取り組みを進めていきます。

放課後等デイサービスも同様に、支援の質向上を目指し集団活動の在り方について検討を重ねた結果、こども同士の関係性に着目し、こども同士が肯定的な感情を抱きながら集団への所属意識を高めていくという目標を設定し、支援に取り組んできました。結果として、こども同士が良好な関係性で結びつき、助け合う姿が増えたことで、支援者が介入しなくてはならない場面が減少していきました。状態が落ち着いてきたことで、少しずつ地域への移行を意識する家庭も出てきているので、取り組みを継続的に発展させながら地域への移行を丁寧に進めていきます。

保育所等訪問支援は、訪問支援の必要性がみられなくなった児童については終了を行うと共に、支援の必要性が高い児童には月に2回の訪問を行うなど、必要性に応じた訪問回数の調整を行うことで、以前よりも訪問支援にかかる事務負担を減らしつつ、ニーズの高いケースにはより丁寧に訪問支援を提供する体制を進めていくことができました。事業所評価でも概ね肯定的なフィードバックを訪問先の機関からいただくことができました。しかしまだまだ力量が及ばず、児童発達支援センターとして専門性の高いアドバイス等ができていない面もあるため、研修等への参加や事例検討などの取り組みを行い、専門性を高めながら中核機能として地域に貢献していけるように今後も取り組んでいきます。

令和6年度 こども発達支援センター大分なごみ園 事業報告

第1章 療育活動

1、療育方針

① 発達支援 基本的な生活習慣、対人関係、言語やコミュニケーションなどの力を一人ひとりの発達に合わせて伸ばす。

・個別に生じる特性や発達段階を保育士・作業療法士・社会福祉士等の多職種で総合的な視点で捉え、日常生活（遊びや活動）の中で気持ちの表出を促すための支援者による代弁的コミュニケーション支援を行っています。コミュニケーションを直接的に見る・聞く事で言葉でのやり取り・ジェスチャーやサインなどで気持ちを表出することが伸びてきています。

・基本的な生活習慣については手洗いや歯磨き、衣類や靴の着脱等の動作を児に合わせて何度も練習を繰り返すことで徐々に自立してきている子どももいます。排泄に関しては他児と一緒にトイレに行くことで排泄の意識がついてきています。朝礼・終礼や全体会議等で共通理解・共通意識を持ち、児に対して統一した支援ができるよう心掛けていきます。

・令和6年度よりクラスを3つに分けより細分化した個別的な支援を提供していくと共に児がクラスを移行し段階的なステップを踏まえて成長していけるようなスキームを構築する事ができています。

② 才能支援 環境設定を行い様々な経験が得られる機会をつくることで、個々の可能性を引き出したり、伸ばしたりしながら自己表現力の育ちを支援します。

・能力や個性に応じて、興味関心のある活動を提供し、好きな遊びを遊びこむ・制作活動等を通して自己表現が伸びてきています。制作活動では自信の顔写真を制作に取り入れる事でより興味を持ち積極的に作成に打ち込めるような環境を作ることができた。外出活動を通じて交通マナーの獲得や自然や生き物と触れ合える経験が得られる機会を提供しています。調理活動を通して、自分で作って食べることを楽しむことが出来ていました。また、園庭やホールで体をダイナミックに動かすことで、運動面で上達した子どももいました。

③ 家庭支援 子育てについての相談を通して、子どもへの理解を深め、育ちと暮らしを支えます。

・送迎時・電話、LINEを通して子どもの育ちを考えながら家庭支援を行いました。また、必要に応じて相談支援事業所の相談員と共に3者面談を実施しました。保護者の話を傾聴や共感し、子どもの育ちや子育てについて一緒に考え子育て家庭が安心して子育てをしていけるように努めました。

・ペアレントプログラムを実施し保護者の子育てに対する不安感軽減や保護者同士の横の繋がりを構築する事に助力している。

④ 地域支援 認定こども園、保育園、幼稚園、学校、保健所、医療機関等の関係諸機関と連携することで地域での子どもの育ちと暮らしを支えます。

・保育所等訪問支援にて認定こども園・保育園・幼稚園、学校等とより密に連携を行うことにより子どもたちの育ちや家庭支援につなげることができ

ました。また、各関係機関と連携してすることにより、子ども・保護者共にスムーズに就園・就学ができたように感じています。今後も、各関係機関との連携を深めて、地域で包括的に育ちを支えていきたいと考えています。

・近隣の児童発達支援・放課後等デイサービスを運営している事業所から見学依頼があった為、見学を受け入れると共に、当事業所の職員も他法人の事業所の見学を行い相互間で情報を共有している。

⑤心のケア 関係性の視点から子どもの心身の状態を把握し、「安心感」を軸とするメンタルケアを施すことで発達を促します

- ・肯定的な声かけや代弁的コミュニケーション・気持ちの受容等を行ってきました。保護者との分離に時間を要する児に関しては児の心理的負担にならないように日常的に支援する中でわかってもらえる・共感してもらえる経験を積んでいき、自己肯定感の向上や物事に取り組むための意欲の向上し大分なごみ園や職員に対して信頼関係を構築していき分離を進めていきました。
- ・保護者との分離が苦手な児に対しては無理強いせず、本児のペースに合わせ名がら無理のない範囲で分離を進めていき、職員との関係性を築き保護者との分離を行うことができた。

2、日課

児童発達支援 開園日：月～金

時 間	内 容	具 体 的 な 活 動 内 容
9 : 3 0	登園 自由遊び 個別学習	ブランコやトランポリン、ボールプール等の大型遊具や三輪車、プラレール、積み木などの玩具を共有して遊びながら集団のルールや動作技能の習得を促します。
1 1 : 3 0	お集まり ・ 集団活動・外活動 ・ 運動遊び・身体遊び ・ 音楽遊び、製作活動 ・ リラクゼーション	音楽、体操、絵カードやサーキット、からだ遊びや製作活動などの集団状況を通してルールや順番を守る等の社会的な適応力を育てたり、身の自立を促したりするような課題設定を行います。
1 1 : 5 0	昼食・おやつ 準備・片付け	楽しくお弁当を食べながら集団のルールにに応じることや、片付け、準備などの整理意識を育てます。
1 2 : 3 0	自由遊び・制作 専門活動	制作や鑑賞などを通して自己表出支援を行う。
1 2 : 4 5	降園準備	今日の活動内容や次回の活動内容の確認をすることで、自己意識や先の見通しを得る力を育みます。
1 3 : 0 0	降園	

放課後等デイサービス ①学校休業日 ②登校日

時 間	内 容	具 体 的 な 活 動 内 容
③ 1 0 : 0 0	登園	園庭、固定遊具、大型遊具やパズル、プラレール、積み木などの遊具や玩具を共有して遊びながら集団のルールや動作技能の習
④ 1 4 : 0 0	自由遊び・個別学習	

		得を促します。
③ 11:00 ④ 15:30	お集まり 集団活動 粗大運動・芸術活動 工作活動・制作活動 調理実習・課外活動 リラクゼーション 専門活動	公園遊び、買い物活動等といった集団状況を通して、社会的な適応力を育てたり、製作、調理活動などの技能的な課題設定を行います。また、からだ遊びを通してリラクゼーションや自身の身体への意識を高める。
③ 12:00 ④ 16:30	昼食・おやつ 準備・片付け	自己表出支援とともに、集団のルールに応じることや、片付け、準備などといった整理意識を育てます。
② 13:00	自由遊び 個別学習	個々の才能に着目し、伸ばしていくことで、自己表現力や有用感の育ちを支援します
② ② 17:00	降園	今日の活動内容や次回の活動内容の確認をすることで、自己意識や先の見通しを得る力を育みます。

＜内容＞

◎集団活動：自らが意識的に集団活動へ参加していくことで、自己意識や他者意識を高め、社会的な適応力を身につける。

- ・同じ利用日の幼児や児童たちとの活動や外出（調理・お出かけ・買い物）を通して、自己意識や他者意識を高めるとともに適応力を身に付ける支援を行いました。回数を重ねることで皆と同じ場面で過ごせるようになりつつある子もいます。

◎粗大運動：感覚意識の統合性や身体的な運動能力を高めていく。（ブランコ・トランポリン・ボールプール・巧技台・土管山・自転車等）

- ・園庭や遊具で思い切り体を動かすことで体の使い方が徐々にうまくなってきています。また、体力がついたことで土管山を介助なしで登ったり自転車をしっかりこぐ力がついてきました。トランポリンでも複数名で跳んでも転ばない子も増えてきています。

◎音楽活動：楽器を使った活動を通して、共感性や場面への適応力を身につけていくとともに、自己表現や協調性を豊かに育てる。（歌、ダンス、楽器遊び等）

- ・音楽や楽器に触たりリズム遊びを通して、自己表現を促しました。その結果、表現をためらっていた子どももうれしそうに表現できるようになってきたり、皆との一体感を味わえることができました。

◎工作活動：創作意欲を育てることで、自己表現力や有用感を高めていく（模型・粘土等）。

- ・段ボールや厚紙・紐等を使い、自由な発想で工作を行い自己表現をしました。プラ板づくりでは、思い思いの絵を自分たちで描いてキーホルダーにしたりして、自ら作り上げる喜びを体験することができました。

◎制作活動：行事用の制作活動を通して、季節感や創作意欲を獲得していく（こいのぼり、

クリスマスブーツ、ひなまつり等)。

・行事の飾り作り（七夕やクリスマス会など）では、はさみやクレヨン、シールなど子どもの能力に応じて、手先の機能の向上に取り組みました。集中して取り組む子どもも多く、自由な表現を肯定的に受け入れ、出来上がった喜びや達成感が子どもの意欲につながりました。

◎調理活動：生理的な欲求を自分の力で満たす経験や準備から整理までの経験を得ていくことで、自立心を育てる。（ホットケーキ・カップケーキ等）

・放課後等デイ（学童）では、調理活動にも取り組みました。その都度役割を決め、各自の能力・個性に応じて取り組みました。その結果、意欲的に取り組み、自分の力で調理したことの喜びや出来上がりの達成感を感じていました。

◎課外活動：公共の場の参加などを通して、社会的なルールのある存在の気づきを促す。（地域交流・交通機関の利用等）

・公園・お花見・散策・初詣・駄菓子屋に行くなど、公共の場の利用することで、交通マナーや社会的ルールの意識付けを行いました。

◎リラクゼーション：活動を媒介にして他者との共感的なやりとりを経験する。また、シーツ遊びや楽器演奏などを通して情緒の安定やリフレッシュを図るとともに、他者との共感性や場面への適応力を身につけていく。

・児童発達支援の活動では、主に手足ブランコやシーツ遊び、からだ遊びに取り組みました。シーツの中にくるまって揺られる心地よさやからだ遊びでの大人に身を任せる動きなど取り入れ、共感的な関わりの中で情緒の安定を図ることもできました。放デイでは別室で音楽鑑賞を行いたい子どもには場面提供を行い、一緒に音楽を楽しんだりゆっくり過ごせるよう配慮しました。

◎ソーシャルスキルトレーニング：発達に応じて、電車などの公共機関や買い物、調理など生活の流れに沿った必要なスキルが身につくよう支援する。また、保護者の希望も踏まえ、より生活に根付いた技術の習得を目指していく。

・今年度は、コロナ禍の為、電車等の公共機関を利用できませんでしたが、課外学習等では公園や神社等にてマナーや他者への配慮等が身に付く場面提供ができたと思います。

3、行 事

児童発達支援（幼児）

4月	花見（公園）
7月～8月	プール
11月	芋ほり
12月	クリスマス会
2月	おもいで会

放課後等デイ（学童）

4月	花見（公園）
7月～8月	プール
11月	芋ほり
12月	クリスマス会
3月	おもいで会

第2章 利用者の来園状況

1、令和6年度 月別の来園状況（定員：児童発達支援16名、放課後等デイサービス10名）

	児童発達支援 (人)	放課後等デイ (人)	訪問支援 (人)	児発日数 (日)	放デイ日数 (日)	1日平均利用 (人)
4月	162	247	12	21	25	17.6
5月	174	261	31	21	24	19.2
6月	185	275	30	20	25	20.2
7月	202	256	11	22	26	19
8月	175	160	5	16	21	18.6
9月	226	243	20	20	23	21.9
10月	249	270	20	22	26	21.7
11月	233	263	14	20	24	22.6
12月	240	226	16	21	23	21.3
1月	226	245	20	19	24	22.1
2月	208	231	4	18	23	21.6
3月	262	237	14	21	26	21.6
合計	2542	2914	197	241	290	20.6

保育所等訪問支援員事業（197件）

訪問施設名	登録人数	延べ人数
大分支援学校	13	61
鶴崎中学校	3	17
明治小学校	1	6
坂ノ市小学校	2	6
大分盲学校	1	5
明星幼稚園	2	4
高田幼稚園	2	4
こころの森こども園	1	2
大在愛育こども園	1	2
キッズアカデミー保育園	3	17
みのりこども園	1	3
さくら保育園	2	12
よいこの森こども園	1	1
カトリック坂ノ市幼稚園	2	2
明野台こども園	1	1
高田小学校	1	4
南大分小学校	1	1
明野東小学校	2	3
判田小学校	2	3

戸次小学校	2	4
松岡小学校	2	3
別保小学校	1	2
丹生小学校	1	1
大東中学校	1	1
犬飼中学校	3	26
稲葉学園	2	4

2、通園コースの状況（令和7年3月31日現在）

幼児 36名（幼児）：月曜～金曜

児童 69名（学童）：月曜～土曜

第3章 職員の体制

1、職員の体制

管理者（兼務）1名 児童発達管理責任者（兼務）2名

保育士（常勤）6名 保育士（非常勤）2名

児童指導員（常勤）5名

有資格

保育士・児童指導員・社会福祉士・介護福祉士・作業療法士・強度行動障害支援者

第4章 研修等実施状況

1、職員研修

<外部研修>

期日	研修名	参加者名	場所
6月29日～30日	全国児童発達支援協議会 第14回 全国職員研修会 in 熊本	後藤 伸二	くまもと献金交流館 パレア
10月18日	令和6年度障害児通所支援事業等療育担当職員基礎研修	稲津 亜理紗	大分県社会福祉介護 研修センター
1月26日	第16回大分県発達障がい研究会	後藤 伸二 加納 優 久原 恵子	大分県総合社会福祉 会館4階 大ホール

〈法人内研修（キャリアパス・事業所内研修）〉

期日	研修名	参加者名	場所
4月1日	キャリアパス研修「萌葱の郷の理念・歩み・展望について」	佐藤 千紘	なかよしホール
4月26日	キャリアパス研修「接遇・マナーについて」	佐藤 千紘	なかよしホール
5月11日	キャリアパス研修「虐待防止及び身体拘束について」 キャリアパス研修「関係性の構築に向けた事例検討」	佐藤 千紘	わくわくかん
5月25日・ 6月1, 8日	強度行動障害支援者研修	佐藤 千紘	わくわくかん

2、施設内職員会議

日にち	内容	参加職員
4月19日	職員会議	常勤職員
5月17日	職員会議	常勤職員

6月13日	職員会議	常勤職員
7月2日	職員会議	常勤職員
8月9日	職員会議	常勤職員
9月13日	職員会議	常勤職員
10月11日	職員会議	常勤職員
11月15日	職員会議	常勤職員
12月13日	職員会議	常勤職員
1月17	職員会議	常勤職員
3月21日	職員会議	常勤職員

第5章 総括

令和6年度より戸次なごみ園と合併するに伴い、児童発達支援センターに移行すると共に、大分市東部地区の児童だけでなく大南地区を含めた広域の児童に対して、自立生活に向けた対人関係を中心とした育ちを支援する事ができました。合併に伴い児童の統合の際も事前に計画を立て変化が苦手な児童に対しては事前の説明や実際に大分なごみ園に来所していただき環境に慣れてからの移行を行う事で負担を最低限に止め安心して異動を提供する事ができました。また、児童発達支援センターとして地域の関係機関と今まで以上に連携を取りながら地域で子ら暮らし子育て家庭が安心して暮らせる地域資源となるように尽力できました。

併せて、ペアレントプログラムを実施しより専門的な助言やアドバイスも直接行えたことも令和6年度の実績として挙げられます。大分なごみ園が開所して12年が経ち未就学で利用をはじめた児童も高等部を卒業している現状を鑑み、成人期の福祉サービスを知ってもらうために当法人の成人期事業所見学ツアーも実施しています。

児童発達支援では36名の幼児が登録しており、総利用者数の推移として令和5年度が1,714名、令和6年度は2,542名と約1.5倍となり利用定員を1.6倍した為に総数が増加したことに比例しています。未就学児に対しては一人一人の特性合わせた関わりの中で保育園やこども園等の就園に向けた支援の取り組みや並行通園による他事業所との支援の統一を目指しました。代弁的コミュニケーション支援を中心として対人関係の育ちを促すと共に、微細運動や粗大運動を行い身体機能の向上や情緒の安定を図りました。

放課後等デイサービスでは、登録児童数が令和5年度が35名から令和6年度は69名と大幅に増加しています。要因として合併先の戸次なごみ園の登録児に放課後等デイサービス利用児が多く他事業所での受け入れが困難であった為、そのままほとんどの利用児を大分なごみ園で受け入れた事が挙げられます。登録者増加に伴い、総利用者数は令和5年度1,550名に対して令和6年度は2914名となりました。利用開所日を増やす事や人員を増員する事で大きな問題はなく日々の支援を提供する事が出来ています。

例年の活動を引き続き提供すると共に、新たに社会学習活動（買い物支援、公共交通機関の利用）などに力を入れ、社会性を身につける支援も提供することが出来ています。

保育所等訪問支援事業では、令和5年度63件、令和6年度197件と約3倍になっています。利用登録児の増加や並行通園している幼児が増えた事が要因と考えられます。訪問先の保育士や教員との情報交換や支援の統一が図れた事で包括的に地域の中で安心・充実した生活を営む一助を担う事が出来ています。

令和7年度はより質の高い支援を提供する為、内外部の研修へ参加する事でスキルアップや大分こども子育て総合支援センターとしてわくわくかん・こざいこども園と協力して地域の子育て家庭が安心して暮らせる社会の実現に向けて尽力していきます。

令和6年度

こども発達・子育て支援センターわくわくかん 事業報告

第1章 療育活動

2、療育方針

①発達支援 人との信頼関係を軸にしながら、一人一人の発達段階に応じた育ちを支援します

・年齢ではなく一人一人の生活経験や器質的な特性・発達段階に応じたクラス分けを行っています。

・愛着、信頼関係、自己肯定感を丁寧に育んでいき、安心感や信頼感を軸に、順番やルールを守るといった自律する力を育てていけるよう、こども一人一人の成長段階に合わせたクラス編成と活動を実施しています。

・いろいろな遊びや活動を通して、気持ちの表出を促すための代弁的コミュニケーション支援を行っています。

・基本的生活習慣に関しては、その子に応じて、動作のポイントやモデルを示し、環境調整を行いながら、身辺自立できるよう促しています。

・学齢児には、個々の発達に応じて対人意識、モラルスキル、SST（ソーシャルスキルトレーニング）等を取り入れながら、集団適応及び対人折衝力の向上に努めています。

②才能支援 様々な経験が得られる機会をつくることで、一人一人の可能性を引き出したり、伸ばしたりしながら自己表現力や有用感の育ちを支援します。

・能力や個性に応じて、興味関心のある活動を提供し、好きな遊びを通して自己表現ができるようになっていきます。

・制作活動では、シールを張ったり、お絵描きをしたり、紙をはさみで切ったり、折ったり、糊で貼ったり等、様々な経験を通して、製作に対する苦手意識を少なくすることができています。こういった製作活動や粘土などで微細運動の能力を高めています。

・外出活動では、駄菓子屋やドラッグストア、大型スーパーなどで買い物をしたり、地域の公園に行ったりするなどを通して、社会性を学ぶ機会を持つ子もいました。

・食育・調理活動を行うことで、自分で作ることでは食べられなかったものでも食べられるようになったり、おうちで作って食べるなど、食べることを楽しむ経験ができています。

・戸外活動では、芝生広場でサッカーや野球、アスレチックを楽しんだり、三輪車、ストライダー、自転車など練習して上達したり、他児や職員とのやりとりを楽しむことで、リフレッシュや発散、体力向上につながっています。

③家庭支援 子育てについての相談や講演会を通して、子どもへの理解を深め、育ちと暮らしを支えます。

・親子通園や保護者グループミーティングを毎週木曜日に行っており、主に臨床心理士を中心に相談したり、母親同士の親睦・情報交換の場を設けたりして、日々の子育てや子どもの育ちを一緒に考えながら家庭支援を行っています。

ます。

- ・わくわくの会を年に2回開催し、放課後等デイサービスの保護者の方の懇親や相談を含めた茶話会を開催し、保護者同士の横のつながりやお互いの情報共有ができる場の提供を行っています。同法人の就労支援A型B型、生活介護の施設で作成した物品販売も一緒に行い、就労に対してのイメージを持ってもらったり、法人の取り組みの周知も併せて行っています。

- ・事業所見学として小学校4年生以上の保護者を対象にめぶき園・どんこの里・なごみ園の見学ツアーを企画し、5組の保護者の参加がありました。

- ・がんばり賞やクリスマス会といった行事の際は保護者会を開き、お子さんの成長や日々の悩みについて話し合い、保護者同士のつながりを深めていけるよう取り組んでいます。

- ・個々の保護者の相談には丁寧に応じ、共感しながら子どもの育ちや子育てについて一緒に考えていくよう努め、必要に応じて関係機関と会議を行ったり、訪問支援につなげるなど、保護者と一緒に子どもの成長を促していけるよう家族支援を行っています。

④地域支援 ボランティアの要請や、相談会・研修会への協力、保育園、幼稚園、学校、保健所、医療機関などの関係諸機関と連携することで地域での子どもの育ちと暮らしを支えます

- ・同法人のこさいこども園との連携・協働を密に取り、また地域の保育園・こども園・幼稚園とも連携しながら、就園就学につなげることができています。

- ・発達巡回や施設支援を行うことで、さらに保育園等からの相談等に応じながら、児童発達支援へのスムーズな利用、就学に対するフォロー等行うことができています。また、児童発達支援では、併行通園する子が増え、保育所等訪問支援を行うことで保育園、こども園、幼稚園と支援の共有ができ、子どもたちのへのかかわり方のアドバイスや家庭支援につなげることができてきています。

- ・見学、体験入園や支援会議等を通して、各関係機関と連携して、子どもも保護者もスムーズに就園・就学ができていっているように感じます。今後も、各関係機関と連携を深め、地域で子どもの育ちを支えていきたいと考えています。

⑤心のケア 関係性の視点から子どもの心身の状態を把握し、「安心感」を軸とするメンタルケアを施すことで発達を促します

- ・子どもとのやりとりの中で、本人の気持ちを汲み取り、代弁を行うことで分かってもらえる経験を積み、安心感信頼感といった関係性を深めていくことで情緒の安定を促すことができてきています。また、気持ちの代弁を通した言葉のモデルを示すことでコミュニケーション能力の向上にもつながっています。

- ・幼稚園・保育園・こども園に通っているお子さんで園に行った後、リフレッシュや個別支援の必要性に応じて、午後の個別支援の時間を利用し、メンタルケアとともにライフスタイルに応じた支援に取り組んでいます。

- ・広い園庭を利用して、遊具やボール、自転車等で思い切り体を動かして遊ぶことで、心身の発散ができ、リフレッシュに繋がっています。

2、日課

児童発達支援 開園日：月～金

時 間	内 容	具 体 的 な 活 動 内 容
9 : 3 0	登園 自由遊び 個別学習	ブランコやトランポリン、ボールプール等の大型遊具や三輪車、プラレール、積み木などの玩具を共有して遊びながら集団のルールや動作技能の習得を促します。
1 1 : 0 0	お集まり（※クラス別） ・ 集団活動・外活動 ・ 親子遊び・運動遊び ・ 音楽遊び、製作あそび ・ リラクゼーション	音楽、体操、絵カードやサーキット、からだ遊びや製作活動などの集団状況を通して社会的な適応力を育てたり、身の自立を促したりするような課題設定を行います。
1 1 : 3 0	給食 準備・片付け	楽しく給食を食べながら集団のルールに応じることや、片付け、準備などの整理意識を育てます。
1 2 : 0 0	自由遊び・制作 専門活動 降園準備	制作や鑑賞などを通して自己表出支援を行う。
1 3 : 5 0	個別療育 活動 おやつ 降園	個別や少人数グループで遊具やおもちゃでの遊びを通して対人意識や愛着、信頼関係を深める。活動の中で製作やからだ遊び、課外活動、調理活動を通して技能的な課題に取り組んだり、社会的な適応力を育てていく。今日の活動内容や次回の活動内容の確認をすることで、自己意識や先の見通しを得る力を育みます。
1 5 : 3 0	閉園	活動の記録や準備等を行います。

※クラスのねらい

◎こあら・ぱんだ組

- 愛着・信頼関係・自己肯定感を育てる。
- 対人意識を高める（目が合う、人を意識する、人と関わるのが楽しいと感じる等）
- 人への安心感をはぐくみ、安心感をもとに小集団で過ごしていく

◎きりん・らいおん組

- 人への安心感を軸にしながら、自己表現力をのばす。
- 小集団のなかで、大人との信頼関係を基盤にして、友だちへの意識を高める。
- 個々の発達段階に合わせた生活習慣や身の自立を高める。

放課後等デイサービス 開園日：月～金 ①学校休業日 ②登校日

時 間	内 容	具 体 的 な 活 動 内 容
⑤ 10:00 ⑥ 14:00	登園 自由遊び・個別学習	園庭、固定遊具、大型遊具やパズル、プラレール、積み木などの遊具や玩具を共有して遊びながら集団のルールや動作技能の習得を促します。
⑤ 11:00 ⑥ 15:30	お集まり 集団活動 粗大運動・芸術活動 工作活動・制作活動 調理実習・課外活動 リラクゼーション 専門活動	地域のお祭りへの参加、公園遊び、買い物活動等といった集団状況を通して、社会的な適応力を育てたり、製作、食育活動などの技能的な課題設定を行います。また、からだ遊びや粗大運動を通してリラクゼーションや自身の身体への意識を高める。
⑤ 12:00 ⑥ 16:20	昼食・おやつ 準備・片付け	昼食・おやつを楽しみ、自己表出支援とともに、集団のルールに応じることや、片付け、準備などといった整理意識を育てます。
③ 13:00	自由遊び 個別学習	個々の才能に着目し、伸ばしていくことで、自己表現力や有用感の育ちを支援します
③ ② 17:00	降園	今日の活動内容や次回の活動内容の確認をすることで、自己意識や先の見通しを得る力を育みます。

＜内容＞

◎集団活動：自らが意識的に集団活動へ参加していくことで、自己意識や他者意識を高め、社会的な適応力を身につける。

・無理に集団活動に入れるのではなく、活動内容を具体物や写真などの視覚支援を提示したり、事前予告をするなどしながら、子ども自身が興味を示して、見通しをもって自主的に活動に参加できるよう支援しています。

◎粗大運動：感覚意識の統合性や身体的な運動能力を高めていく。(ブランコ・トランポリン・ボールプール・巧技台・築山(土管トンネル)・自転車等)

・幼児は、思いっきり体を動かすことで、自分の体の動きが徐々に理解でき、少しずつ活動が活発になった。築山の坂を援助なしで登れたり、トランポリンも膝をうまく動かして跳べるようになったりと個々の身体能力も向上していた。学童でも、トランポリンやブランコ、スペーススリングやマルチファンクションで体幹を高めたり、園庭でサッカーボールや野球、ボール投げなどすることで運動能力を高め、対人意識、集団意識の向上にもつながった。

・作業療法士による体幹や課題となる筋力の向上を目指し、アスレチックや運動遊び、忍者修行といった遊びや楽しく活動する中で、自分で自分の体をコントロールできる力を高めていけるよう取り組むことで、身体機能が向上し、それに伴って言葉や気持ちの安定、意欲や自信につながっている。

◎音楽活動：音楽活動を通して、共感性や場面への適応力を身につけていくとともに、自己表

現や協調性が豊かに育てる。(歌、ダンス、楽器遊び等)

- ・音楽や楽器に触れ、ダンスやリズム遊びを通して、自己表現を促した。自分から表現することをためらっていた子どももうれしそうに表現できるようになってきたり、ダンスをみんなの前で披露することで自信や達成感を持てたり、みんなと一緒に取り組むことで一体感を味わえることができた。

◎工作活動：創作意欲を育てることで、自己表現力や有用感を高めていく(模型・粘土等)。

- ・粘土やスライムでは、感触を楽しんだり、型抜きで自由な表現をしたりして取り組んでいた。
- ・プラ板づくりでは、思い思いの絵を自分たちで描いてキーホルダーにしたりして、自ら作り上げる喜びを体験することができた。
- ・段ボールで車やロボット、秘密基地や剣など思い思いの作品を作り、意欲や自信につなげることができた。

◎制作活動：季節に合わせた制作活動を通して、季節感や創作意欲を獲得していく(こいのぼり、クリスマスバック、ひなまつり等)。

- ・季節の飾り作り(七夕やクリスマス、がんばり賞など)やお絵かきでは、はさみやクレヨン、シールなど子どもの能力に応じて、手先の機能の向上(微細運動)に取り組んだ。集中して取り組む子どもも多く、自由な表現を肯定的に受け入れ、出来上がった喜びや達成感が子どもの意欲につながっていた。
- ・放デイでは、がんばり賞で披露する桜の木を絵具や画用紙、模造紙などを使い、みんなで制作し、頑張ったことを桜の花びらに一人一人記入して桜を完成させることが出来た。

◎食育活動：生理的な欲求を自分の力で満たす経験や準備から整理までの経験を得ていくことで、自立心を育てる。(栽培や調理活動(ホットケーキ・たこ焼き等))

- ・キュウリやトマト、サツマイモの栽培を行い、苗植え、水やり、収穫を行った。
- ・収穫物を調理することで自分たちで育てたものを食べるといった食育活動を行うことで、食べれなかった野菜が食べれたといった食育につながった。
- ・利用児同士での話し合いを通して、メニューや準備物、流れ、役割を決め、各自の能力個性に応じて、調理活動に取り組んだ。(ホットケーキやたこ焼き、アイスクリーム作りなど)その結果、意欲的に取り組み、自分の力で調理したことの喜びや出来上がりの達成感を感じていた。中には家で取り組んで家族で食べたり、料理の手伝いをしてくれるようになったという話も聞かれた。

◎課外活動：公共の場の参加などを通して、社会的なルールの存在の気づきを促す。(地域交流・交通機関の利用等)

- ・5月には萬弘寺祭りに参加したり、佐野植物公園や臼杵総合公園といった大きな公園に出かけたり、お花見散策や初詣、駄菓子屋など、公共の場の利用すること、交通マナーや社会的ルール、金銭感覚の意識を高めることができた。
- ・食育活動で使う食材等の買い物に出かけるといった、自分たちで食べ物などを購入して作ったり、みんなのおやつのお買い出しを手伝ってもらったといった体験をすることで、集団意識や自己有用感を育てていく機会となった。

◎リレーション：活動を媒介にして他者との共感的なやりとりを経験する。また、シーツ遊びや楽

器演奏などを通して情緒の安定やリフレッシュを図るとともに、他者との共感性や場面への適応力を身につけていく。

・児童発達支援の活動では、主にシーツ遊びやからだ遊びに取り組んだ。シーツの中にくるまって揺られる心地よさやからだ遊びでの大人に身を任せる動きなど取り入れ、共感的な関わりの中で情緒の安定を図ることができた。バルーン遊び（横になって上から降りてくるバルーンシーツの感覚を楽しむ）では、ゆっくりと落ち着いた雰囲気（静かな音楽を流すなど）の中で、クールダウンできたり、自分でバルーンを持つことでふわふわとシーツが揺れる感覚を楽しむことができていた。

◎親子通園：親と子ども（幼児）が一緒に来園する親子通園を毎週木曜日に設定している。臨床心理士の指導を通して、子どもとの関わり方や母親のメンタルケア、職員を媒介とした母子関係の調整、母親同士の関係作りなどを支援する。

・臨床心理士とのグループミーティングでは、育ちの悩みや喜びなど様々な意見や情報交換ができ、母親のメンタルケアや良好な親子関係の構築ができていた。また、職員と情報を共有するなど連携することで、子どもへの接し方の共通理解や統一感ができていた。

・支援学校の見学会を企画し、支援学校の説明を受けたり学校内を見学することができ、今後の進路の情報提供することができた。

・わくわくの会を企画し、保護者同士の交流会として nagomi coffee を飲みながら座談会を行うことで、保護者同士の横のつながりやメンタルケアできる場を提供することができた

◎ソーシャルスキルトレーニング：発達に応じて、コミュニケーション力の向上や買い物、調理など生活の流れに沿った必要なスキルが身につくよう支援する。また、保護者の希望も踏まえ、より生活に根付いた技術の習得を目指していく。

・利用児同士で話し合いの場を設け、活動内容を決めるといった活動を行い、お互い意見を出し合い、相手の話をよくきくことの大切さに気づく経験を積めた。意見の衝突があった場合は、職員がサポートし、相手の気持ちを代弁したり、やりとりの中で互いに折り合いをつけていけるよう支援した。自分たちで決めた活動という意識が、意欲的な姿勢に大きく影響していた。

・萬弘寺祭りや駄菓子屋などでの買い物をするといった社会経験の中で望ましい行為やマナーを身につけることに取り組んだ。

3、行 事

児童発達支援（幼児）

- 5月18日～24日 萬弘寺まつりウィーク（個別グループ）
- 9月28日（土） わくわくまつり
- 11月22日（金） 総合避難訓練
- 12月21日（土） クリスマス会
- 3月 8日（土） がんばり賞 クラスごとに分けて実施

放課後等デイ（学童）

- 5月18日～24日 萬弘寺まつりウィーク
 6月29日(土) わくわくの会
 10月11日(金) 事業所見学ツアー
 12月19日～25日 クリスマス会ウィーク
 1月11日(土) わくわくの会
 2月15日(金) がんばり賞 曜日利用児ごとに分けて実施

第2章 利用者の来園状況

1、令和5年度 月別の来園状況

	児童発達支援 (人)	放課後等デイサービス (人)	保育所等訪問支援 (人)	開園日数 (日)
4月	420	207	5	21
5月	432	204	28	21
6月	457	209	32	20(21)
7月	461	213	26	22
8月	357	161	3	18
9月	487	178	31	20(19)
10月	496	210	36	22
11月	467	182	29	20
12月	470	175	20	21(20)
1月	420	185	21	19(20)
2月	378	167	36	18(19)
3月	473	186	3	21(20)
合計	5318	2277	270	243(243)

2、通園の状況(令和7年3月31日現在)

児童発達支援 58名：月曜～金曜
 放課後等デイサービス 50名：月曜～金曜

第3章 職員の体制

1、職員の体制(令和7年3月31日現在)

管理者 (兼務) 1名
 児童発達支援管理責任者(専任) 2名
 児童指導員(常勤・専任) 3名 (常勤・兼務) 1名
 保育士(常勤・専任) 7名
 保育士(常勤・兼務) 1名 (非常勤・兼務) 3名
 作業療法士(常勤・専任) 1名
 理学療法士(常勤・専任) 1名
 心理職員(常勤・兼務) 1名
 看護師(常勤・専任) 1名 (常勤・兼務) 1名

栄養士（非常勤・専任） 1名 （常勤・兼務） 1名
 指導員（常勤・兼務） 2名

第4章 地域・施設交流・研修等実施状況

1、職員研修

〈 法人内研修（キャリアパス・事業所内研修）〉

日時	参加者	研修名	研修場所
R6. 4. 1	平川ゆき奈 紀敦子	キャリアパス研修 理事長講話「萌葱の郷の理念・これまでの の渉・展望について」	なかよしホール
R6. 4. 1	平川ゆき奈 紀敦子	キャリアパス研修 「萌葱の郷の事業内容について」第1弾 (法人内事業所見学)	各事業所
R6. 4. 26	平川ゆき奈 紀敦子	キャリアパス研修 「接遇マナー研修」 (マナー・挨拶・電話対応)	なかよしホール
R6. 5. 11	中津愛佳莉 平川ゆき奈 紀敦子	キャリアパス研修 「関係性の構築に向けた事例検討」 (五蘊)	なかよしホール
R6. 5. 11	平川ゆき奈 紀敦子	キャリアパス研修 「虐待防止及び身体拘束について」	なかよしホール
R6. 5. 31	五十嵐康子 平川ゆき奈 紀敦子	「衛生講習会」 食中毒について学ぶ	なかよしホール
R6. 6. 14	紀敦子 山口智裕 平川ゆき奈	キャリアパス研修 「感染症について」	なかよしホール
R5. 6. 29	五十嵐康子 丹生朱美 内村雅也 佐藤瑠美 木藤拓弥 竹永章紀 末松綾美 足立葵 木城愛雪 伊東直哉 松下美沙 三宮伶香 上田真理奈 中津愛佳莉 衛藤真由 松本羽菜	伝達研修「衛生講習」 ・食中毒について ・感染症について	わくわくかん

	中津留理子 平川ゆき奈 紀敦子 金田圭世		
R5. 6. 29	五十嵐康子 丹生朱美 内村雅也 佐藤瑠美 木藤拓弥 竹永章紀 末松綾美 足立葵 木城愛雪 伊東直哉 松下美沙 三宮伶香 上田真理奈 中津愛佳莉 衛藤真由 松本羽菜 中津留理子 平川ゆき奈 紀敦子 金田圭世	AED 研修	わくわくかん
R6. 7. 5	中津愛佳莉 平川ゆき奈 紀敦子	キャリアパス研修 「自閉症・発達障がい基礎知識」 (心の理論について)	法人本部会議室
R6. 7. 19	平川ゆき奈 紀敦子	キャリアパス研修 てんかんについて	なかよしホール
R6. 8. 31	五十嵐康子 丹生朱美 内村雅也 佐藤瑠美 末松綾美 小代夏美 竹永章紀 足立葵 木城愛雪 伊東直哉 松下美沙 上田真理奈 中津愛佳莉 衛藤真由 松本羽菜	伝達研修 「虐待防止及び身体拘束について」	わくわくかん

	山口智裕 中津留理子		
R6. 9. 25	丹生朱美 内村雅也 佐藤瑠美 末松綾美 木藤拓弥 紀敦子	法人内研修 「事例検討会(児童・成人別)」	なかよしホール
R6. 11. 13	平川ゆき奈 紀敦子	キャリアパス研修 AED 研修	わくわくかん
R6. 11. 15	内村雅也 佐藤瑠美 松下美沙 上田真理奈 木城愛雪	法人全体研修 「保護者対応について」	なかよしホール
R6. 11. 30	五十嵐康子 丹生朱美 内村雅也 佐藤瑠美 末松綾美 小代夏美 木藤拓弥 足立葵 木城愛雪 伊東直哉 松下美沙 上田真理奈 中津愛佳莉 衛藤真由 松本羽菜 山口智裕 中津留理子 平川ゆき奈 紀敦子 川端大智	伝達研修 虐待防止研修 「大分市子育て支援、虐待防止啓発講演 会」	わくわくかん
R6. 12. 6	五十嵐康子 丹生朱美 内村雅也 佐藤瑠美 末松綾美 小代夏美 竹永尚紀 足立葵 木城愛雪	こざいこども園・わくわくかん・プラス α 合同園内研修 「育ちのミカタを用いた事例検討会」	わくわくかん

	伊東直哉 松下美沙 上田真理奈 中津愛佳莉 衛藤真由 松本羽菜 山口智裕 中津留理子		
R7. 1. 28	平川ゆき奈	口腔ケア研修	めぶき園
R7. 2. 1	五十嵐康子 丹生朱美 内村雅也 佐藤瑠美 末松綾美 小代夏美 竹永章紀 木城愛雪 伊東直哉 松下美沙 上田真理奈 中津愛佳莉 衛藤真由 松本羽菜 山口智裕 中津留理子 平川ゆき奈 紀敦子 川端大智 北園仁文 牧穂月	防災 BCP 机上訓練 (DVD 研修含む)	わくわくかん
R7. 2. 27	丹生朱美 佐藤瑠美 末松綾美	ライフサポートセンターなごみ園 園内研修 「新1年生への配慮点について」 「なかよしひろば放課後等デイサービス 事業の取り組みについて」	ライフサポート センター なごみ園
R7. 3. 7	佐藤瑠美 松下美沙 紀敦子 川端大智	ECOAL・大分なごみ園 合同研修会 「教育の制度や教育との連携について」	大分なごみ園

〈外部研修〉

日時	参加者	研修名	研修場所
R6. 4. 6	五十嵐康子 丹生朱美 佐藤瑠美	自閉症啓発デー 講演会 「発達障がい児・者の親を支える」	Jcom ホルトホール 大分3階大会議室
R6. 5. 7	平川ゆき奈	衛生推進者養成講習	わくわくかん (ZOOM)
R6. 5. 25 6. 1 6. 8	五十嵐康子 平川ゆき奈 紀敦子 丹生朱美 (講師)	令和6年度 強度行動障害支援者養成研修	わくわくかん2階 わくわくホール
R6. 7. 10	平川ゆき奈	医療的ケア児等支援者基礎研修	別府市公会堂
R6. 7. 23 10. 16 12. 24 R7. 2. 18	丹生朱美	令和6年度相談支援従事者現任研修	大分県社会福祉介護 研修センター 大分県庁正庁ホール
R6. 7. 10 8. 22 9. 25 11. 21	平川ゆき奈	令和6年度社会福祉施設向け感染症 対応力強化リーダー養成研修	オンライン (Zoom)
R6. 7. 24 8. 21 9. 4	五十嵐康子 佐藤瑠美	令和6年度保育コーディネーターフォロー アップ専門講座 「個別の保育教育にリーダーチャートを活用 する講座」	わくわくかん2階 わくわくルーム
R6. 9. 4	足立葵	チームコミュニケーション力向上研修	大分県社会福祉会館
R6. 9. 18	内村雅也	令和6年社会福祉施設等経営支援セミナー 第5回メンタルヘルス研修	大分県社会福祉会館
R6. 10. 17 10. 18 10. 23	佐藤瑠美	2024年度サービス管理責任者等研修会 実践研修	大分県労働福祉会館 ソレイユ
R6. 10. 25	平川ゆき奈	感染症対応力強化リーダー養成研修 演習①	大分市保健所 6階大会議室
R6. 11. 5	伊東直哉 上田真理奈 中津愛佳莉	令和6年度発達障がい地域別研修会(大分市)	大分市植田行政セン ター2階大会議室
R6. 11. 12 11. 13	松下美沙	放課後等デイサービス事業所向け研修	わくわくかん ZOOM
R6. 11. 14	五十嵐康子	大分市子育て支援、虐待防止啓発講演会	大分市荷揚複合総合 施設 6階多目的大会

			議室
R6. 11. 25 11. 26	五十嵐猛 五十嵐康子	令和 6 年度 第 21 回全国児童発達支援施設運営協議会	ホテルニューオオタ ニ博多
R6. 11. 26	紀敦子	令和 6 年度発達障がい地域別研修会(別府市)	別府市中央公民館 1 階講座室
R6. 12. 14 R7. 1. 27	内村雅也	令和 6 年度医療的ケア児支援者養成研修	大分県社会福祉会館
R7. 1. 10	平川ゆき奈	医療的ケア児及び重症心身障害児の支援者向け 実地研修サービス管理責任者実践研修会	大分こども発達支援 センター やすらぎ
R7. 1. 26	内村雅也 佐藤瑠美 末松綾美 紀敦子 北園仁文 木藤拓弥	令和 6 年度発達障がい研究会	大分県社会福祉会館
R7. 1. 29	平川ゆき奈	感染症対応力強化リーダー養成研修 演習②	大分市保健所 6 階大会議室
R7. 2. 5 2. 6	五十嵐猛	令和 6 年度九州地区障害者福祉協会	宮崎市
R7. 2. 7	五十嵐康子 佐藤瑠美	令和 6 年度大分県障害児通所支援連合会研修 会 児発・放デイサービス制度研修会相談会	大分県庁 正庁ホール
R7. 3. 1	五十嵐康子 丹生朱美 内村雅也 佐藤瑠美	令和 6 年度児発と保育の 5 領域の互換性を 目指した支援計画内容の検討会	わくわくかん 2 階わくわくルーム

2、個別支援会議（17件）

日にち	会議内容	場所	参加者
4 月 30 日	R・Y さん支援会議	大在幼稚園	五十嵐康子 佐藤瑠美
5 月 9 日	T・M さん支援会議	わくわくかん	五十嵐康子
5 月 9 日	H・S さん支援会議	高田小学校	五十嵐康子
5 月 23 日	H・O さん支援会議	滝尾小学校	五十嵐康子
5 月 28 日	S・N さん支援会議	大分支援学校	五十嵐康子
5 月 29 日	T・S 支援会議	わくわくかん	松下美沙
7 月 5 日	こざいこども園併用新規利 用児支援会議	わくわくかん	五十嵐康子 内村雅也 佐藤瑠美 上田真理奈 木藤拓弥
7 月 12 日	T・S さん支援会議	宮河内幼稚園	内村雅也
8 月 2 日	W・N さん支援会議	大分こども療育センター	五十嵐康子
9 月 5 日	K・D さん支援会議	わくわくかん	五十嵐康子

			足立葵
9月5日	T・Mさん支援会議	わくわくかん	五十嵐康子 伊東直哉
9月13日	I・Yさん支援会議	わくわくかん	五十嵐康子 佐藤瑠美
10月24日	K・Nさん支援会議	坂ノ市小学校	五十嵐康子
11月13日	K・Hさん支援会議	ひまわり明野幼稚園	佐藤瑠美
11月21日	T・Mさん支援会議	わくわくかん	五十嵐康子 伊東直哉
12月17日	R・Iさん支援会議	わくわくかん	五十嵐康子
2月28日	Y・Mさん支援会議	和光こども園	五十嵐康子 佐藤瑠美

※半年に1回行うモニタリング会議の実施や相談支援専門員が開催する利用児の担当者会議（利用開始・誕生月）やモニタリング会議に参加

※家族支援（事業所内相談援助）は、毎週木曜日に個別または複数で実施

3、外部機関実習

実習生	受け入れ期間	学校・機関名	担当職員
大分県発達障がい者 支援専門員養成研修 受講生(31名)	6月3・4・17・18・24・ 25日、8月5・6・19・ 20日、9月2・3・9・ 10・30日、10月1・7・ 8・21・22日、11月11・ 12・18・19日	大分県発達障がい者支援専門 員養成研修（中級）	五十嵐康子 内村雅也
川嶋 桃佳	7月16日～7月29日	智泉幼児保育専門学校 保育学科	佐藤瑠美 小代夏美
木村 日彩 姫野 瑞貴	8月16日～8月29日	別府大学短期大学部初等教育 科	佐藤瑠美 小代夏美
藤波 心望 栗田 翼	9月2日～9月13日	別府大学短期大学部初等教育 科	佐藤瑠美 小代夏美
澤田 菜桜 早川 萌	2月28日～3月13日	智泉幼児保育専門学校 保育学科	佐藤瑠美 小代夏美

4、関係機関連携・支援（30件）

日にち	内容	場所	担当職員
4月12日	大在こども園2名 見学対応	わくわくかん	五十嵐康子
4月24日	発達障がい児巡回専門員派遣事業全体会議	荷揚複合施設	五十嵐康子
5月17日	第1回オープンスクール（ジャクエツ主催）対 応	わくわくかん	五十嵐康子 内村雅也
5月21日	東部地区私立保育園主任会議 視察見学対応	わくわくかん	五十嵐康子 内村雅也
6月11日	別府ひめやま幼稚園教員2名 施設見学対応	わくわくかん	五十嵐康子
6月26日	大分支援学校学校説明会 見学同行	大分支援学校	五十嵐康子

7月1日	大分明星幼稚園教員2名 見学対応	わくわくかん	内村雅也 佐藤瑠美
7月3日	大分明星幼稚園教員2名 見学対応	わくわくかん	内村雅也 佐藤瑠美
7月11日	エデュサポ大分 M・Sさん見学対応	わくわくかん	足立葵
7月19日	かるがもこども園教員2名 見学対応	わくわくかん	内村雅也
7月29日	大分明星幼稚園教員2名 見学対応	わくわくかん	内村雅也 佐藤瑠美
8月5日	第1回大分市幼保小連携推進協議会	植田市民行政センター	五十嵐康子
8月9日	丹生地区民生児童委員施察研修対応	わくわくかん	五十嵐康子
8月20日	大分県私立保育協議会 視察見学対応	わくわくかん	五十嵐康子 佐藤瑠美
8月22日	緑ヶ丘こども園 施設見学・相談対応	わくわくかん	五十嵐康子
8月29日	大在幼稚園教員3名 見学対応	わくわくかん	内村雅也
8月30日	大在幼稚園教員3名 見学対応	わくわくかん	五十嵐康子
9月7日	大分市保育部会4地区合同研修会	コンパルホール 3階大会議室	五十嵐康子
9月18日	木理学園 視察見学・相談対応	わくわくかん	五十嵐康子
10月10日	発達障がい児巡回専門員派遣事業全体会議	大分市役所別館	五十嵐康子 末松綾美
10月22日	大分明星幼稚園教員2名 見学対応	わくわくかん	内村雅也 佐藤瑠美
11月2日	大南・滝尾地区調理部会研修	わくわくかん	五十嵐康子
11月6日	宇佐市地域総合支援センターどんぐり6名 施設見学・相談対応	わくわくかん	五十嵐康子
11月15日	保育コーディネーター養成研修施設研修対応	わくわくかん	五十嵐康子
11月19日	第2回オープンスクール（ジャクエツ主催）対応	わくわくかん	五十嵐康子
12月20日	第2回大分市幼保小連携推進協議会	大分市役所別館	五十嵐康子
1月28日	坂ノ市病院 施設見学・相談対応	わくわくかん	五十嵐康子
2月19日	第3回大分市幼保小連携推進協議会	大分市役所別館	五十嵐康子
3月7日	施設実習連絡協議会	別府大学短期大学部	佐藤瑠美
3月19日	大分大学付属支援学校教員 見学対応	わくわくかん	五十嵐康子 中津愛佳莉

◎地域療育等支援事業「あたたか」：毎月2回水曜日（8月を除く）大在支所2階で実施

◎施設支援：めぐみ保育園・夢のくに保育園

※保育所等訪問支援事業の訪問先施設名（訪問支援件数 270件）

こざいこども園	大分市立坂ノ市小学校
旦の原保育園	大分市立別保小学校
みんなの森こども園	大分市立高田小学校
キッドワールドセカンド保育園	大分市立川添小学校

和光こども園	大分市立舞鶴小学校
大在愛育保育園	大分市立小佐井小学校
大分市立大在幼稚園	大分市立大在西小学校
ひまわり明野幼稚園	大分市立桃園小学校
大分明星幼稚園	大分市立明治小学校
大分市立舞鶴幼稚園	大分市立鶴崎小学校
ひよこのくにランド保育園	大分市立明野北小学校
やまばと幼稚園	大分支援学校
どうわこども園	大分大学付属支援学校
坂ノ市こども園	別府支援学校

5、施設内職員会議

日にち	内容	参加職員
4月2日	児発センター管理者会議	管理者・児発管
4月19日	職員会議	常勤職員
4月23日	こざい・わくわく合同主任以上会議	主任以上会議
5月11日	職員会議・クラス会議	常勤職員
6月29日	職員会議	常勤職員
8月31日	職員会議	常勤職員
9月10日	放デイ会議	放デイ職員
9月14日	職員会議	常勤職員
10月25日	こざい・わくわく合同主任以上会議	主任以上会議
11月30日	職員会議	常勤職員
1月4日	児発会議	担当職員
1月11日	職員会議	常勤職員
1月22日	こざい・わくわく合同主任以上会議	主任以上会議
2月1日	職員会議	常勤職員
3月29日	職員会議・来年度準備	常勤職員

◎児発クラス会議

- *こあら組：毎週木曜日
- *ぱんだ組：毎週月曜日
- *きりん組：毎週火曜日
- *らいおん組：毎週金曜日
- *個別：不定期水曜日

◎放デイ会議：毎週木曜日 AM

第5章 総括

令和6年度、こども発達・子育て支援センターわくわくかんは、昨年度の実績と課題を踏まえ、より質の高い発達支援と地域連携の強化を目指して事業を展開しました。本年度の取り組みと成果、今後の展望について以下の通りまとめます。

1. 発達支援・療育活動の深化

本年度も「年齢」ではなく「生活経験や特性、発達段階」に応じたクラス編成を徹底し、個々の子どもに合わせた支援を行いました。愛着・信頼関係・自己肯定感の育成を基盤とし、安心感の中で自律心や社会性を育てることを重視しました。遊びや活動を通じて気持ちの表現を促し、代弁的コミュニケーション支援や生活習慣の自立支援を個別に実施しました。学齢児には SST（ソーシャルスキルトレーニング）を取り入れ、集団適応力や対人折衝力の向上も図っております。

制作活動や外出活動、食育・調理体験など多様な経験を提供し、子どもたちの自己表現力や有用感を高めることができました。これらの活動を通じて、苦手意識の克服や新たな挑戦への意欲向上が見られ、社会性や自立心の成長に繋げていけるよう支援しています。

2. 家庭支援・保護者交流の充実

親子通園や保護者グループミーティング、わくわくの会などを通じて、保護者同士の交流や相談の場を積極的に設けました。保護者の悩みや不安に寄り添い、個別相談や関係機関との連携による訪問支援も継続しました。保護者の障害者支援施設・就労支援施設・生活介護施設等法人内の事業所見学ツアーや茶話会の開催など、家庭全体を支える体制を強化し、保護者の孤立防止や情報共有の促進に努めました。

3. 地域支援・多機関連携の推進

こざいこども園をはじめ、地域の保育園・幼稚園・小学校・支援学校や保健所等関係機関との連携を強化し、発達巡回や施設支援、地域療育等支援事業、保育所等訪問支援を積極的に実施しました。保育所等訪問支援の件数は 270 件にのぼり、併行通園する児童も増加しています。各機関との情報共有や支援会議の開催により、就園・就学へのスムーズな移行支援や早期発見・早期対応が進み、地域全体で子どもの育ちを支える体制が一層強化されるよう努めてまいりました。

4. 心のケアと安心感の重視

子どもたちの気持ちを丁寧に汲み取り、代弁や言葉のモデル提示を通じて情緒の安定やコミュニケーション力の向上を図りました。午後の個別支援や園庭での活動など、心身のリフレッシュや個別ニーズへの対応も充実させ、安心感を土台とした発達支援に努めています。

5. 行事・イベントの実施

萬弘寺まつりやわくわくまつり、わくわくの会、クリスマス会、がんばり賞など、季節や子どもの成長に合わせた多彩な行事を実施し、子どもたちの社会性や達成感を育みました。保護者会や施設見学ツアーも行い、保護者や地域とのつながりを深める機会となりました 1。

6. 利用状況・職員体制

令和 6 年度の利用者数は、児童発達支援 58 名、放課後等デイサービス 50 名と安定した利用がありました。保育所等訪問支援は 270 件と昨年度より増加し、支援ニーズの高まりを実感しています。職員体制も管理者、児童発達支援管理責任者、保育士、作業療法士、理学療法士、心理職員、看護師、栄養士など多職種で構成され、専門性の高い支援を提供できるよう努めております。

7. 研修・人材育成・連携強化

職員の資質向上に向け、法人内外の研修や事例検討、五蘊分析を活用した振り返り、スーパーバイズ、レーダーチャートによる発達段階の可視化など、昨年度以上に充実した研修を実施しました。外部機関との合同研修や実習生の受け入れ、個別支援会議・関係機関連携も積極的に行い、支援の質向上と地域連携の強化に努めました。

8. 今後の課題と展望

令和6年度からの報酬改定により、児童発達支援センターが中核的な役割が求められる中、中核機能強化の事業所として、本人支援・家族支援の充実と、地域や関係機関との連携強化、事業所内の研修の充実、外部への研修の実施に努めてまいりました。今後も大分市と連携しながら地域の中核としての役割を担っていくとともに、利用児の多様化や支援ニーズの高度化に対応するため、職員の専門性向上、ICTの活用、包括的な支援体制を構築していきたいと考えています。

9. まとめ

令和6年度は、昨年度の成果と課題を活かし、子ども一人ひとりの「安心感」と「自己表現」を大切にした支援を推進しました。家庭・地域・関係機関と連携しながら、質の高い発達支援・子育て支援に努めてまいりました。今後も、今年度取り組んできた支援の充実を図りながら、子どもたちの最善の利益のため、より包括的で柔軟な支援体制の構築を目指して取り組んでまいります。

令和6年度 相談支援事業所プラスα 事業報告

第1章 計画作成状況

	計画数	モニタリング数
障がい者	2	5
障がい児	209	412
(総数)	211	417

第2章 職員研修・協議体等実施状況

1) 研修

期 日	研 修 名	場 所
R6. 6. 26	大分市相談支援専門員事例検討会	大分市
R6. 11. 12	大分市相談支援専門員事例検討会	大分市
R7. 3. 7	大分市相談支援専門員事例検討会	大分市

R6. 7. 23	相談支援従事者現任研修	大分市
R6. 10. 16	相談支援従事者現任研修	大分市
R6. 12. 24	相談支援従事者現任研修	大分市
R6. 2. 18	相談支援従事者現任研修	大分市

2) 協議体

期 日	会 議 名	場 所
R6. 11. 29	大分市障害者自立支援協議会 分野別相談支援部会(精神・知的・発達)	大分市
R6. 12. 2	大分市障害者自立支援協議会 分野別相談支援部会(児童・医ケア)	大分市

第3章 職員体制

管理者	(専従)	1名
相談支援専門員	(専従)	1名
	(兼務)	1名

第4章 総括

令和3年度より、こども発達・子育て支援センターわくわくかん内に併設された相談支援事業所「プラスα」では、主にわくわくかんおよび同法人の大分なごみ園の利用児を対象に、計画相談・相談支援を行ってまいりました。支援内容は、子育てやお子さまの特性に関する相談にとどまらず、就園・就学や学校生活に関する相談、就労に関する相談、さらには関係機関からのご相談など、多岐にわたっています。特に、在宅での対応が難しいなど困難な状況にあるご家庭には、法人内のサービス利用や他機関との併用を積極的に提案し、生活の安定と課題解決に向けて支援を進めてきました。

また、市役所や他の相談支援事業所だけでなく、各市町村の保健所、児童相談所、こども家庭支援センター、居宅介護事業所、短期入所事業所、入所施設など幅広い関係機関と密に連携し、より適切な支援体制の構築に努めてきました。相談支援には高度な専門性と情報量が求められるため、市の自立支援協議会相談支援部会への参加や、他機関との連携・協働、情報収集や知識の習得、専門性の向上にも力を入れてきました。

今年度は相談支援専門員2名体制で、新規利用児の受け入れとともに、継続的に利用児者のニーズに沿った支援プランを提案し、きめ細やかな相談支援を行うことに努めてまいりました。来年度は「相談支援事業所プラス」と統合し、相談支援専門員3名体制へと強化されます。今後もより一層、専門性の向上と知識の習得、他機関との協働・連携に努め、利用児・者およびそのご家族に対して、丁寧な安心できる相談支援を提供してまいりたいと考えております。

